

山田町

「新たな観光拠点」

基本構想・基本計画



岩手県下閉伊郡山田町

目 次

第1編 山田町「新たな観光拠点」基本構想

1-1. 山田町の現状と課題について	1-01
1-1-1. 山田町の強みの分析	1-01
1-1-2. 山田町の課題の分析	1-10
1-2. 整備目的と整備コンセプトについて	1-21
1-3. 他地域の類似施設について（道の駅事例紹介）	1-25
1-4. 計画地周辺の現状について	1-29
1-5. 導入機能の基本方針について	1-36
1-6. 各施設の配置方針について	1-37
1-7. 整備及び管理運営手法の基本方針について	1-38

第2編 山田町「新たな観光拠点」基本計画 ～新・道の駅整備基本計画～

2-1. 整備方針及び整備コンセプトの整理	2-01
2-2. 導入機能及び施設規模の検討	2-04
2-2-1. 導入機能及びその方針	2-04
2-2-2. 町内連携を図る機能	2-16
2-2-3. 施設規模の検討（駐車場）	2-19
2-2-4. 建物施設規模の検討	2-25
2-3. 配置計画の作成	2-33
2-4. 概算事業費の算出	2-38
2-5. 整備手法及び管理運営手法の検討	2-39
2-5-1. 整備手法	2-39
2-5-2. 管理運営手法の検討	2-45
2-6. 各種手続き及び道の駅指定要件の整理	2-47
2-7. 事業スケジュールと今後の課題検討	2-48

第3編 参考資料（検討経緯）

3-1. 検討委員会での調査検討経緯	3-01
3-2. 検討専門部会等での調査検討経緯	3-11
3-3. WEB アンケート調査	3-31

第1編

山田町「新たな観光拠点」基本構想



令和元年 7月

岩手県下閉伊郡山田町

1 -1 山田町の現状と課題について

1 -1-1 山田町の強みの分析

(1) 海と山に囲まれて育まれた豊富な農林水産物がある町

山田町は、岩手県の太平洋沿岸部のほぼ中央に位置し、北部を宮古市、南部を大槌町に接しており、海岸部は湾と入江が複雑に入り組んだリアス式海岸の地理的特性を有しています。沖合では親潮と黒潮が交差する世界でも有数の漁場があり、山田湾と船越湾では多種の魚が水揚げされています。また山田湾は周囲を山々に囲まれる湾の特徴から、外洋の影響を受けにくく、複数の河川から豊富な栄養が運ばれ、波穏やかな湾内では自然環境を活かしたカキやホタテなどの養殖が盛んであります。その養殖筏が浮かぶ様子は山田町の特徴的な景観となっています。



図表 1-1 山田町の位置図



図表 1-2 山田湾に浮かぶオランダ島

出典：山田町観光協会 HP

1 -1 山田町の現状と課題について

1 -1-1 山田町の強みの分析

平成 27 年の統計によると、山田町の一次産業の生産額のうち、水産業は約 8 割を占めています。残り 2 割は、農業が約 14%、林業が約 9%となります。

山田湾で養殖されているマガキの収穫量は岩手県内で第 2 位、ホタテの収穫量は県内で第 3 位となっています。また、三陸沖漁場は世界でも有数の漁場となっており、定置網漁では、春はママス（サクラマス）、夏から秋はサバ類、イワシ類、汐子（ブリの幼魚）、スルメイカ、秋はシロザケ（秋鮭）、そのほかに、カレイ類、ソイ類、アイナメ、マンボウなど、4月から1月まで、魚市場は多種類の魚で賑わっています。



図表 1-3 山田町一次産業生産額割合

資料：山田町統計書 平成 27 年度版より作成

図表 1-4 カキ・ホタテの県内生産量

資料：海面漁業生産統計調査（2016 年）

分類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
海の幸山の幸 織笠川 魚類												サケの遡上
海の幸山の幸 山田湾 海藻類	わかめの配引き		わかめの収穫									
海の幸山の幸 山田湾 貝・ウニ類					ウニ（カゼ）の口開け							
海の幸山の幸 山田湾 貝・ウニ類												アワビの口開け
海の幸山の幸 山田湾 貝・ウニ類				ホヤ								
海の幸山の幸 山田湾 貝・ウニ類	カキ収穫											カキ収穫
海の幸山の幸 山田湾 貝・ウニ類	ホタテ収穫（通年）											
海の幸山の幸 山田湾 貝・ウニ類	赤皿貝（通年）											
海の幸山の幸 山田湾 貝・ウニ類	しうり貝（通年）											
海の幸山の幸 山田湾 山菜・キノコ										マツタケ収穫		
海の幸山の幸 山田湾 山菜・キノコ												しいたけ収穫

図表 1-5 旬のもののカレンダー

出典：山田町観光ビジョン



農林業では、豊かな山林を活かした地元の原木(ナラ)を使用し生産されたシイタケが特徴的であり、乾椎茸は「全農乾椎茸品評会」において14年連続で農林水産大臣賞を受けています。また、マツタケについても、当町は土壌や気候に恵まれ、香りが強く、品質の良いマツタケが採れることで知られています。

なお、「全農乾椎茸品評会」において10年連続で農林水産大臣賞を受賞した「名人」の称号を持つ生産者は全国で3人しかおらず、そのうち2人が山田町の生産者であり、質の高い乾シイタケを生産しています。



図表 1-6 豊富な山田産の農林水産物（出典：山田町観光協会 HP）

(2) 豊富な一次産品を活用した様々な加工品が充実した町

山田町では、豊富な一次産品を活用した様々な加工品が充実しており、それらは町のふるさと納税サイトで特産品返礼品として紹介されています。

山田町特産の海産物、シイタケを使用したものや、郷土菓子をベースにして、水産加工会社の他、道の駅「やまだ」、やまだ観光物産館とつと、さらに地元商店によって商品が開発されています。パッケージや商品名にも趣向を凝らし思わず手に取ってしまうデザインの商品が多く、日本ギフト大賞岩手賞を2015年、2017年に山田町の商品が受賞しています。



図表 1-7 伝統菓子、カキ・ホタテ加工品の一例
(出典：道の駅「やまだ」HP)

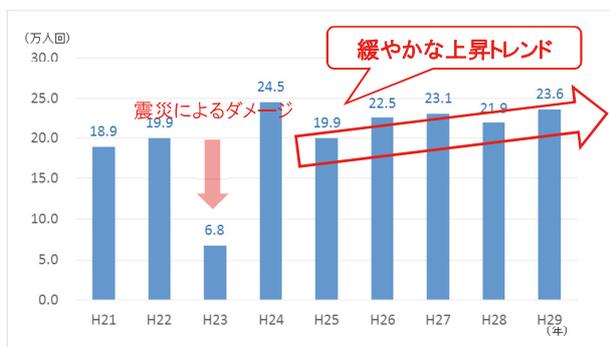


(3) 豊かな自然を活かした様々な体験アクティビティが充実した町

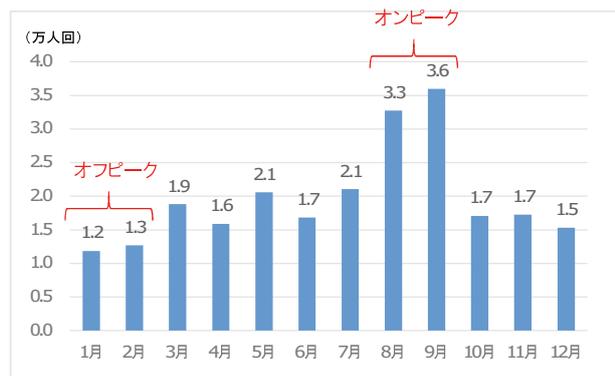
山田町の観光入込客数はおおむね 20 万人/年前後です。東日本大震災で入込客数が大きく減少したものの、平成 25 年には被災前相当まで回復し、その後、緩やかな上昇トレンドとなっています。

月別の観光入り込み客数では、オンピークが8～9月、オフピークが1～2月となっています。オンピーク時は、夏休み時期と重なることから、ファミリー層の来訪が多いと予想されます。

山田町では、「やまだワンダフル体験ビューロー」が中心となり、「海の十和田湖」と呼ばれる穏やかで風光明媚な山田湾に浮かぶオランダ島にシーカヤックで行くツアーなど、豊かな自然を活かした様々な体験アクティビティが企画・実施されています。海・山・自然体験コースでは、「ふつーの家庭に1日インターンシップ！」や、「番屋体験」、「養殖いかだの見学コース」、「カキ・ホタテ養殖・浜焼き体験」など、一次産業（漁業）に関連した体験メニューが充実しています。



図表 1-8 観光入込客数の推移
資料：岩手県観光統計



図表 1-9 山田町の平成 29 年月別観光客
資料：岩手県観光統計

海・山・自然体験

シーカヤックで山田の感動体験
【6~10月限定特別企画】無人島
島で感動シーカヤック体験!(1日1回)

漁船クルーズの「マリン・ツーリズム山田」と、カヤックの「ジオトレイル」のコラボ企画。ご要望の多い、オランダ島...

所要時間 毎回 9時開始(～10時30分) 約1時間30分

料金 一人5,000円 ※4名以上6名以下で...

[詳細情報を見る >](#)

海・山・自然体験、食・ものづくり、里・くらし体験

やまだの仕事・暮らし体験
やまだのふつーの家庭に1日インターンシップ!

漁業、農業、林業、加工業、昔ながらの手仕事をしている、山田の家庭に1日お邪魔して仕事を手伝ったり、郷土料理や手仕事を教わ...

所要時間 3時間～

料金 1名2,500円～ (1家庭つき1～4名く...)

[詳細情報を見る >](#)

食・ものづくり

かき小屋があさんによる食体験
かき小屋があさんのいかさば&いか焼き体験

かき小屋のあさんたちが、カキのオフシーズンにいかさばき方をお教えします。さばきたてのいか焼きのおいしさにも感...

所要時間 ①10時30分～12時の1時間30分 ②14時～15時30分の1時間30分 上記よりお選びください。

料金 1名1,500円 (4～30名)

[詳細情報を見る >](#)

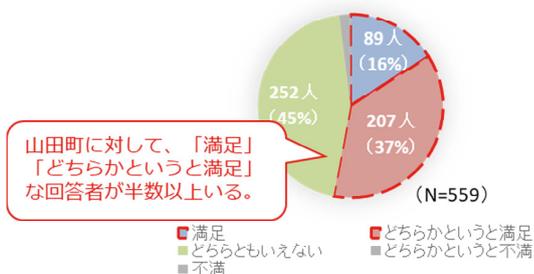
図表 1-10 体験アクティビティ概要
出典：山田町観光協会 HP

1-1 山田町の現状と課題について

1-1-1 山田町の強みの分析

仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏、三陸沿岸道路沿線市町村の居住者（15歳以上）を対象として1,500票の回収を行ったWEBアンケート調査結果によると、山田町を訪れた際の満足度は半数以上が「満足」の傾向にあり、特に「景観」「食べもの」「体験・イベント」に対する満足度は概ね高い傾向にあります。

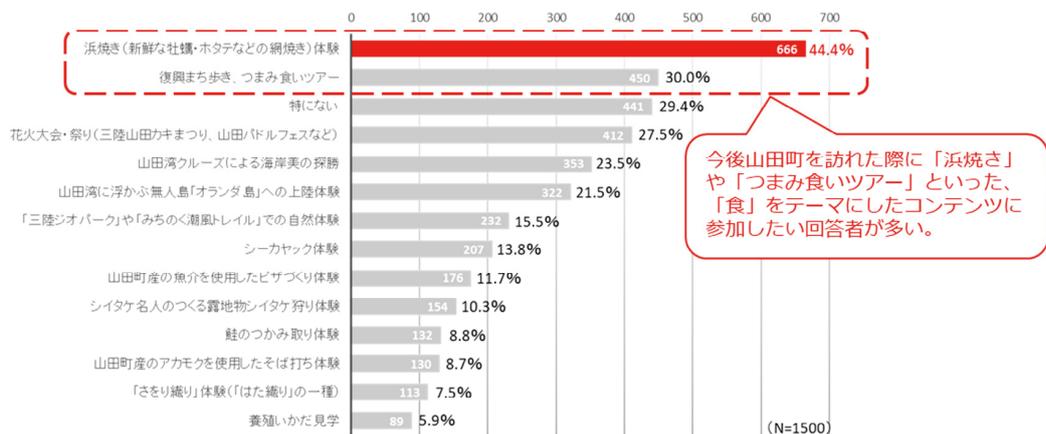
■山田町を訪れた際の満足度



■「満足」「どちらかという満足」と回答した理由

- 山田湾をはじめとする「景観」
 - ・綺麗な海と景色を楽しむことが出来ました。
 - ・養殖棚がたくさん浮かんでいる光景が壮観
 - 山田町の「食べもの」
 - ・浜焼きがこれまでに食べた魚介系の料理の中で一番おいしいと思ったからです。
 - ・新鮮な海の幸を堪能することが出来た。／・海鮮ものが安くて豊富
 - 山田町での「体験・イベント」
 - ・海水浴とキャンプをする環境が充実していた。
 - ・小島で海水浴とバーベキューを体験したが、海が綺麗で温かく非常に楽しかった。
 - ・山田湾での海釣り／地理的には不便だが、それ以上の価値がある体験ができた。
- .etc

■山田町を訪れた際に参加したいコンテンツ



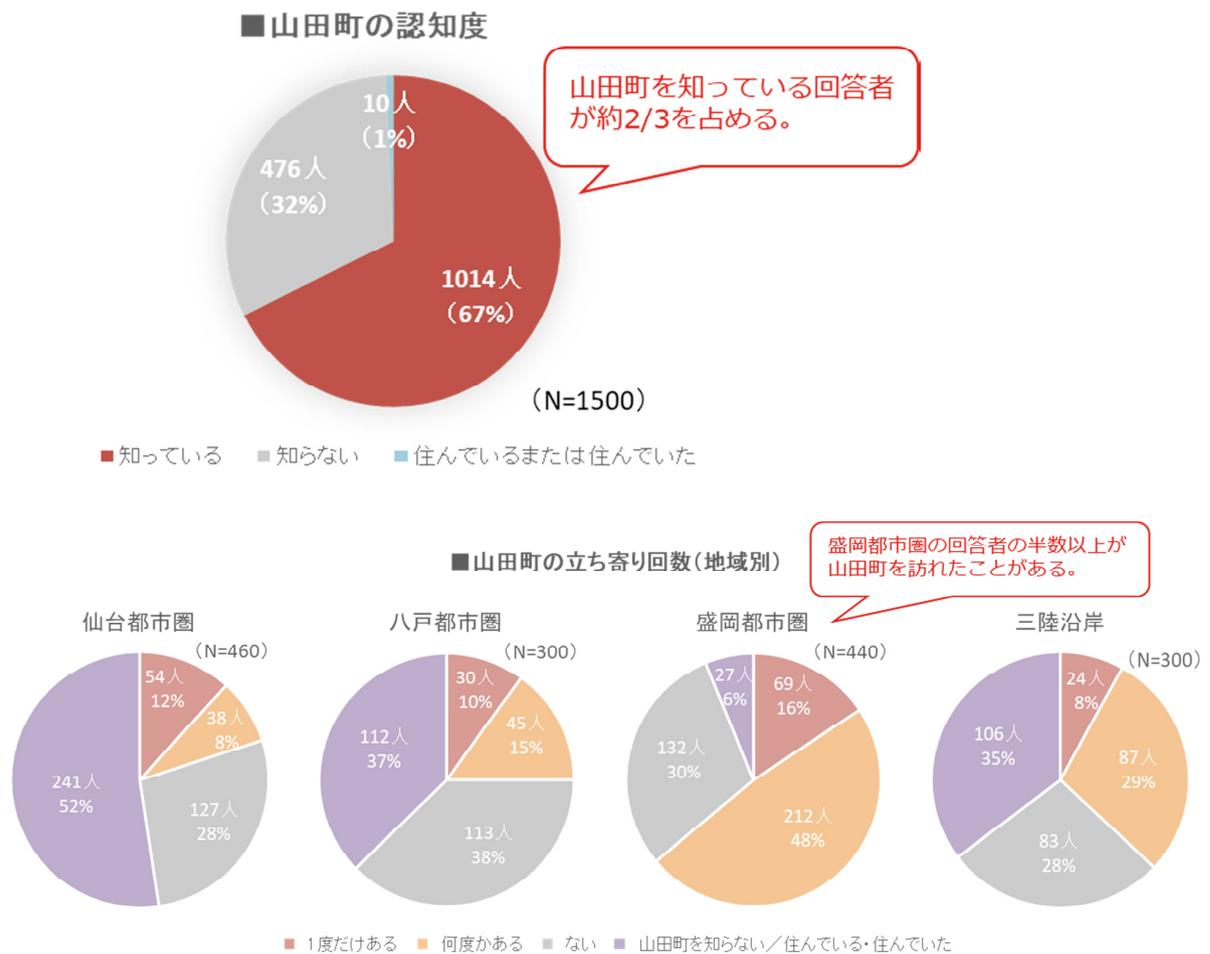
図表 1-11 WEBアンケート調査結果(山田町の観光地としての満足度)

資料：山田町「新たな観光拠点」整備に関するWebアンケート調査結果(R1.8実施)

1-1 山田町の現状と課題について

1-1-1 山田町の強みの分析

仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏、三陸沿岸道路沿線市町村の居住者（15歳以上）を対象として1,500票の回収を行ったWEBアンケート調査結果によると、山田町の認知度について「山田町を知っている」回答者は約7割となっています。エリア別にみると、盛岡都市圏の回答者が最も多く山田町を訪れている傾向にあります。山田町にアクセスしにくい仙台都市圏の回答者については、半数以上が「山田町を知らない」と回答しています。



図表 1-13 WEBアンケート調査結果（山田町の認知度）

資料：山田町「新たな観光拠点」整備に関するWebアンケート調査結果（R1.8実施）



(5) オランダ島など特徴的な歴史ストーリーのある町

山田町内では、発掘された遺物や遺構から、約 7000 年前には、漁や狩猟、植物採集をして人々が生活していたといわれています。

近世では、1643 年（寛永 20 年）にオランダ船ブレスケンス号が水や食料を求めて入港しました。山田町の人々は水と食料を提供したことから、湾に浮かぶ島が「オランダ島」と名付けられ、平成 12 年には山田町とオランダ国ザイスト市は友好都市となっています。

また、商業捕鯨が禁止される昭和 62 年まで捕鯨が盛んに行われた町であり、その歴史は「鯨と海の科学館」において語り継がれています。

図表 1-14 山田町の主な出来事

約 7000 年前頃～	当地域への居住が確認されている(遺跡)
715 年(霊亀元年)	蝦夷の“須賀君古麻比留”が「閉村に郡家を建てて下さい」という記述が『続日本紀』にあり、この頃には当地方にも国政が及んでいたことが推測される
1643 年(寛永 20 年)	山田湾にオランダ船ブレスケンス号が水・食料を求めて入港。オランダ人 10 名が南部藩に捕らえられ江戸に護送される
1889 年(明治 22 年)	飯岡村・山田村が合併し山田町となる 豊間根村・大沢村・織笠村・船越村が誕生する
1896 年(明治 29 年)	明治三陸大津波 本町の死者は約 2,950 人、負傷者は約 1,370 人、その他、家屋の流失や全壊等多くの被害を受けた
1908 年(明治 41 年)	三陸汽船が就航
1933 年(昭和 8 年)	昭和三陸大津波 本町死者・不明者は 18 人、負傷者は 12 人、その他、家屋の流失や全壊等多くの被害を受けた
1935 年(昭和 10 年)	国鉄山田線一盛岡駅～陸中山田駅間が開通
1936 年(昭和 11 年)	国鉄山田線一織笠駅、岩手船越駅が開業
1949 年(昭和 24 年)	商業捕鯨開始
1955 年(昭和 30 年)	山田町・豊間根村・大沢村・織笠村・船越村の一町四ヵ村が合併し、新山田町が誕生する。 陸中海岸国立公園の一部に指定される
1960 年(昭和 35 年)	チリ地震津波 死者は無かったが、多くの家屋の流失や全壊、床上・床下浸水等の被害を受けた
1969 年(昭和 44 年)	織笠大橋開通
1987 年(昭和 62 年)	IWC 規制により商業捕鯨終業
1997 年(平成 9 年)	定期船「おおうら」が廃止
1999 年(平成 11 年)	道の駅「やまだ」開業
2000 年(平成 12 年)	オランダ ザイスト市と友好都市締結
2002 年(平成 14 年)	三陸縦貫自動車道山田道路開通、山田南 IC と山田 IC が開業
2009 年(平成 21 年)	かき小屋開業
2011 年(平成 23 年)	東日本大震災 本町の死者・不明者は 825 人 その他、家屋の流出や全壊等多くの被害を受けた
2011 年(平成 23 年)	復興かき小屋開業
2013 年(平成 25 年)	やまだ観光物産館とっと開業
2019 年(平成 31 年)	三陸鉄道リアス線全線開通

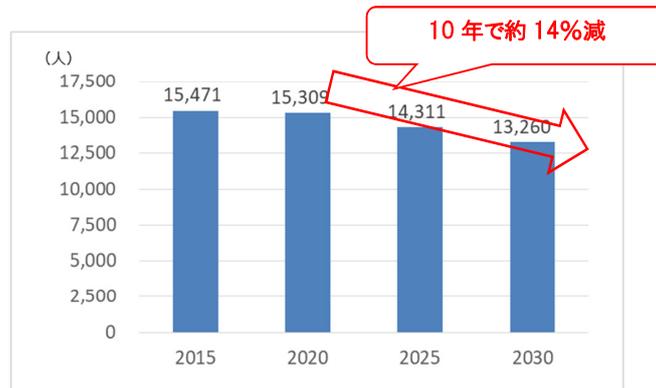
資料：山田町史、山田町観光復興ビジョン

(1) 人口減少社会において、強みである一次産業の生産基盤体制の強化が求められる

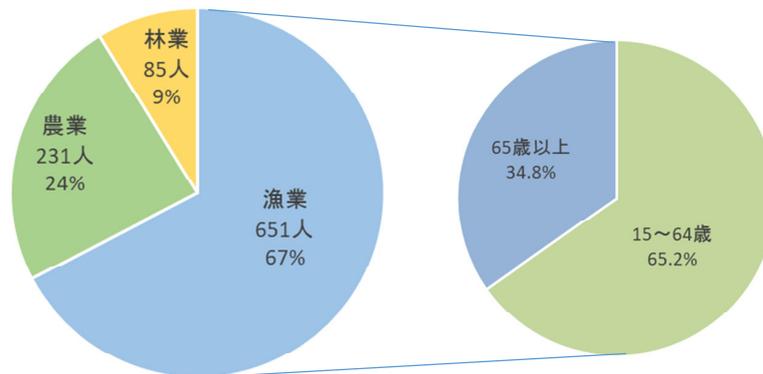
山田町総合計画人口ビジョンによると、約10年後となる2030年の将来人口は1.32万人と推計されており、2015年時点の現況1.54万人から約0.22万人（14%）減が予想されています。

第一次産業従事者についても、現状で減少傾向にあり、また、高齢者の占める割合も高いのが実態です。平成27年時点で第一次産業従事者は967人おり、そのうち農業231人、林業85人、漁業651人となっています。漁業従事者のうち、65歳以上の方が1/4以上を占めており、今後の担い手不足が懸念されています。

山田町の産業構造として、第一次産業の生産物を原材料とする食品製造業が第二次産業の基幹のひとつとなっていることや、様々な体験アクティビティも生産者とのふれあいを重視した内容が多いことから、第一次産業における従事者の確保と生産高の向上は町の全産業における重要な課題となっています。



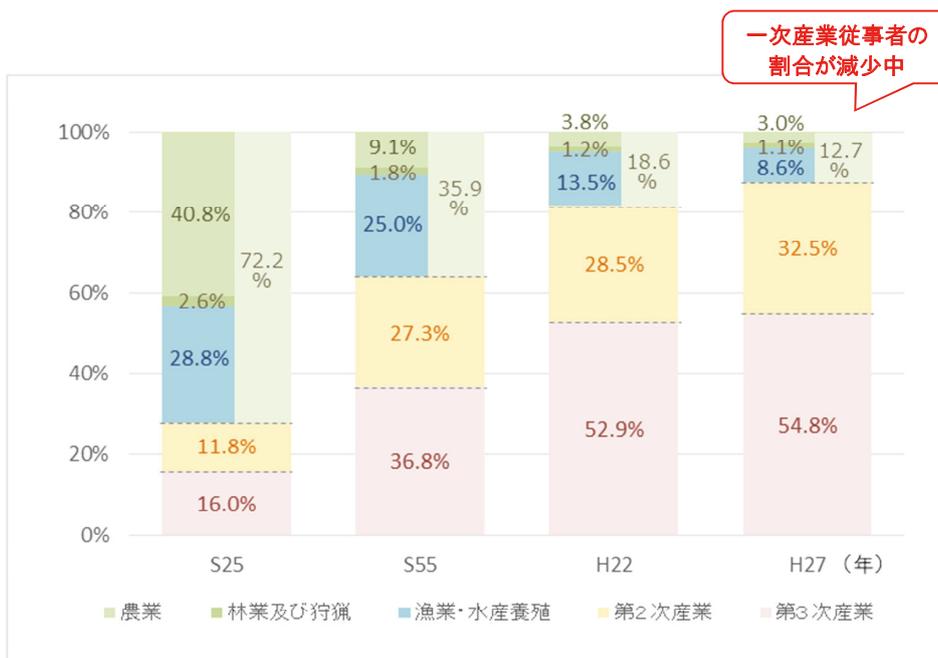
図表 1-15 町の将来人口推計
資料：山田町総合計画人口ビジョン



図表 1-16 山田町一次産業就業者の割合

図表 1-17 漁業就業者数の年代別割合 (2013年)

資料：漁業センサス



図表 1-18 産業別就業者割合の推移

資料：国勢調査

また、「全農乾椎茸品評会」において 10 年連続で農林水産大臣賞を受賞した山田町産の乾燥シイタケ、及び生しいたけは、震災以前は 10,000kg 以上の生産量でしたが、原発事故により平成 24 年に実施した検査結果から出荷制限を受けた影響で大幅に減少し、それ以降回復していない状況であります。



図表 1-19 山田町のシイタケ生産量の推移

(岩手県特用林産物統計より作成)

(2) 観光客を迎え入れるメインとなる観光拠点施設の設置が求められる

山田町には、観光の拠点施設として、道の駅「やまだ」（船越地区）、観光物産館「とっと」（大沢地区）、三陸鉄道陸中山田駅（山田地区）、鯨と海の科学館（船越地区）があります。このうち、“観光拠点”と言えるのは、道の駅「やまだ」と、観光物産館「とっと」です。山田町観光のメインの窓口としては、いずれの施設も規模は小さいものとなっています。



図表 1-20 山田町の主な地域資源分布



① 道の駅「やまだ」

当施設は（一社）山田町特産品販売共同組合によって運営されており、地域の生産物や特産品を扱う物産施設と、フードコート式の飲食施設があります。

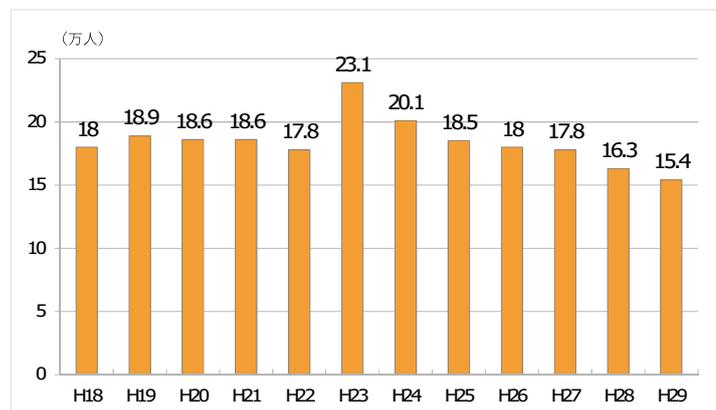
平成 29 年度の利用者数は 15.4 万人/年となっており、また消費単価は非常に高く、主な要因は、海産物、海産加工品を扱っていることで、近傍内陸市町村から魚介類を購入しに来るお客さんもいます。宅急便等で配送手配を利用する利用者も多くいます。また、地域住民の方にも多く利用されており、生鮮食品のほかに、日常的な買回り品も充実しています。

平成 23 年度では、復興時の災害拠点として機能し、営業利益も過去最高を記録しました。その後、工事関係者の減少などに伴い入込客数が減少し、平成 27 年には 18 万人を下回りました。

現状は、駐車場敷地が狭く、受け入れ可能な台数が限られていることや、三陸道 IC から 2km ほど離れていてアクセスし難いことがハンデとなっていること、売場面積が手狭となっていることが課題としてあげられます。



図表 1-21 道の駅「やまだ」外観



図表 1-23 道の駅やまだの客数の推移

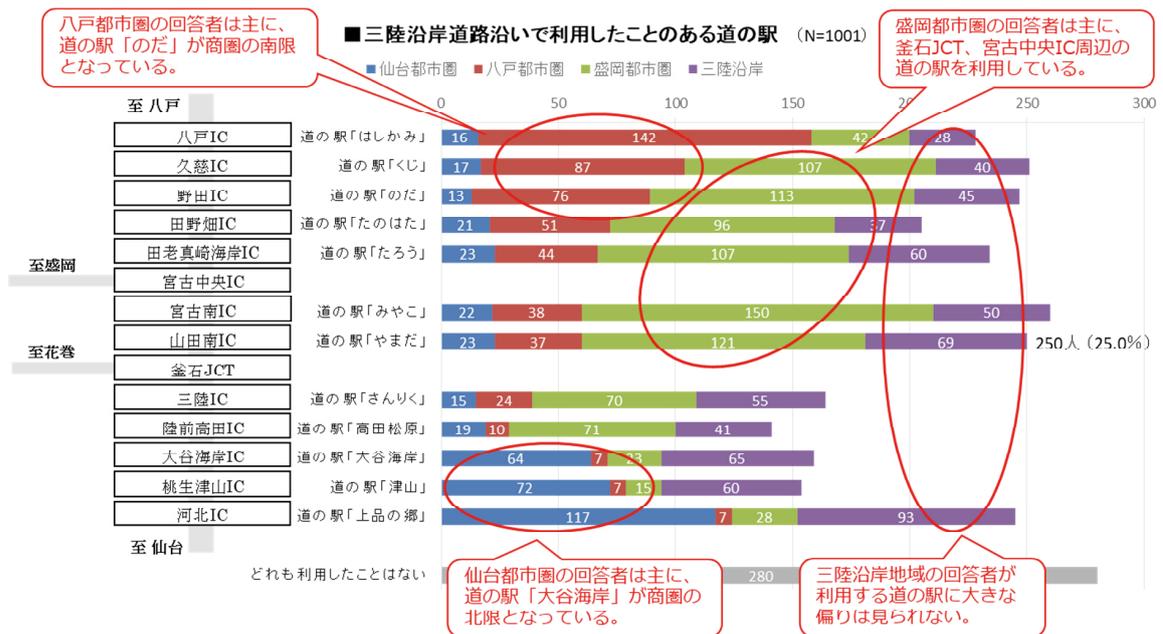


図表 1-22 地元客で賑わう道の駅

1-1 山田町の現状と課題について

1-1-2 山田町の課題の分析

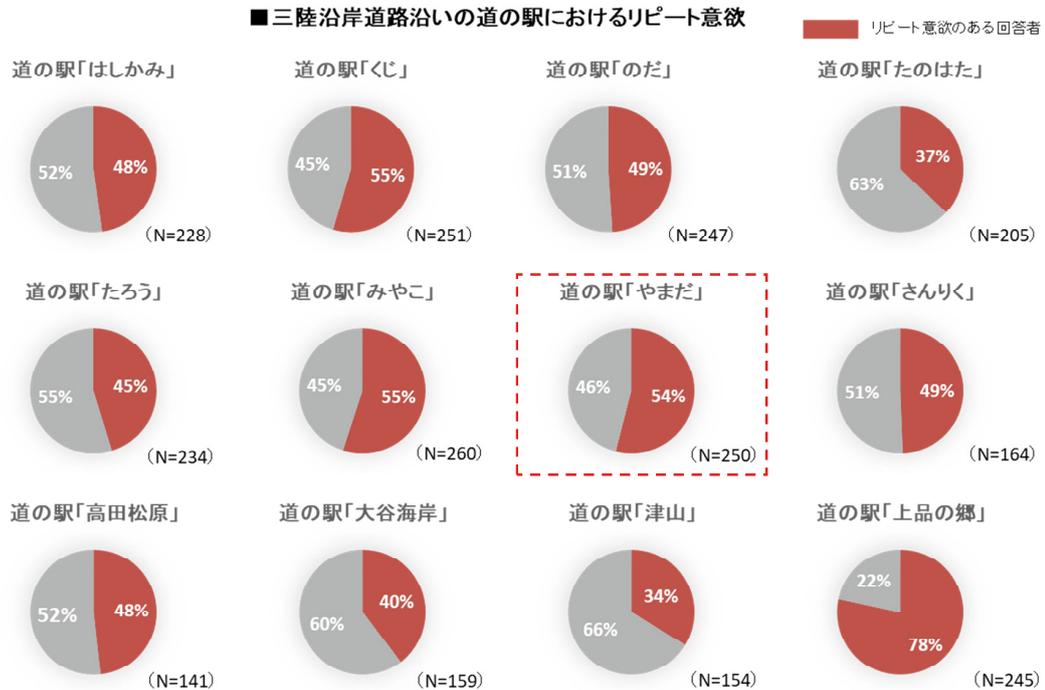
仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏、三陸沿岸道路沿線市町村の居住者（15歳以上）を対象として1,500票の回収を行ったWEBアンケート調査結果によると、三陸沿岸地域の各道の駅を利用する方の居住地の傾向として、仙台都市圏の回答者は道の駅「上品の郷」、八戸都市圏の回答者は道の駅「はしかみ」、盛岡都市圏の回答者は道の駅「みやこ」や道の駅「やまだ」を中心に利用しており、距離が遠くなるに従い利用者が減少している傾向があることがわかりました。道の駅「やまだ」では、半数近くが盛岡都市圏に居住している方の利用と見込まれます。



図表 1-24 WEB アンケート調査結果（三陸沿岸地域の道の駅を利用する方の居住地）
資料：山田町「新たな観光拠点」整備に関する Web アンケート調査結果（R1.8 実施）



三陸沿岸地域にある各道の駅の再リピートの意欲について伺ったところ、道の駅「上品の郷」に対するリピート意欲が突出して高い傾向にあり、他の道の駅については概ね似たような傾向となっています。道の駅「やまだ」については、リピート意欲が54%と比較的高く、ポジティブな意向が示されています。



図表 1-25 WEB アンケート調査結果（三陸沿岸地域の道の駅のリピート意欲）

資料：山田町「新たな観光拠点」整備に関する Web アンケート調査結果（R1.8 実施）

② 観光物産館「とっと」

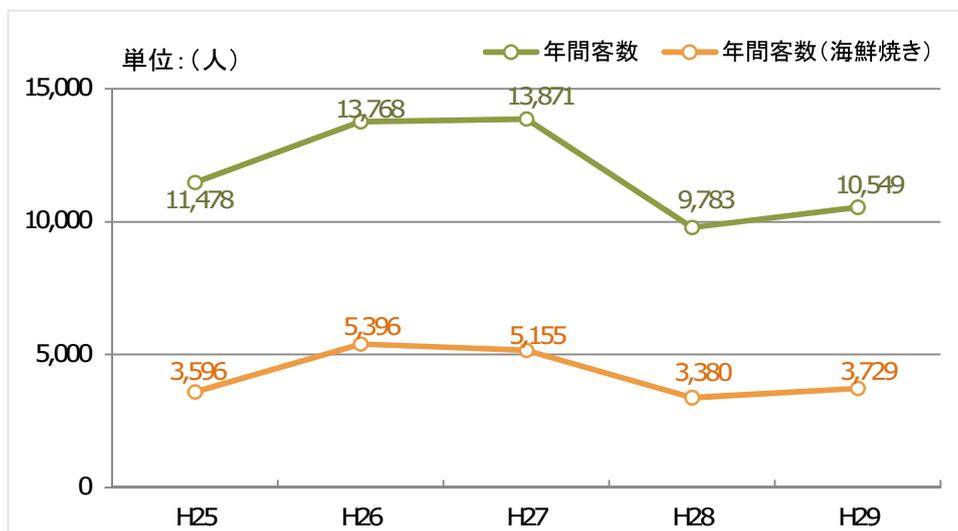
当施設は、(一社)山田町観光協会によって運営されており、生産者直送の採れたての海産物を浜焼きで味わうことができる海鮮焼きコーナーや物産販売コーナー、観光情報提供施設などがあります。平成29年度の利用者数は1.1万人/年、うち、海鮮焼きコーナーの利用者は0.4万人/年となっています。場所が分かりにくく、アクセスし難い、駐車場が狭いといった課題があります。



図表 1-26 生産者直送の貝焼きコーナー



図表 1-27 とっとの貝焼き



図表 1-28 とっとの客数の推移



(3) 交通インフラ環境の激変という好機を活かすことが求められる

復興道路整備として、三陸沿岸道路整備、及び盛岡宮古道路整備が進んでおり、将来的に盛岡市から約1時間30分、仙台市から2時間30分、八戸市から1時間55分に大きく時短することが見込まれています。(※2019年時点は町役場、市役所が基点、三陸道はICを基点) また、2018年には、宮古港(岩手県宮古市)と室蘭港(北海道室蘭市)の航路が開設され、フェリーを利用した北海道から岩手県沿岸部への新たなルートが確保されました。(2020年3月末から当面運航休止)

さらに、東日本大震災で被災したJR山田線(宮古-釜石)を含む久慈-盛間をつなぐ三陸鉄道リアス線が2019年3月に新たに開通し岩手県三陸沿岸部を縦断する(観光・生活)路線が誕生しました。

一方で、将来(H42年)の交通量推計結果では、国道45号の交通量は52百台となり、ほとんどの通過交通が三陸道へ流れるとともに、町内を通行する車の数が減少することが予想されています。



図表 1-29 高規格道路全線開通後の山田町へのアクセス時間
(出典：岩手県復興道路パンフレット)

図表 1-30 H42 将来交通量推計 (H17 センサスベース)

H42 年将来交通量	
三陸沿岸道路 (山田南 IC~山田 IC)	9,212 台/日 (大型車混入率 39.0%)
国道 45 号	5,193 台/日 (大型車混入率 6.8%)
断面計	14,405 台/日 ※H27 年比 89.7%

(出典：国土交通省三陸国道事務所)

(4) 増加するクルーズ船の利用者を取り込むことが求められる

平成 31 年～令和元年度において、宮古港に 5 隻、大船渡港に 2 隻のクルーズ船（豪華旅客船）が寄港しています。クルーズ船寄港時には、宮古港、大船渡港の各港を発着点とし、周辺地域をバスで 1 時間 30 分～8 時間程度かけて巡るオプションルツアーが組まれます。

しかし、現状オプションルツアーで山田町は立寄地に設定されておらず、特に宮古港を発着点としたオプションルツアーでは、山田町より遠方の釜石市が目的地となり、山田町は素通りされてしまっています。

今後も、同様のオプションルツアーの実施が予想されるため、クルーズ船利用者のツアーが山田町にも立ち寄ってもらうための工夫が求められます。

図表 1-31 H31 年・R 元年度 クルーズ船寄港実績

宮古港	
ダイヤモンド・プリンセス	4/25(木)
スター・レジェンド	5/8(水)
ぱしふいっくびいなす	7/4(木)
にっぽん丸	9/20(金)
	9/22(日)
大船渡港	
飛鳥Ⅱ	5/18(土)
ぱしふいっくびいなす	9/22(日)

(出典：国土交通省 東北地方整備局 HP)



図表 1-32 宮古港、大船渡港オプションルツアー 立寄地
(出典：H31・R 元年度クルーズ船パンフレット)

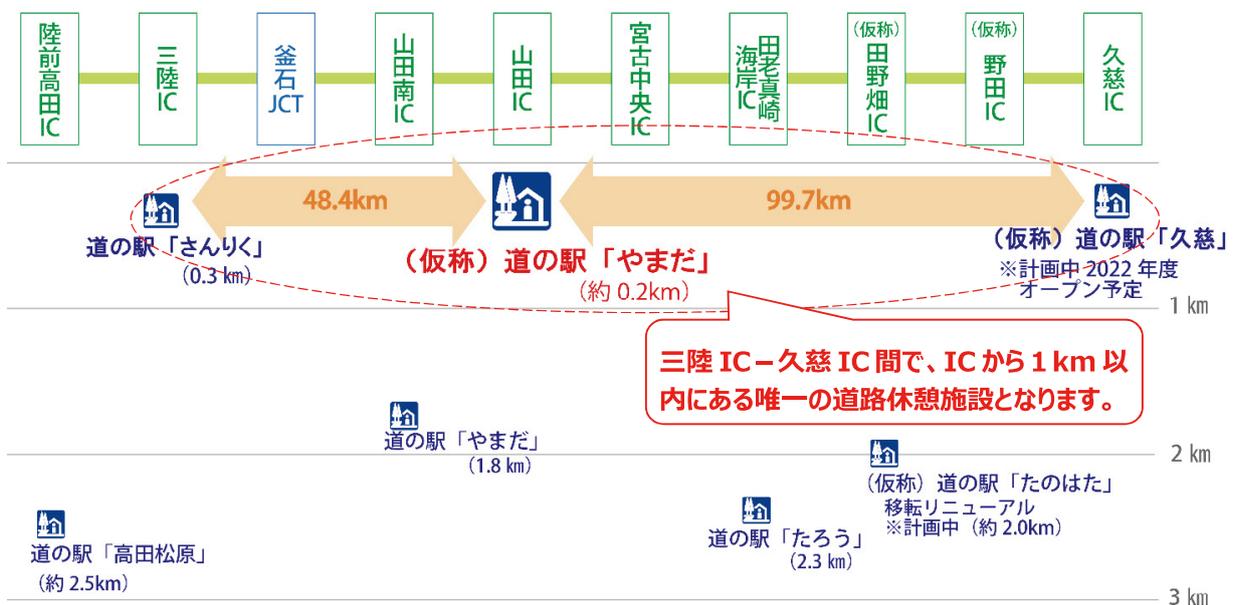
整備目的：変化する交通インフラ環境に対応し、山田町に沢山の人の呼び込み、沢山の人の喜んでもらう仕組みをつくります。

- 三陸道が全線開通することで、多くの観光客が山田町に来やすくなります。そうした外の方をおもてなしし、喜んでもらい、また来てもらう、そして地域の生産者・事業者の方も元気になる、そのような良い循環を生むことができる施設整備を目指します。
- 地元の方が日常的に憩い、楽しめ、喜ばれる施設整備を目指します。

整備方針：山田町は「新たな観光拠点」を「道の駅」として整備します。

- 事業予定地は、三陸沿岸道路 山田 IC 直近の前県立山田病院跡地とし、三陸沿岸道路に隣接している好条件を最大限活かした施設とします。
- 新たな観光拠点は、「道の駅」としての施設整備を目指します。
- 既存の道の駅「やまだ」、観光物産館「とっと」の機能移転・集約を目指します。

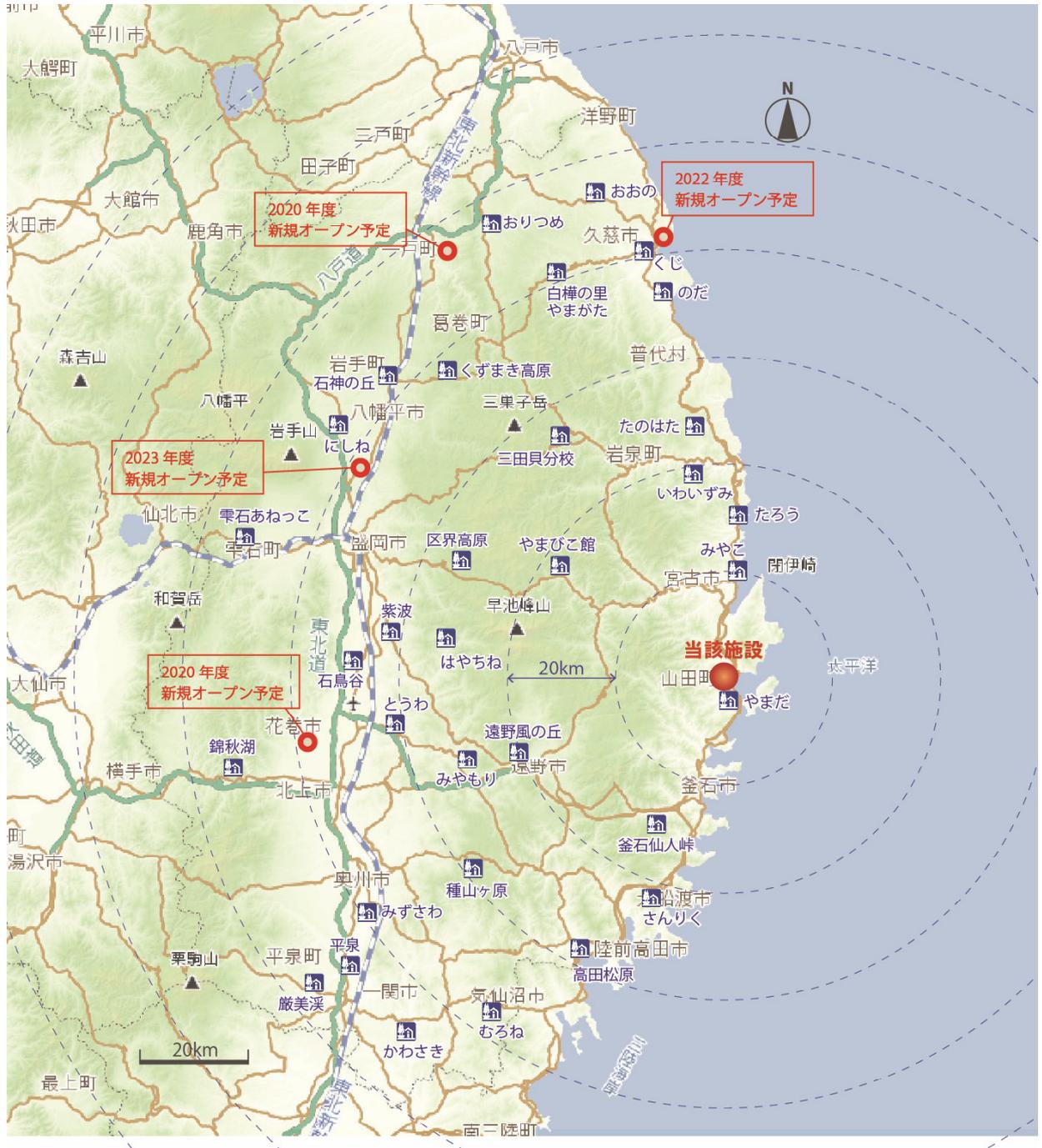
※船越にある現道の駅施設の在り方については、引き続き別途関係機関と協議します。



復興道路立ち寄りマップ（岩手県沿岸広域振興局）より作成
上記資料未掲載の施設に関しては googlemap で凡その距離を計測

図表 1-33 三陸道 IC と道の駅

岩手県内では、2019年11月に高田松原がリニューアルオープンしています。今後の予定として、2020年度以降、久慈市や一戸町、盛岡市や花巻市でも開業が予定されています。



図表 1-34 岩手県内の道の駅の分布

資料：全国道の駅連絡会「道の駅公式HP」

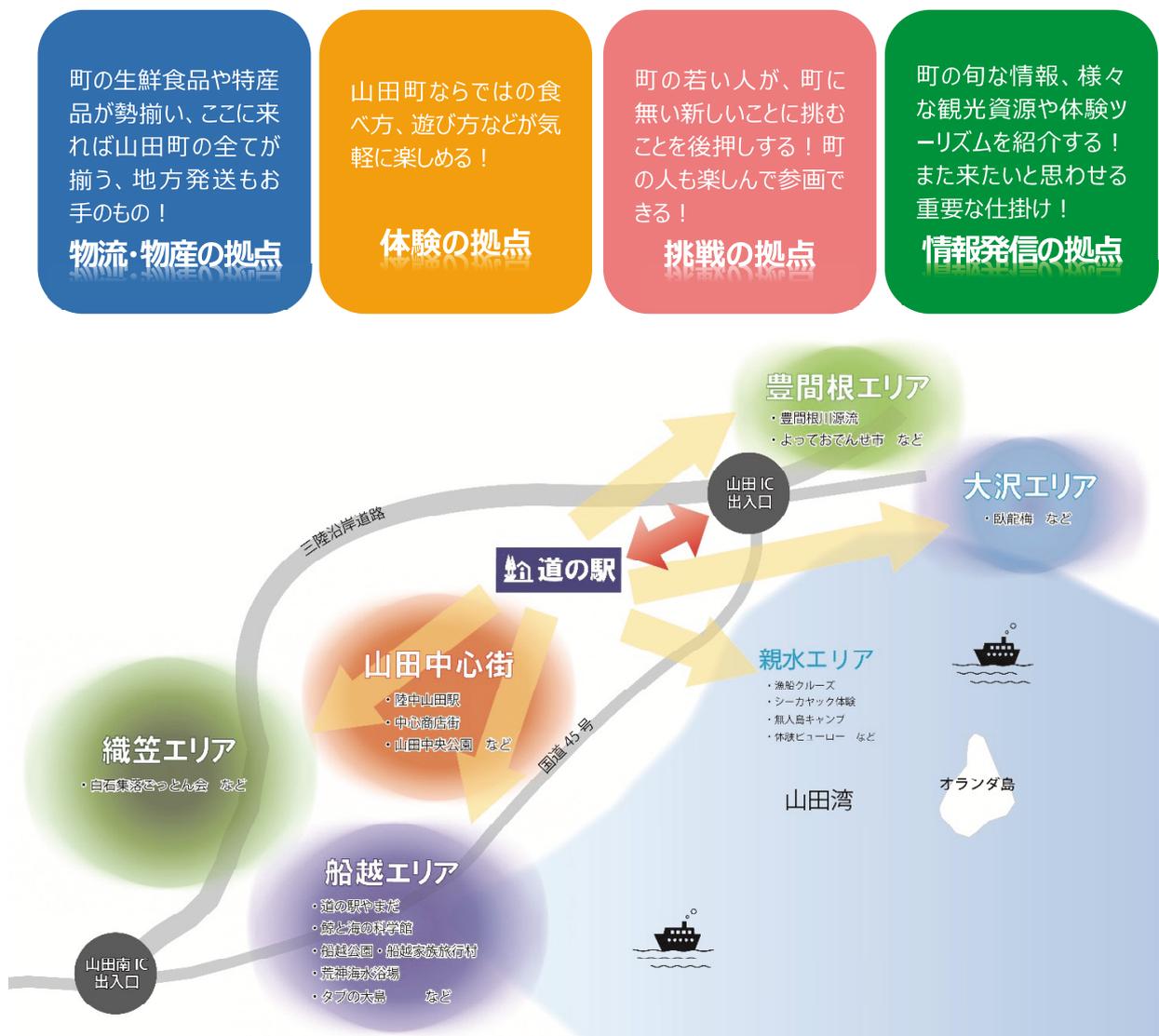


整備コンセプト：

現状と課題や道の駅のトレンド、上位・関連計画等を踏まえ、整備コンセプトを以下のように定めます。

「また来たくなる、山田町のディープな魅力が詰まった賑わいの拠点」

- 「地元客」の方に喜ばれる施設であることを前提とします。地元の方が楽しみ、様々なことに参画できる拠点を目指します。
- そのうえで、持続的な運営を実現するため、「観光客」「通過客」の方にも多く利用してもらうことを目指します。
- たまたま立寄った「通過客」が、山田町に感動し、再び町内を周遊してもらえるような仕組みを構築します。



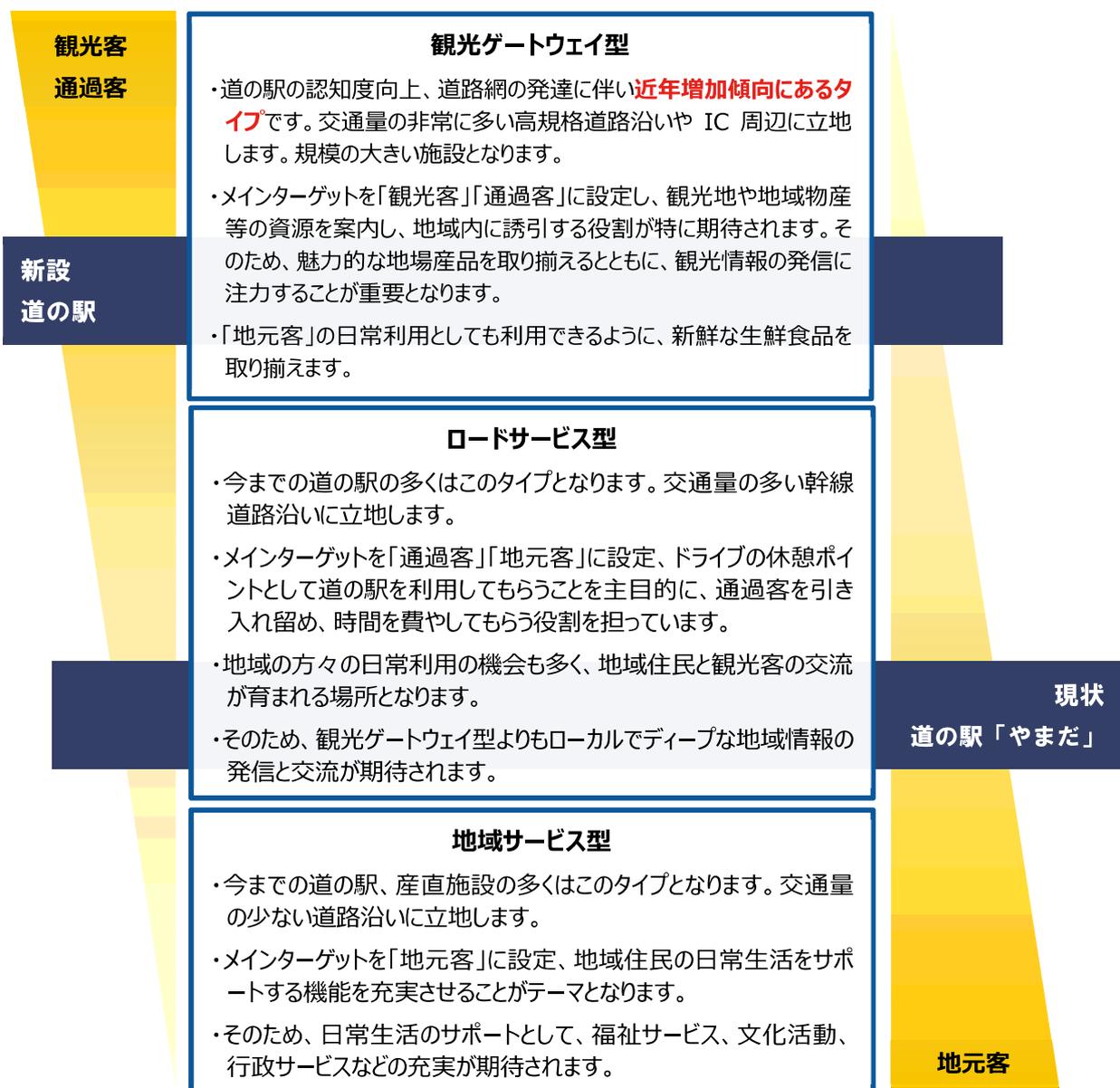
図表 1-35 町全体への波及イメージ図

新たな観光拠点は「観光ゲートウェイ型」の道の駅として計画します。

道の駅や産直施設など、地方を活性化するための商業的施設は、想定するメインの客層に向けた施設構成やサービス内容を念頭に計画準備・運営されます。その主たる対象を、「観光客」、「通過客」、「地域住民」に分けて考えることが出来ます。

- 観光客・・・目的を持って当地・当施設を訪れる人
- 通過客・・・別の目的地を目指している途中に立寄る人
- 地元客・・・当地域、及び近隣市町村に居住している人

新たな観光拠点となる道の駅は、山田 IC 直近であるため、観光客・通過客の利便性も高い位置関係にあることから、「観光ゲートウェイ型」の特性・ニーズがあると考えられます。



図表 1-36 道の駅の3類型

(1) 道の駅のテーマ性に関する好事例

1) 地域の「強み」を最大限に発揮した取り組み ～ 道の駅「日立おさかなセンター」(茨城県日立市) ～

- ・地域資源である豊富な「魚介類」を活かし、海鮮丼の具材を自由に選ぶことのできる「味勝手丼」や、店舗で食材を買って浜焼きコーナーで焼いて食べるサービスが人気の道の駅です。
- ・「味勝手丼」は、店頭で並べられた食材から好きなネタとご飯のサイズを選んだ後、まとめて精算を行うシステムになっています。また浜焼きは、最初に受付をした後、好みの食材を購入し、浜焼き終了後に席料(大人:90分 185円+税、R2年1月時点)を支払うシステムになっています。
- ・毎月第4日曜日には「日立みなとマルシェ」というイベントが開催されており、その中でも特に、利用者向けの「せり体験」は、大人から子どもまで幅広い年齢層で賑わいます。



図表 1-37 「味勝手丼」
(出典：道の駅「日立おさかなセンター」HP)



図表 1-38 浜焼きセット
(出典：茨城県観光物産会 HP)



図表 1-39 「せり体験」の様子
(出典：全国「道の駅」連絡会 HP)



図表 1-40 「日立みなとマルシェ」の様子
(出典：道の駅「日立おさかなセンター」HP)

2) 観光拠点としての取り組み ～ 道の駅「ようみいきいき館」(愛媛県今治市)～

- ・しまなみ海道の「来島海峡大橋」のたもとにあり、魚介類を使った海鮮七輪バーベキューが人気であると共に、海峡の急流が体験できる観潮船が道の駅から出航しており、観光拠点としての機能も持ち合わせた道の駅です。
- ・海鮮七輪バーベキューは、七輪コンロが1台300円(2名用)でレンタルされており、鮮魚コーナーで好みの魚介類を購入してバーベキューを楽しむことはもちろん、その他にも「BBQメニュー」として野菜や肉類の用意もされています。
- ・観潮船については、乗船手続き場所が道の駅の売店内にあり、乗船時間の20分前までに乗船手続きを済ませる必要があります。その後、「乗船券」と「ガイドマップ」が配布され、道の駅から約200m(徒歩3～5分)離れた観潮船乗り場(下田水港)に各自移動します。クルーズは所要時間が約50分、料金は大人1,500円(令和2年1月時点)となっています。



図表 1-41 鮮魚コーナーの様子
(出典：道の駅「ようみいきいき館」HP)



図表 1-42 海鮮七輪バーベキュー
(出典：道の駅「ようみいきいき館」HP)



図表 1-43 来島海峡急流観潮船の様子
(出典：道の駅「ようみいきいき館」HP)



図表 1-44 道の駅と観潮船乗り場の位置図
(出典：道の駅「ようみいきいき館」HP)



(2) 観光客誘致の取り組みに関する好事例

1) グラフィックデザイン・PRの徹底 ～ 道の駅「のと千里浜」(石川県羽咋市) ～

- ・石川県出身のグラフィックデザイナー・田中聡美氏がグラフィックデザインを担当した道の駅であり、市やJAはくいが後押しする「自然栽培」農法で作った「羽咋米」のブランド化に成功したほか、デザインを手がけたお菓子は、若い女性に人気でリピーターが続出しています。
- ・また、能登半島で爆発的に増えているイノシシによる獣害への対策として、イノシシ肉を使ったメニュー開発や、お土産開発などに取り組む「のとしし大作戦」が行われる等、イノシシの特産化に向けたPR活動が行われています。



図表 1-45 羽咋米
(出典：道の駅「のと千里浜」HP)



図表 1-46 「農菓おやつ」
(出典：道の駅「のと千里浜」HP)



図表 1-47 イノシシを活用した商品(左：「のとししミート」、中央：「のとししカレーパン」、右：「のとししレザー」)
(出典：道の駅「のと千里浜」HP)

2) 人気イベントの開催 ～ 道の駅「笠岡バイファーム」(岡山県笠岡市) ～

- ・鮮魚コーナーで毎日実施されるイベント、「魚の詰め放題」がオープン以来人気を誇る道の駅です。
- ・「魚の詰め放題」は、毎朝 10 時から開催されており、無くなり次第終了、参加料は 1 人 1,500 円(税込)というやり方で開業以来続けられています。メバルや真鯛、イカ、ゲタなど笠岡沖で獲れる新鮮な地元の魚が提供されていることから、詰め放題開始前から場所取りが行われるほどの人気を誇るイベントです。
- ・また、干拓地を使った四季の花(菜の花、ひまわり、コスモス等)も誘客に貢献しており、「魚介類」と共に「花卉類」を活かしたイベントも開催しています。



図表 1-48 魚の詰め放題
(出典：道の駅「笠岡バイファーム」HP)



図表 1-49 道の駅で楽しめる四季の花
(出典：道の駅「笠岡バイファーム」HP)



図表 1-50 2019年1月～5月実施のイベント
(出典：道の駅「笠岡バイファーム」HP)

1

-4 計画地周辺の現状について

新たな観光拠点の計画地となる、前山田病院跡地周辺の現状について整理します。

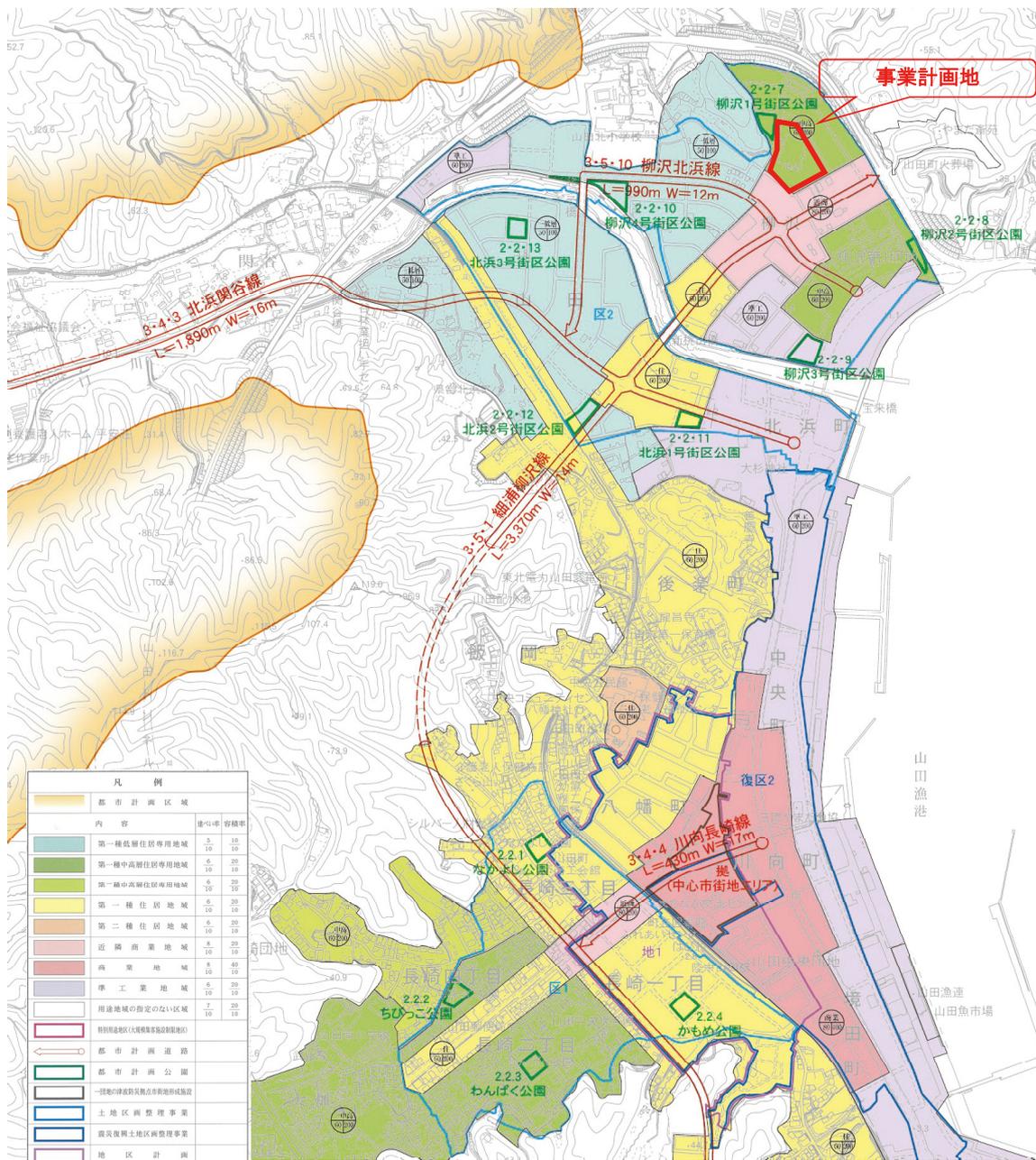


図表 1-51 事業計画地周辺の地図

資料：©NTT 空間情報

(1) 都市計画の状況

当事業計画地は、都市計画用途地域（第一種中高層住居専用地域）内で、柳沢北浜土地区画整理事業地内にあります。近隣商業用地の街区に隣接しています。



図表 1-52 都市計画図



当事業計画地は、柳沢北浜地区土地区画整理事業区域内にあります。柳沢北浜地区土地区画整理事業は、面積47.7ha、計画決定が平成8年11月22日であり、令和2年2月時点で事業中となっています。計画地の三方は幅員約5～6mの区画道路となっており、区画道路に囲まれた前山田病院跡地の敷地面積は約1.0haです。

計画地北西と南の両面に用排水路があります。当事業計画地は、都市軸となる細浦・柳沢線より50mほど奥にあり、そこに至るための町道は幅員12m程度となっています。



図表 1-53 土地区画整理事業計画図



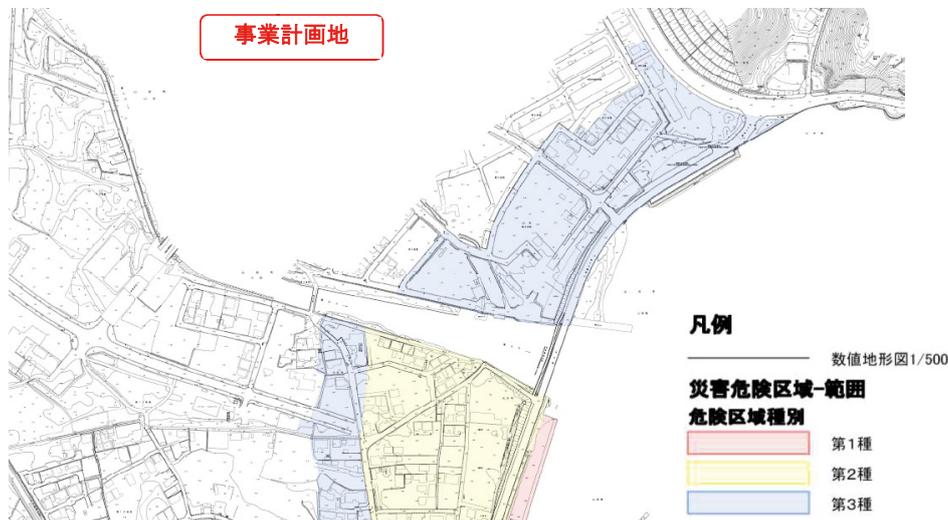
図表 1-54 土地区画整理事業計画図 (拡大)

(2) 東日本大震災大津波による災害を踏まえた土地利用制限の状況

当事業計画地は、東日本大震災で浸水しています。一方で、災害危険区域（建築基準法第39条に基づき条例で指定された津波等による危険の著しい区域）からは外れているため、過去2番目の大きさの津波（明治三陸大津波）に対応できる防潮堤の整備後は東日本大震災と同等の津波が発生しても浸水被害のおそれがない地域となっております。



図表 1-55 津波による山田町の浸水範囲



図表 1-56 災害危険区域図（山田地区1）



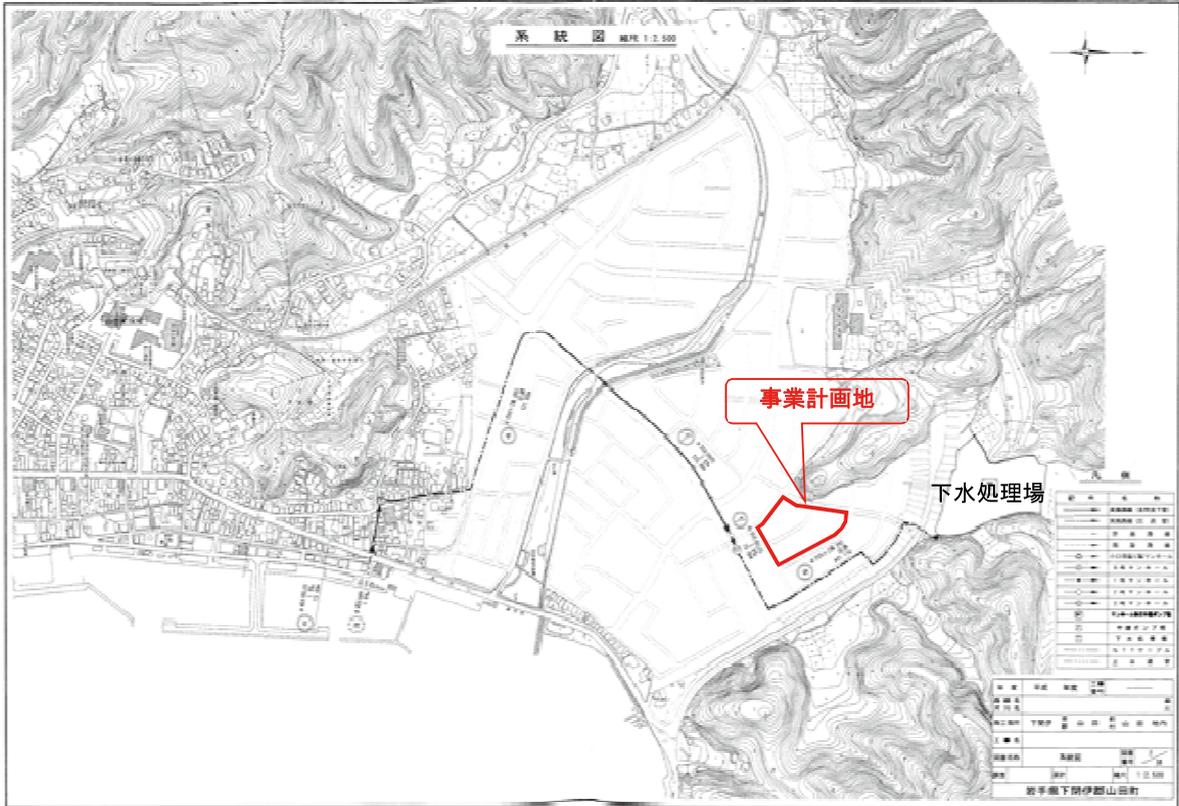
(3) 都市設備の状況

当事業計画地の敷地外周の区画道路内に上水道施設としてφ150mmの(DIP)ダクタイル鋼管が設置されています。



図表 1-57 上水道網整備図

当事業計画地は下水道の集合処理用開始区域内にあります。なお、町道細浦柳沢線北側の歩道内に下水道圧送管が（φ350mm）が整備されています。



図表 1-58 下水道系統図



(4) その他周辺状況

当事業計画地の地盤面の標高は約3.2mあります。防潮堤計画高はT.P. +9.7mで施工されるため、計画地に立った状態で山田湾を望むことはできません。防潮堤越しに山田湾をゆったり眺めるためには、T.P. +10m程度（計画地の地面から7mほど）の足場（土台）が必要となります。

T.P. +10m程度となる、前山田病院の屋上から山田湾を眺めた写真をみると、山田湾への視線上に公営住宅棟、及び個人住家が立地しており、見通しを確保することが難しい状況にあります。

また、周辺は住居系土地利用であるため、騒音等生活環境には十分注意する必要があります。



図表 1-59 前山田病院屋上（T.P.+約10m）から山田湾を望んだ風景



図表 1-60 前山田病院周辺の様子（出典：©NTT 空間情報）

1-5 導入機能の基本方針について

新たな観光拠点として整備する道の駅の基本6機能（駐車場、トイレ、休憩施設、情報施設、食事機能、産直機能）の導入機能の基本方針は以下のとおりとなります。

図表 1-61 導入機能の基本方針

基本6機能	導入する機能の例と考え方
駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路利用者のための休憩施設として、適切な規模の駐車台数を確保します。 ・歩行者と自動車の動線を適切に分けることで、場内の交通事故発生を防止に努めます。 ・誰でも安心して利用できるよう、身障者用駐車スペースを確保します。 ・EV車の普及を想定し、EV車用の充電器付き駐車マスを確保します。 <p><災害時の想定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害情報の発信、復旧支援活動の拠点となることを想定します。
24時間 トイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんの多くは、トイレ休憩を目的とした「通過客」と想定します。そのため、24時間トイレは、「また利用したい」と思わせるような、印象的で清潔で維持管理しやすい、綺麗なトイレを目指します。 ・身障者でも利用しやすい空間及び導線の確保を図ります。 ・トイレに併設して、授乳室やオムツ換えスペースを設置します。男性・女性分け隔てなく育児に参加することができるような設備とします。
道路・休憩施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路混雑等道路情報に関する各種情報をわかりやすく発信するよう、情報端末を目立つ場所に設置します。24時間トイレへ行く動線上に配置します。 ・道路利用者が寛げるようなスペースとします。
地域観光情報 施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光情報を紹介するコーナーとして整備します。当施設計画で、力を入れるべき機能となります。 ・「通過客」の方に、「今度は山田町に来て楽しみたい」と思わせる、訴求力の高いライブ感のある観光PRができる空間を造ります。 ・地元の方々が、談笑可能なフリースペースも兼ね、観光客と地元客の交流場所とします。
飲食コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・山田町ならではの食べ方、食事ができる空間とします。具体的には、「とっと」で行われているような「浜焼き」「バーベキュー」のようなサービスを想定します。 ・産直コーナーにある様々な一次産品、加工品、ご飯のお供を産直で購入し、すぐ食べることができるようなサービスを想定し、広い空間を確保します。 ・若者のチャレンジ支援のひとつとして、山田町に少ない洋食・喫茶店など、誰もが憩える施設機能のテナント出店を誘導します。
産直・直売 コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営者による積極的な商品PRが行われることを想定し、港町らしい、賑やかな売り場空間とします。地場産材を最大限活用します。 ・海の幸を視覚的に楽しめ、かつ、新鮮な状態でお届けできるような設備の導入を検討します。 ・地元高校生等とタイアップし、これまで町になかった商品の開発に取り組みます。

1-6 各施設の配置方針について

当事業計画対象地内の配置方針案は下図のとおりとなります。

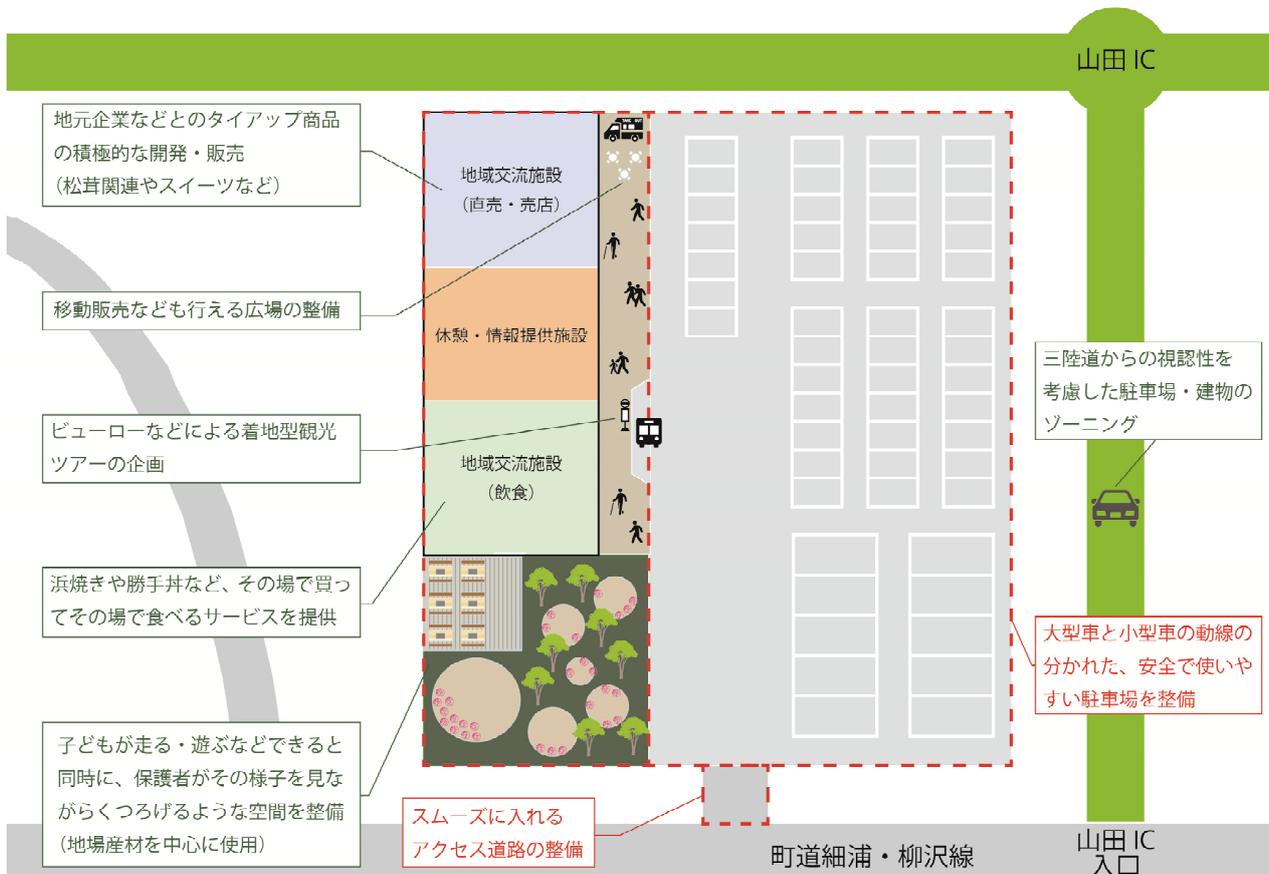
通過客の多くは三陸道山田 IC からのアクセスと想定されます。そのため、三陸道側からの視認性を考慮したレイアウト案とします。具体的には、車内から見たときに、運転者が駐車場の状況を把握しやすいように手前に駐車場を配置し、その向こう側に建築物と賑わいが見えるという配置を基本の形態とします。

利用者のメイン動線は、町道細浦・柳沢線からのアクセスとなります。そのため、スムーズに入れるように間口・通路の確保が重要です。

自動車を停車した際、真正面に施設が見えるようにするため、駐車マスは施設と垂直になるようにレイアウトします。

施設に至る途中にイベント広場を設けます。イベント広場では、キッチンカーなどによる仮設販売の実施を想定します。また、イベント広場は、ビューローなどによる着地型観光ツアーの発着所としても機能します。また、子供が走る・遊ぶなどができるような広場の設置も目指します。

施設の中には、休憩・情報提供施設を中心に、地域交流施設にアクセスするようなレイアウトを目指します。



図表 1-62 配置方針イメージ図

(1) 整備手法の基本方針

「道の駅」を整備するにあたり、国の協力・支援を要望していくとともに、地方創生拠点整備交付金(内閣府)、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金(農水省)などの補助事業を可能な限り活用し、施設整備を行っていきます。

(2) 管理運営手法の基本方針

道の駅は「休憩機能」や「情報発信機能」の非収益(公共的)部門と、「地域連携機能」の収益(営業的)部門に分けられ、個別に管理・運営する方法もありますが、総合的なサービス水準の維持を図るという目的から一体的に管理・運営する方法が一般的です。

地域の課題や事情、施設・機能の内容も踏まえて運営主体を選択していくこととなりますが、多くの道の駅は公設民営の手法が取られており、公設民営の管理・運営母体は、第三セクター、組合、NPO、民間企業が想定されます。

そのため、以下の内容を管理運営手法検討の基本方針とします。

- 魅力ある施設とするため、民間事業者による運営への参画を基本とします。
- 事業手法については、公設民営、民設民営など様々な選択肢をもって検討します。

第2編

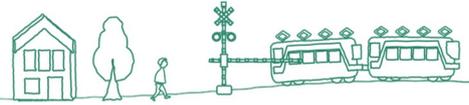
山田町「新たな観光拠点」基本計画

～新・道の駅整備基本計画～



令和2年3月

岩手県下閉伊郡山田町



2-1 整備方針及び整備コンセプトの整理

基本構想で定めた新たな観光拠点の整備方針及び整備コンセプトについて、その具体内容を基本計画において以下のとおり設定します。

道の駅の整備方針①：

人々の目的地となり、山田町観光の「窓口」となる道の駅を目指します。

- 地域の日常的な利用・活動の場であることを重要な前提とし、観光客等来訪者に山田町の生活・人々の魅力を伝え、山田町に「行きたい」「また来たい」と思う場を提供する道の駅を目指します。
- 地元ならではの美味しいものが、様々な販売スタイル/提供アプローチで、楽しみながら味わえる道の駅を目指します。
- 山田産のものを中心としつつも、山田産に限定せず、岩手県全体の広域連携の視点をもって仕入れを行うことで、思わず手に取りたくなる素敵な商品が豊富に揃っている道の駅を目指します。
- この場所からさらに町内に賑わいが広がるような、行きたくなる案内・誘導の仕掛けが充実した道の駅を目指します。



図表 2-1 具体整備方針イメージ

道の駅の整備方針②：

A L L 山田の積極的な関わりがある道の駅を目指します。

- 水産業・農業・林業など様々な一次産業の従事者、食品加工を行う二次産業の事業者、情報発信・観光コンシェルジュを担う三次産業の従事者の連携が図られている道の駅を目指します。
- 町民・行政の連携により賑わいが継続的に発展していく道の駅を目指します。（※公共による投資や支援を積極的に実施するものではなく、事業として自立・自活している前提で、行政としての後方支援を図るものです。）
- 「廃校となる北小学校」「山田湾関口川河口部」「山田町中心商業地」と連携・関わりを深めながら、町の賑わい・活性化に寄与することに努めます。

道の駅の整備方針③：

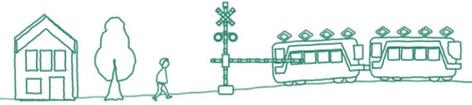
“発進”する道の駅を目指します。

- これからの若い人のチャレンジを後押し、これからの門出を応援する道の駅を目指します。
- 山田町の美味しいもの・良いものを、日本全国に発進する物流のターミナル拠点を目指します。

道の駅の整備方針④：

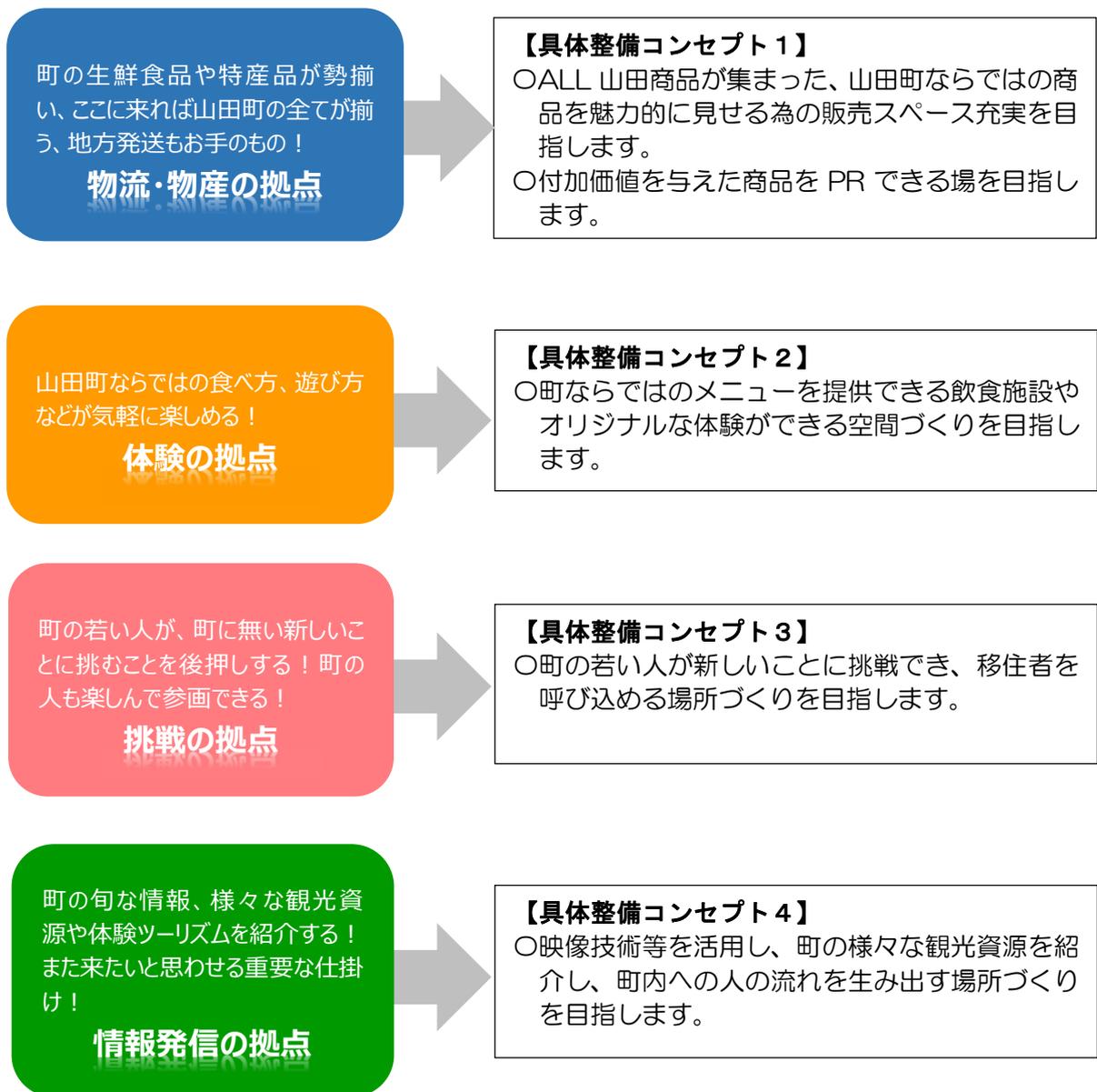
非常時に防災拠点として機能する道の駅を目指します。

- 救援活動や物資の集積場所となるスペースの確保や、自家発電ができる電源装置の整備など、大規模災害時に地域の防災拠点となる道の駅を目指します。
- 三陸沿岸道路（山田 IC）直近という立地を活かし、大規模災害後における災害派遣活動やボランティア活動、災害情報の発信、被災者の買い物・物資受け取りなど、災害対応の活動拠点を目指します。



道の駅の整備コンセプト :

「また来たくなる、山田町のディープな魅力が詰まった販わいの拠点」



図表 2-2 整備コンセプトイメージ

2

-2 導入機能及び施設規模の検討

2-2-1 導入機能及びその方針

各導入機能及び、整備方針・イメージは以下のとおりとします。

(1) 24 時間トイレ

テーマ：施設の目玉となるような特徴的なトイレ！

「山田のトイレは綺麗だから、休憩のポイントにしよう」と思われるようなトイレを目指します。

■想定される機能や性能（ハード）

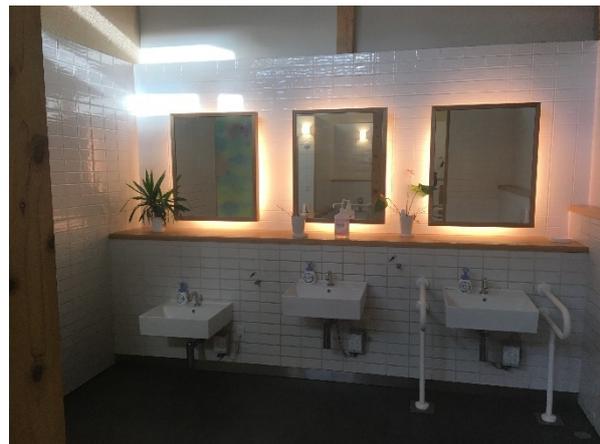
- ・海を感じることが出来る特徴的な要素があること。
- ・道路休憩として適切な規模であるとともに、掃除等通常の維持管理がし易いつくりであること。
- ・バリアフリー、子育て支援に対応した施設であること。
- ・女性用パウダールームの設置（女性にとっての好評価獲得を目指す）。

■運営・運用のポイント（ソフト）

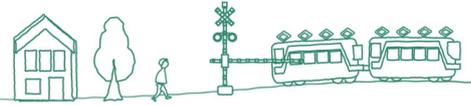
- ・清潔感のあり、特徴的な空間とするために、定期的な清掃が欠かせません。そのため、維持管理に関する労力が投入されるべきポイントとなります。
- ・デジタルサイネージなどの映像広告を活用し、トイレ後の購買につながるような仕組みの導入が望まれます。



図表 2-3 特徴的なトイレのイメージ
(道の駅「りょうぜん」)



図表 2-4 特徴的なトイレのイメージ
(道の駅「いいだて」)



(2) 休憩施設、観光案内施設

テーマ①：リラックススペース！

- 「運転や仕事に疲れたので、割り切ってゆっくり休もう」と思われるような、積極的な休憩を誘導できるリラックスしたスペースを目指します。

テーマ②：観光ツーリズムの発進拠点！

- 町内の各スポットを周遊してもらうための案内スペースの実現を目指します。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・ 緑を眺めながら休憩できる、ゆったり座れる、横になれる椅子や座敷などが配置された空間であること。公共交通にスムーズに乗り換えられること。
- ・ 外国人観光客の体験需要に応じたインバウンド対応可能な設備とすること。
- ・ 壁一面を使用した巨大な観光マップなど、町内の景勝地や主要店舗等の位置をわかりやく伝えられること。
- ・ 映像技術の活用等により、山田町の自然・文化を道の駅で楽しめること。
- ・ 様々なアクティビティに関する情報が得られること。また、レンタサイクルの貸し出しや、シャトルバス案内ができること。（駐車場にバスロータリー設置）
- ・ 震災関連による被害やその後の復興が相手に伝えられること。
- ・ 子どもが夢中になれるスペースやイベントがあること。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・ 情報の受発信拠点となります。面と面を向かい合わせた接客をするため、観光のコンシェルジュ、及び事務作業スペースを設置します。
- ・ 情報発信だけでなく、ツアー受付や受入れ団体への案内、送迎まで、町全体の観光ツーリズムの拠点としての体制を整備します。



図表 2-5 喫茶機能も兼ねた案内受付
(道の駅 集いの郷「むつざわ」)



図表 2-6 映像インフォメーション
(道の駅「ながい」)

(3) 飲食施設

テーマ：「味覚の駅」の代名詞！

- 「目移りしちゃう、全部食べたい！」という気持ちになるよう、様々なコンテンツを用意し、充実した空間を目指します。
- 「釣った魚をその場で食べたい！」というニーズや、「魚の調理の仕方を教わりたい」というニーズに応えられるような設備を用意します。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・全体で団体客（60～80席）の受け入れにも対応できること。

A 蒸し焼き、炭火バーベキュー

- ・カキをはじめとした特産品を安全・気軽に食べられること。
- ・買ったもの、釣ったものをガスで蒸し焼き・網焼き（炭火など）で食べることができること。（※具体的な食べ方は運営者の考えに委ねる）
- ・魚だけではなく、野菜・キノコや、肉も食べられること。
- ・番屋風の空間（演出した汚さ＝味のある空間）、非日常感を感じられること。
- ・排煙のため閉じた空間、空調整備の設置。

B フードコート

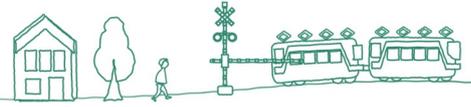
- ・朝ごはん（地元の普通の食事等）やラーメン、和食といった様々な料理を食べられること。席は自由に、気軽さを感じられること。

C 下処理&アドバイスコーナー

- ・釣った魚や、買った魚をさばいてあげるサービスを提供。（有料）

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・カキを食べさせるのに、蒸し焼きにするか、バーベキューとするか、どのようにお客さんに楽しんでもらうのが良いのかについては、今後、運営事業者による検討を経て決定していきます。
- ・ありきたりのメニューではなく、「この土地ならではの」品揃えが求められます。山田高校の生徒から様々なアイデアが示されていますが、そのような町ぐるみのアイデアをもとにした、経営判断をとまなう商品開発を積極的に行えるよう投資が必要になります。
- ・朝食にも対応し、営業時間を調整することも考えられます。
- ・人の配置が必要になります。浜焼きレストランと隣接させ、オペレーションを共有するとともに、「浜焼きで食べて行きましょう！」というような積極的なセールストークを展開することが重要です。



図表 2-7 炭火海鮮レストラン
(道の駅「コンキリエ」)
※利用料 300 円/人、夕方も営業



図表 2-8 賑わいのあるフードコート
(道の駅「米沢」)



図表 2-9 屋外での炭火料理販売
(ピア Bandai (新潟市))



図表 2-10 屋外での BBQ 会場
(ピア Bandai (新潟市))

(4) テナントスペース

テーマ：チャレンジショップで発進！

- 地域の方、特に若い方々の「山田町で一旗あげたい！」を応援するよう、スペースを用意します。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・地元の既存、新規店舗をテナントとして誘致できること（コーヒー、スイーツ、洋食店など）。
- ・最小限の面積、飲食を想定した配管が準備されていること。

■運営・運用のポイント（ソフト）

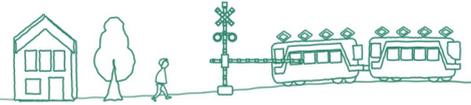
- ・店主からはテナント料を徴収します。運営者は、その徴収管理と、施設全体のコンセプトとコンテンツの整合調整や、連携したイベントの実施などを行います。
- ・月替わりでお店を変えるなど、イベント的に実施することも考えられます。



図表 2-11 テナント（パン屋）
（道の駅「霊山」）



図表 2-12 テナント（フード）
（道の駅「厚田」）



(5) 産地直売施設

テーマ：山田町の味覚を発見する場！

テーマ：山田産以外もある、広域連携の拠点！

- 「味覚の駅」のもうひとつの代名詞。女性が「トキメク」よう豊富な品揃えの充実を目指します。町内の特産品を全て探し集めるとともに、広域からも「その土地ならではの」の商品を集めます。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・広域連携を図って様々な商品を集められること。
- ・新鮮なものを、新鮮な状態で販売できること。(氷棚、生け簀など)
- ・魅力的に見せる為の販売スペース
- ・大試食コーナー
- ・釣具のレンタル、氷のサービスが充実していること。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・「手に取ってもらう」ための試食や、試し買いに適したサイズ感の商品を揃えることが重要です。
- ・独自性を高めるため、どこでも買える、ハコものは極力置かない。
- ・山田産に限定せず、岩手県広域から商品を仕入れるためのバイヤー活動が重要になります。行政による積極的な連携促進など後押しが重要になります。
- ・事例から「魚のつかみ取りイベント」など、定期的な集客イベントの実施による広域固定客の獲得が重要となります。成功している道の駅ではイベントを毎月実施するなど、集客機会の創出に努めている例が多くあります。



図表 2-13 賑わいのある産直
(道の駅「ヘルシーテラス佐久南」)



図表 2-14 POP 類の充実で知識欲を満たす産直
(道の駅「きさかた」)

(6) バックヤード

テーマ：山田町特産品が集まる場

➤ 道の駅に商品を卸す様々な方が使いやすい作業スペースとなることを目指します。

■想定される機能や性能（ハード）

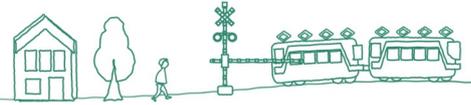
- ・山田産の商品を保管するため、冷蔵庫、冷凍庫を設置できること。
- ・産直機能として、仕入れにきた生産者自身によるシールやラベル貼りが行いやすいこと。その動線上理にかなっていること。
- ・トラック2台は入れるような広い間口があること。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・生鮮物を仕入れにきた方とのやりとり、会話を想定すると、事務室と近い方が望ましいと考えます。



図表 2-15 大型車の入庫も考慮されたバックヤード（道の駅「遠野風の丘」）



(7) 食品加工施設

テーマ：オリジナル商品の製造拠点！

- 「この土地ならではの」の、道の駅オリジナル商品の開発が可能なようスペースを設けます。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・オリジナル商品を製造することができること。
- ・例えば、産直で売れ残った生鮮食品を買い取り、加工し、付加価値を与えて再販することができるように、干物や惣菜加工を想定した設備があること。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・産直での売れ残り商品のその後は、全国の道の駅の共通の課題となります。ALL 山田町の積極的ななかかわりという観点に立ち、売れ残り商品も活用して六次化することも大きな役割と考えます。
- ・将来的に北小学校と連携することを想定し、ここでは必要最小限の規模と想定します。

(8) 事務室

テーマ：円滑な事務作業の拠点

- 道の駅を動かす心臓部として、レイアウトを設定します。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・バックヤード・産直、観光情報コーナーとの繋がりを確保されていること。
- ・施設の隅々に行きやすい、目が届きやすいこと。
- ・デスク・印刷機器の設置、商談可能な半個室の設置。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・常時、全ての席に人が座っているというシーンはほとんど無いと想定しますが、事務を行う方（社員クラス、経理担当等）の専用デスクは必要と考えられます。

(9) 体験施設、集会施設

テーマ：山田町らしい気軽な体験の拠点

- 「この土地ならではの」の、オリジナル体験が可能なスペースを設けます。

テーマ：地域の皆さんが集まる拠点

- 地域の集まり等でも利用可能なスペースとします。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・秋にはマツタケの競りの会場になるとともに、その様子を見学することが可能な個室であること。
- ・常設の体験スペース（アクセサリ作りなど）、研修室としても活用できる多目的なスペースとすること。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・集会施設は公共施設スペースとなるため、施設の運用・維持管理には行政からの支援（指定管理料など）が前提となります。

(10) 駐車場

テーマ：素通りさせない！広い駐車場

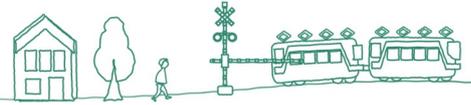
- 現道の駅施設は駐車場の狭さが課題で、混雑のためお客さんが素通りしてしまうシーンが多くありました。新しい道の駅では、お客さんを余すことなくキャッチするために十分な広さの駐車場を確保します。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・小型車、大型車ともに十分な駐車場台数を確保していること。
- ・止め易い、回りやすい駐車場であること。
- ・事故防止のため大型車と小型車の動線が分けられていること。
- ・公共交通の交通結節点機能を有していること。
※車中泊に対応したRVパークの整備は、宿泊的機能として近隣施設（北小学校）との役割分担を検討。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・将来的にEV車の充電設備需要増が想定されます。EV車用駐車マスの増設に対応できるように余裕を持った空間とします。



(11) 外構、緑地広場

テーマ：イベントできる広いスペース

- キッチンカー、屋台、野菜のテント売りなどができる屋外空間を確保します。また、ペット同伴で憩える広場を設置します。

■想定される機能や性能（ハード）

- ・キッチンカーが並びやすい、広々としたイベントスペース（建物庇による屋根付き）
- ・地元釣り客の手洗い等も行われること（洗い場は屋外に設置）。
- ・子供やペットが遊べる緑地公園広場、それを屋内から眺められること。

■運営・運用のポイント（ソフト）

- ・様々な賑わいイベントの実施が想定されますが、道の駅運営事業者側が主体となった利用料徴収の設定などルールの取り決めが重要となります。



図表 2-16 テラス機能も兼ねた外構
(道の駅「高田松原」)



図表 2-17 As 舗装上に模様で賑わいを演出している外構
(道の駅 集いの郷「むつざわ」)



図表 2-18 花木の販売、イベントの張り出しができる外構
(道の駅「遠野風の丘」)



(12) 防災拠点施設

- ・平成 16 年の新潟県中越地震の際に、道の駅が避難者支援、情報提供支援、災害復旧拠点施設として大きな貢献を果たしたことにより、度重なる災害への対応として、道の駅の基本機能として「防災」が求められるようになりました。
- ・道の駅「美濃にわか茶屋」(岐阜県美濃市)では、発災時にも食堂、情報提供施設、トイレが利用可能となるよう非常用発電機の設置や、飲料用タンクの設置などがされています。
- ・山田町では、東日本大震災の際、被災住民への食糧・日用品の供給機能を道の駅「やまだ」が担いました。
- ・当道の駅でも、防災機能を確保するため、物資集積場所として機能する広い駐車場や、非常用発電機、備蓄倉庫、飲料用貯水槽などの施設の設置を検討していきます。

<防災機能を強化した「道の駅」の事例>

「美濃にわか茶屋」(岐阜県美濃市)

- 発災後3日間を想定した非常用電源を整備(食堂、情報提供施設、トイレの利用が可能)
- 災害時は食堂が炊き出し施設として使用(40tの飲料水貯水タンクを設置)



サイクルステーション 農産物販売所、食堂、情報提供施設

○「道の駅」に整備する防災施設の例



<東日本大震災で機能した「道の駅」の事例>

○自衛隊の後方支援拠点



「遠野風の丘」(岩手県遠野市)

○被災住民へ食料・日用品の供給

・震災後、地元農家の出荷により1週間で営業再開
町で唯一の食料・日用品販売店



「やまだ」(岩手県山田町)

○住民避難所

・自家発電により24時間開館し、おにぎり、菓子等を提供



「三本木」(宮城県大崎市)

○支援物資集配の拠点

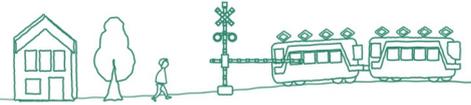
・全国から届く支援物資の中継地として利用



「そうま」(福島県相馬市)

図表 2-19 災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」例

資料：「道の駅」による地方創生拠点の形成 ～モデル箇所の選定と総合的な支援～



<参考：道の駅に求める要素（WEB アンケート自由意見より抽出）>

仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏、三陸沿岸道路沿線市町村の居住者（15歳以上）を対象として1,500票の回収を行ったWEBアンケート調査結果にて寄せられた、「今後の「道の駅」整備に向けた意見・要望」を以下にまとめます。「ここならではの」の特徴や、休憩施設としての機能の強化を求める声が多く見られます。

■今後の「道の駅」整備に向けた意見・要望

➤ **地場産品と、それらを利用した飲食スペースの充実**

- 地場産を使った料理などを提供するスペースなどがあると嬉しい。
- **道の駅で売っている物を使った料理の作り方を教えてもらえる**
- 地場産品など、そこでしか購入できないものの拡充を望みます。
- オススメの物などが大きく取り上げられてると分かりやすく良いと思う。
- 特産品、ここでしかない商品(特産品、食品)
- 地元の特産品を使って調理した屋台のような出店がいくつか連なれば、レストランよりも気軽に買って飲食できるし、お祭りのようで楽しい雰囲気になるので週末だけでもあればいいと思います。 .etc

➤ **レストラン/中食・軽食の充実**

- **ご当地ソフトクリーム(月替わり)**
- **その土地ならではのオシャレなカフェがほしいな**
- **地元の食事どころとの連携**
- 焼き立てパン
- そこに行かなければ無いような美味しい手作りするスイーツ、料理、手作りジュース、カフェのような健康を考えたバランスの良いランチメニューなど .etc

➤ **アウトドア、B.B.Qなどを楽しめる屋外空間の設置**

- **海鮮焼き**
- 必ず犬と一緒に屋根付きの屋外で食事が出来るスペース
- オートキャンプ場の整備
- テントを張れるスペースや簡単な炊事場
- キャンプが出来る公園 .etc

➤ **子どもと楽しめる空間の整備**

- **子どもたちが遊べるアスレチック**
- 子供が遊べる広場や公園や芝生
- 車移動で疲れている小さい子が遊べる場所があるとありがたい!
- 子供がのびのび遊べる施設。中なら遊具が充実していて外なら水遊びができるなど。
- 子供が楽しめる感じになればいいと思う。道の駅は年配利用が多いイメージだから。 .etc

➤ **ペットと楽しめる空間の整備**

- **ペットの休憩が出来るスペース**
- ドッグラン
- ペットと一緒に入れるレストラン .etc

➤ **駐車場機能の充実**

- **駐車場をもっと広くしてほしいです。**
- 屋根付きの駐車場
- ハイブリッド車対応の電気スタンドとガソリンスタンドがあると嬉しい。
- 洗車スペース
- ところが空いているかわかる表示板が入り口付近にあるとありがたい。 .etc

➤ **トイレ機能の充実**

- **トイレをきれいに保ってほしい**
- **ベビールームの充実。**
- ウォシュレットがあるといい
- 車いすなので、バリアフリーでトイレも専用があると嬉しい。
- トイレが綺麗 男子トイレにもおむつ台を設置してほしい
- トイレ内の照明をもっと明るくしてほしいです .etc

➤ **休憩・宿泊設備の充実/情報提供設備の充実**

- **足湯**
- **周辺地域の観光地を視覚的に紹介する設備。**
- **販売している全アイテムをスマホで確認出来る**
- 深夜も休憩できる空間
- 足を伸ばして休憩できる場所/お昼寝の部屋
- ただ座って休めるコーナーを増やしてほしい
- 店舗を利用しなくても仮眠できるようにしてほしい
- 映像での町紹介
- シアな観光情報 .etc

➤ **その他**

- **どこの道の駅でも共通のポイントカードを導入**
- **車を所有してなくても利用出来る様な移動手段/駅とのシャトルバス**
- イベントスペース/楽しいイベント
- Wi-Fi設備/携帯の充電設備
- 銀行ATM/コンビニの併設/薬局の併設
- キャッシュレス化
- 地元の団体に縛られない自由な出店 屋台村のようなもの
- ドライブスルー出来る店
- 営業時間の延長
- 完全禁煙にしてほしい。分煙にするなら煙の漏れない喫煙室を設置してほしい。
- 写真撮れるところ .etc

図表 2-20 WEB アンケート調査結果（道の駅整備に向けた意見・要望）

資料：山田町「新たな観光拠点」整備に関する Web アンケート調査結果（R1.8 実施）

2-2-2 町内連携を図る機能

検討委員会、検討専門部会で得られた以下の機能案については、道の駅として整備するのではなく、町内の他施設と連携して機能を確保していくこととします。

(1) ドッグラン・遊具・アスレチック施設

ドッグラン等、ペットを遊ばせる機能に関するご意見は多く寄せられています。ただ、当計画地ではスペースの確保が困難と見込まれるため、広い敷地が確保可能な近隣の北小学校の活用・連携により対応することを検討します。

(2) 温泉、お風呂、足湯・シャワー

地下水掘削・ポンプ汲み上・加熱・衛生管理など、導入・維持管理のコストと手間が多くかかります。道の駅にあると便利ですが、無くても魅力を損なわないものとして、当道の駅では導入を見送ります。町内にある入浴施設との役割分担を図ります。なお、「コインシャワー」については、運営事業者との協議により導入について検討していきます。

また、代替として、「桶足湯」のような有料サービスを休憩所機能の一環で導入するなど、ソフト面での対応を検討することを事業者に求めています。



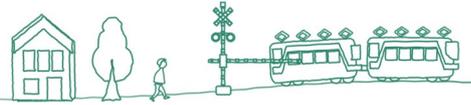
図表 2-21
町内にある入浴施設の一例

(3) ATM

道の駅にあると便利ですが、無くても魅力を損なわない設備と考え、町内のコンビニ、金融機関への誘導に努めます。代わりにキャッシュレス化に対応した POS システムへの投資などを運営事業者に求めています。

(4) ガソリンスタンド

道の駅にあると便利ですが、無くても魅力を損なわない設備と考え、町内の既存 GS の利用を誘導します。



(5) 山田湾を望める展望台・望遠鏡

山田湾を障害なく望める展望台は5階建て相当の高さが必要となります。観光情報施設で山田湾の魅力アピールし、町内のビュースポットに誘導するとともに、新たなビュースポットの整備を検討していきます。



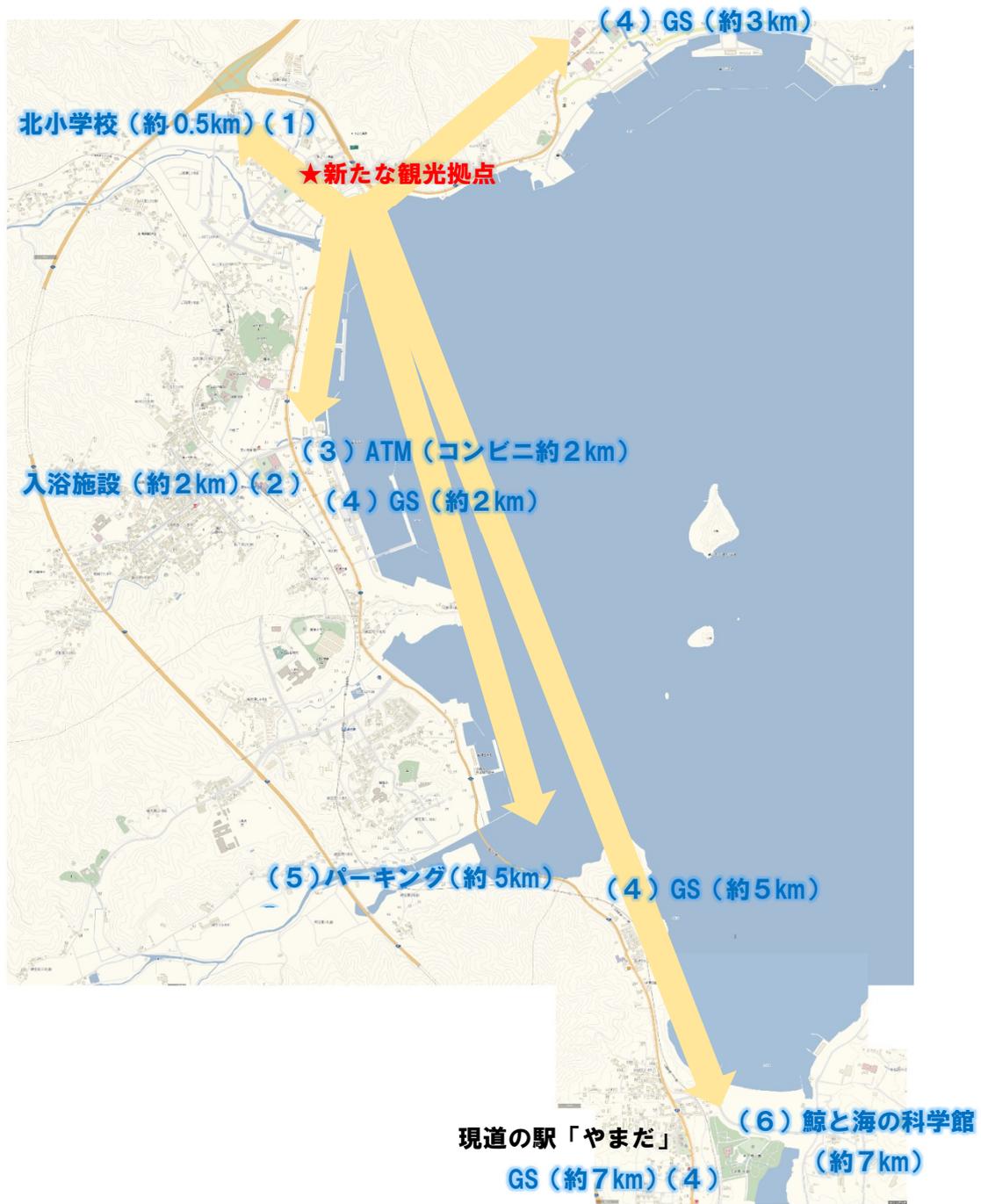
図表 2-22 山田湾への眺望

(6) 海の生き物と触れ合えるスペース、ドクターフィッシュ

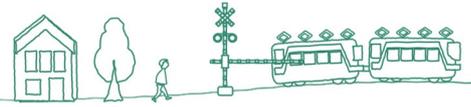
水族館・アクアリウム機能となりますが、「鯨と海の科学館」での展示が適しているため、役割分担を図ります。



図表 2-23 鯨と海の科学館



図表 2-24 町内連携イメージ図



2 - 2 - 3 施設規模の検討（駐車場）

（1）計画交通量の設定について

道の駅の駐車台数は、『前面交通量（H42 年将来交通量推計値）×立ち寄り率×ラッシュ率÷回転率』の式により算出します。

前面交通量は、H42 年将来交通量推計値より求めます。H27 年道路交通センサスによる、一般国道 45 号の交通量は 13,076 台/日、三陸沿岸道路の交通量は 2,987 台/日、総断面交通量は 16,063 台/日となっています。それに対し、国で実施している H42 年将来交通量推計値では、国道 45 号は 5,193 台/日と大きく減少、三陸沿岸道路は 9,212 台/日と大きく増加しています。また、総断面交通量は 14,405 台/日で、H27 年比 89.7%と減少しています。これは、三陸沿岸道路が全線開通することによって国道 45 号から三陸沿岸道路への利用転換が起こることが示唆されています。

道の駅の運営を検討する際の計画交通量は、三陸道通過者が容易に道の駅に立ち寄ることが可能となる仕組みを前提とすることとして、三陸道・国道 45 号の両方をカバーする台数である 14,405 台/日を基本とします。

H27 年センサス値
三陸沿岸道路（山田南 IC～山田 IC） 2,987 台/日（大型車混入率 38.5%）
国道 45 号 13,076 台/日（大型車混入率 12.1%）
断面計 16,063 台/日



H42 年将来交通量
三陸沿岸道路（山田南 IC～山田 IC） 9,212 台/日（大型車混入率 39.0%）
国道 45 号 5,193 台/日（大型車混入率 6.8%）
断面計 14,405 台/日 ※H27 年比 89.7%



当道の駅計画交通量とします。

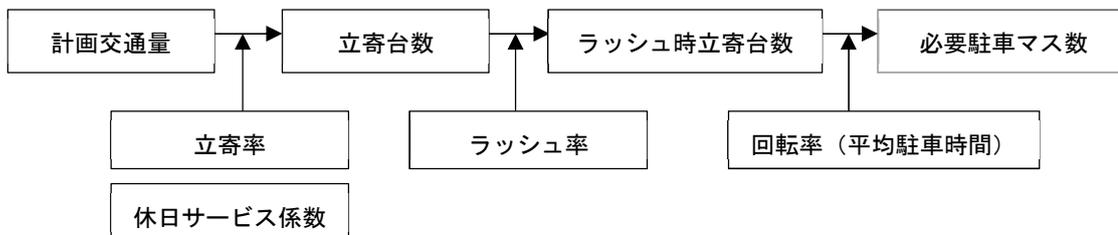
※交通量出典：道路交通センサス、国土交通省三陸国道事務所

（2）計画交通量による駐車場の算定

「東日本高速道路株式会社 休憩施設設計要領（H17年10月）」に準じて算定します。

1）駐車マス数の算定式、及び係数の設定

駐車マス数の算定式については、次式より求めます。



図表 2-25 駐車マスの算定フロー

- ① 計画交通量：H42年の将来交通量（14,400台/日）を設定、車種別に区分
- ② 休日サービス係数：年平均日交通量Q（14,400台/日）より1.40と設定
- ③ 立ち寄り率、ラッシュ率、回転率は、休憩施設設計要領より以下のとおり設定

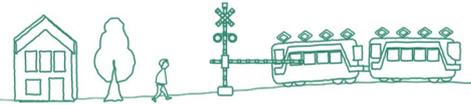
図表 2-26 サービス係数

年平均日交通量Q（両方向：台/日）	サービス係数
0 < Q < 25,000	1.40
25,000 < Q < 50,000	1.65 - Q × 10 ⁻⁵
50,000 < Q	1.15

出典：「休憩施設設計要領（H17）/東日本高速道路株式会社 P26

図表 2-27 車種別立寄率、ラッシュ率、平均駐車時間（SA）

車種	SA 値			
	立寄率	ラッシュ率	平均駐車時間（分）	回転率
小型車	0.175	0.10	25	2.4
大型バス	0.25	0.25	20	3
大型貨物車	0.125	0.075	30	2



2) 駐車マス数算定結果

算定結果は以下のとおりで、道の駅全体の駐車マス数は、「小型車 104 台、大型車 28 台、計 132 台」となります。

図表 2-28 駐車マス算定表

数値名称		数値			備考
		小型車	大型バス	大型貨物車	
計画交通量	一般国道45号	4,775	64	354	各道路における大型車混入率は、「一般国道45号:6.8%、三陸沿岸道路:39.0%」(H42年将来交通量推計値より)を使用。 ・小型車のバス混入率は1.4%に設定。
	三陸沿岸道路	5,538	81	3,593	
立寄率		0.175	0.25	0.125	基準値: 「休憩施設設計要領(H17.10)／東日本高速道路株式会社」P28
サービス係数		1.40			平均日交通量から年間365日のうち35番目程度の交通量を求める係数
ラッシュ率		0.10	0.25	0.075	基準値: 「休憩施設設計要領(H17.10)／東日本高速道路株式会社」P28
平均駐車時間		25	20	30	基準値: 「休憩施設設計要領(H17.10)／東日本高速道路株式会社」P28
回転率		2.4	3	2	基準値: 「設計要領第6集 建築施設編(H30.7)／東日本高速道路株式会社」P14
駐車マス数	一般国道45号	48	1	2	・「計画交通量×立寄率×ラッシュ率÷回転率」により算定 ・一般国道45号、三陸沿岸道路それぞれの計画交通量ごとに必要駐車マスを算定。その合計値を道の駅全体の必要駐車マスとして設定。
	三陸沿岸道路	56	2	23	
	合計	104	3	25	

（３）身障者用駐車場の算定

身障者用小型駐車ます数は、「東日本高速道路株式会社設計要領第六集 建築施設編」に基づき算出します。

図表 2-29 身体障がい者用小型駐車ます数

駐車ますの区分	身体障がい者用小型駐車ます数（台）
全小型車駐車ます数 ≤ 200	全小型車駐車ます数×1/50以上
全小型車駐車ます数 > 200	全小型車駐車ます数×1/50以上1/100+2以上

※大型・小型兼用駐車ますの場合は小型車換算して計上する

出典：「設計要領第6集 建築施設編（H30.7）／東日本高速道路株式会社」第1編 P 29

**最大駐車マス数 132 台 < 200 台より、
身体障がい者用小型駐車マス数 = $132 \times 1/50 = 2.6 \approx 3$ 台とします。**

（４）婦人用駐車スペース（ママスペース）

子育て応援施設として、婦人用駐車スペースを確保する。駐車台数の設定基準は無いため、身障者用駐車スペースと同等の規模 = 3 台とします。

婦人用駐車スペース = 身体障害者用小型駐車マス数 = 3 台とします。

（５）二輪車専用駐車場

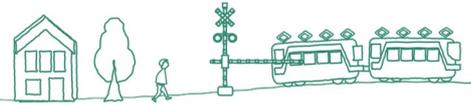
二輪車専用駐車場は、「設計要領第六集 建築施設編」に基づき算出します。

図表 2-30 二輪車専用駐車場面積

区分	計画交通量	二輪車駐車台数	面積
	(台/日)	(台)	(m ²)
S A	30,000台以上	8	25.0 小型車2ます相当
	30,000台未満	4	12.5 小型車1ます相当
P A	全箇所	4	12.5 小型車1ます相当

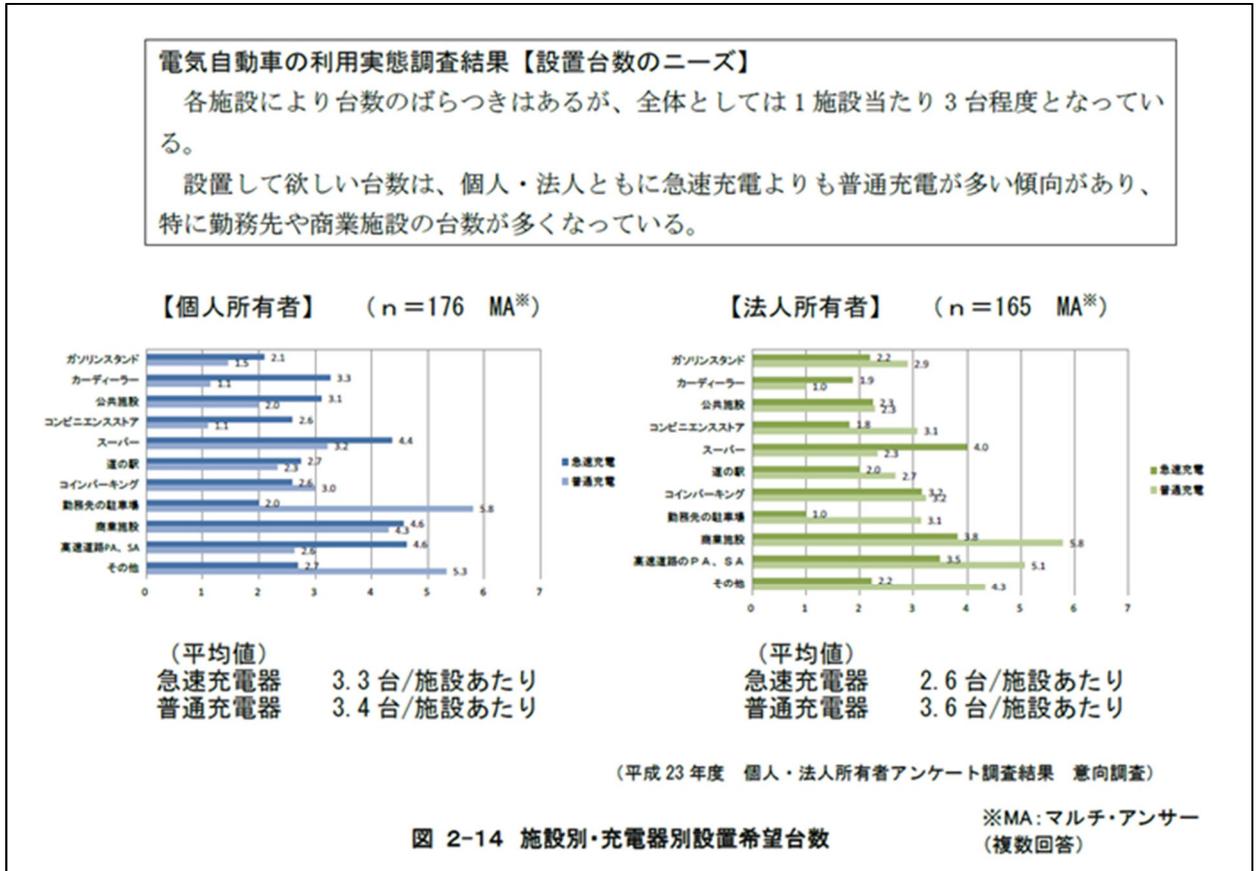
→算定の結果、二輪車専用駐車場 4 台（小型車 1 台分）の駐車スペースとなりますが、需要を満たせない可能性も懸念されることから、二輪車専用駐車場 8 台分 = 小型車専用駐車場 2 台分とします。

自動二輪車専用駐車場 = 計 8 台 (小型車 2 台分) とします。



(6) 電気自動車 (EV 車) 充電駐車場

電気自動車 (EV 車) 専用の充電駐車場については、「駐車場等への充電施設の設置に関するガイドライン (H24 年 6 月) /国土交通省都市局」に基づき算出します。



図表 2-31 電気自動車の利用実態調査結果【設置台数のニーズ】

出典：「駐車場等への充電施設の設置に関するガイドライン (H24 年 6 月) /国土交通省都市局」P. 28

→ガイドラインでは、「電気自動車の利用実態調査」により、1施設あたり3台程度と整理されていることから、当施設については、電気自動車 (EV 車) 充電駐車場 = 3 台とします。

電気自動車 (EV 車) 充電駐車場 = 計 3 台とします。

（7）必要駐車台数のまとめ

「東日本高速道路株式会社 休憩施設設計要領（H17年10月、H30年7月）」、「駐車場等への充電施設の設置に関するガイドライン（H24年6月）」より必要駐車場規模を以下のとおりとします。

**必要駐車場規模（計143台）：小型車104台、大型車28台、身障者3台、
婦人用3台、二輪車8台（小型車2台分）、EV車3台**

図表 2-32 近隣道の駅の駐車マス数、敷地面積・建築面積

道の駅名	駐車マス数 ^{※1}		周辺交通量	
	小型車	大型車	台数	備考
さんりく	84台	7台	約194百台	R45号、三陸道
たろう	64台	12台	約53百台	R45号
区界高原	73台	10台	約53百台	R106号
やまびこ館	135台	5台	約53百台	R106号
遠野風の丘	164台	14台	約136百台	R283号
久慈（計画中）	120台	31台	約144百台	R45号、R395号
高田松原（R1.9～）	140台	33台	約176百台	R45号、R340号
（仮）新山田	104台	28台	約144百台	R45号、三陸道

※1：遠野風の丘は拡張前の台数

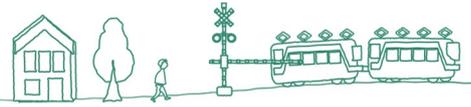
※交通量出典：道路交通センサス、国土交通省三陸国道事務所

なお、各種駐車ますの大きさに関しては、各種基準を参考に以下のとおり設定します。

図表 2-33 各駐車ますの大きさ

車種	駐車ますサイズ	
	幅×奥行	サイズの根拠
	（1台あたり）	
	（m）	
小型車	2.7（2.5+0.2）×5.0	休憩施設設計要領（H17.10）記載の寸法に余裕幅として0.2mを加味。
大型車	3.3×13.0	道路構造令の開設と運用（H27.6）
特殊大型車 （セミトレーラー車）	3.5×17.0	道路構造令の開設と運用（H27.6）
障害者用駐車場	3.5×6.0	都市公園の移動円滑化整備ガイドライン（H24.3）
婦人用駐車場	3.5×6.0	身障者用駐車場と同サイズに設定
EV車専用 駐車場	3.0×6.0（急速充電器後方置き） 4.0×5.0（急速充電器横向置き）	電気自動車用急速充電器の設置・運用に関する手引書（H26.3）
二輪車専用駐車場	5.0×2.7	小型車と同様

※駐車ますサイズの根拠については、ますサイズが大きい方の基準を使用する。

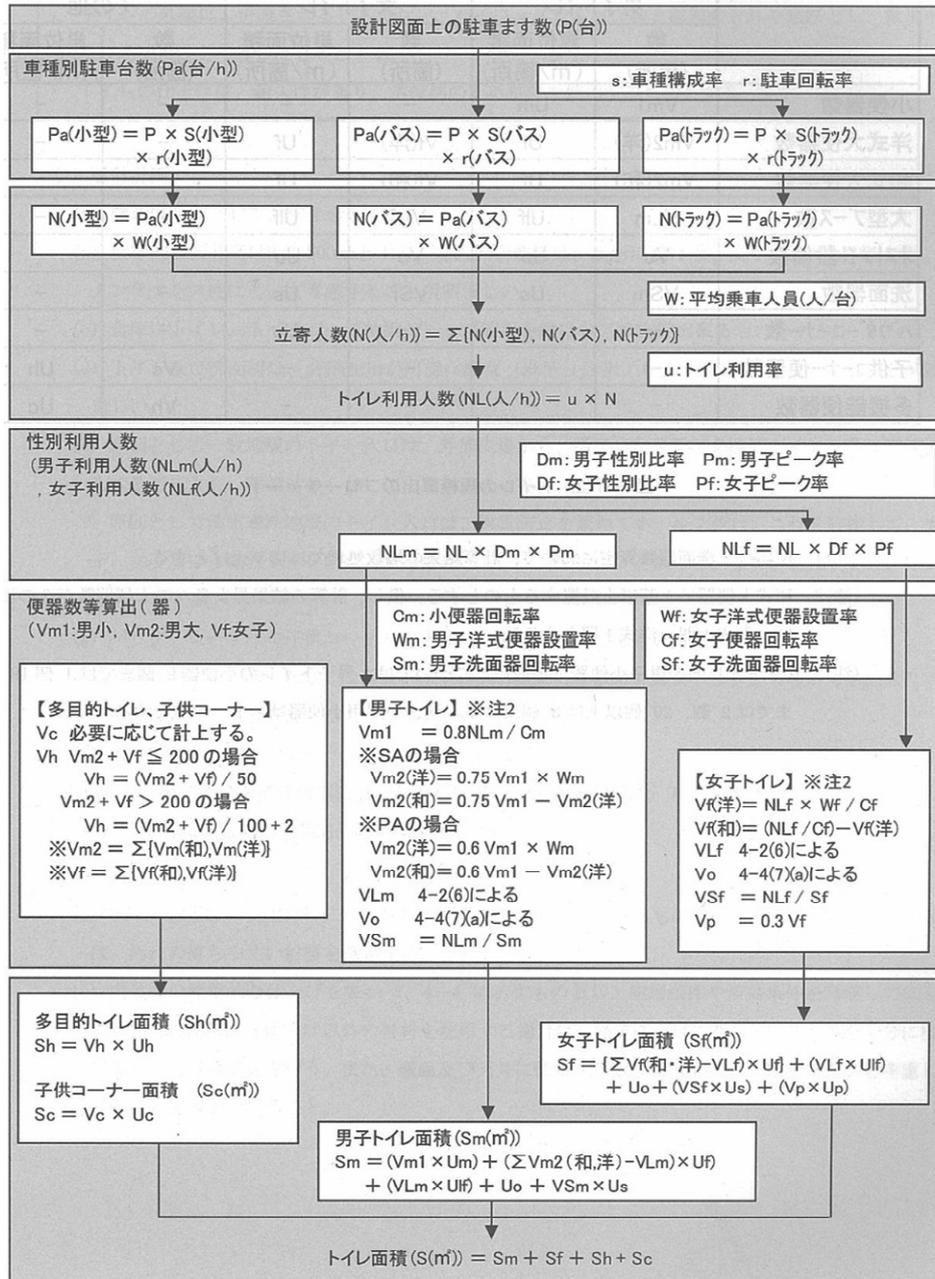


2 - 2 - 4 建物施設規模の検討

(1) 24 時間トイレ (250 m²)

1) トイレ設置数の算定式

車種別駐車台数より、「東日本高速道路株式会社 設計要領 (第六集建築施設編) (H30 年 7 月)」に従い、下図のフローでトイレ規模の算出を行います。



図表 2-34 トイレの規模算出のフローチャート

出典：東日本高速道路株式会社 設計要領 (第六集建築施設編) (H30 年 7 月)

また、道の駅全体として必要なトイレ設置数は、以下の係数を用いて算定します。

図表 2-35 必要駐車ます数

道の駅全体	
事業主体	—
車種	SA値 (台)
小型車	104
大型車	28
小計	132
障害者用	3
婦人用	3
二輪車専用	2
EV車専用	3
合計	143

図表 2-36 トイレ規模算出の係数

項目	記号	係数				
		サービスエリア		パーキングエリア		
		一般部・都市部 (注) 1	観光部 (注) 1	バリアフリー有	バリアフリー無	
駐車ます数	P	(注) 2				
車種構成率	S	小型	0.88	0.92	0.86	0.90
		バス	0.04	0.03	0.03	0.02
		トラック	0.08	0.05	0.11	0.08
駐車回転率	r	(注) 3				
車種別駐車台数	Pa	P × S × r				
平均乗車人員	W	小型	2.2人		1.7人	
		バス	27人	24人	21人	20人
		トラック	1.1人			
トイレ利用率	u	0.76	0.72	0.74	0.71	
性別比率	Dm	男	0.54		0.59	
	Df	女	0.46		0.41	
ピーク率	Pm	男	2.1		2.6	
	Pf	女	2.8		3.7	
便器回転率	Cm	男	95人/h			
	Cf	女	40人/h			
洋式便器設置率	Wm	男	0.9			
	Wf	女	0.9			
便器数	(男・小) Vm1 (男・大) Vm2 (女) Vf	小便器利用率 0.8	小便器利用率 0.8			
		大便器係数 0.75	大便器係数 0.6			
洗面器回転率	S m	男	360人/h			
	S f	女	215人/h			
1人当り面積	(男・小) Um	男・小	3.0㎡			
	(男・大・女) Uf	男・大・女	5.4㎡			
	(男女大型バス) U1m, U1f	男女大型バス	8.8㎡			
	(子供用) Uc	子供用	6.1㎡			
	(おむつ) Uo	おむつ	9.2㎡			
	(バリア用) Up	バリア用	2.2㎡			
	(洗面) Us	洗面器	3.0㎡			
	(多機能) Uh	多機能	10.8㎡			

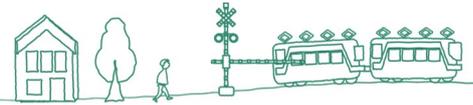
- (注) 1. 都市部 SA：大都市（東京・名古屋・大阪）直近の概ね50km圏内のエリアとする。
観光部 SA：観光地やスキー等のレジャー施設の近郊に位置しており観光バスが多く立ち寄ると予想されるエリアとする。また、既存の休憩施設については本線交通量の休日係数（休日交通量/平日交通量）が1.5以上の路線に位置するエリアとする。
一般部 SA：上記以外のエリアとする。
- (注) 2. 駐車ます数のうち大型車と小型車の割合は本線交通量に対する大型車の混入率等により変化する。また、大型車・小型車の兼用マス数は、1マスあたり小型車2マスに換算する。
なお、身障者用・トレーラー駐車マスは、除くものとする。
- (注) 3. 駐車回転率 r（平均駐車時間）は表 4-2 のとおりとする。

出典：東日本高速道路株式会社 設計要領（第六集建築施設編）（H30年7月）

図表 2-37 SA・PA 平均駐車時間

エリアの種類	車種別	回転率
SA	小型車	2.4回/h(25分)
	大型バス	3回/h(20分)
	大型貨物	2回/h(30分)
PA	小型車	4回/h(15分)
	大型バス	4回/h(15分)
	大型貨物	3回/h(20分)

出典：東日本高速道路株式会社 設計要領（第六集建築施設編）（H30年7月）



2) 算定結果

「東日本高速道路株式会社 設計要領（第六集建築施設編）（H30年7月）」より、便器の設置数を以下のとおり算定しました。また、道の駅施設全体として必要なトイレ設置数は、駐車ます132台を基準に、算定した器数を基本とします。

これらの条件から、24時間トイレとしての必要面積は242.10 m²を切り上げて250 m²とします。

図表 2-38 全体必要駐車マス数の整備分担（案）

内訳			算定結果	備考
男子トイレ	男性・小便器	Vm1	10	
	男性・大便器（洋式）	Vm2（洋）	5	
	男性・大便器（和式）	Vm2（和）	0	※和式分は洋式に換算
	男性・大型ブース	VLm	1	
	オストメイト	Vo	1	
	男性・洗面器	VSm	4	
女子トイレ	女性・大便器（洋式）	Vf（洋）	18	
	女性・大便器（和式）	Vf（和）	0	※和式分は洋式に換算
	女性・大型ブース	VLf	1	
	オストメイト	Vo	1	
	女性・洗面器	VSf	4	
	パウダーコーナー	Vp	5	
その他	多機能トイレ	Vh	1	
	子どもトイレ	Vc	1	
必要面積（m²）			242.10	

図表 2-39 既存道の駅「やまだ」トイレ器数

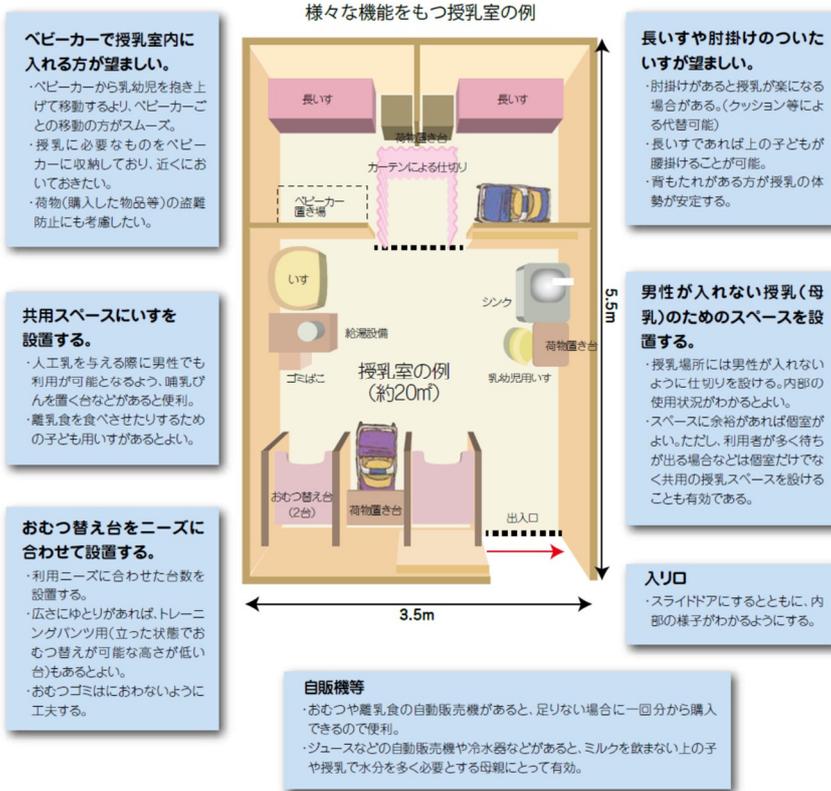
			備考
男子トイレ	男性・小便器	8	手すり付き：2器
	男性・大便器	3	親子対応：1器
女子トイレ	女性・大便器	4	親子対応：1器 おむつ交換台付き：1器
	オムツ交換台	1	—
その他 (多目的トイレ)	洋式	1	—
	オストメイト	1	—

(2) 授乳室：2～3人の着座を想定（20㎡）

授乳室等2～3人の利用を想定し、20㎡程度を確保します。

男性もオムツ替えをし易いように、授乳室（女性専用）との動線を分けることに留意します。

●[授乳及びおむつ替えのため設備]



[参考資料]

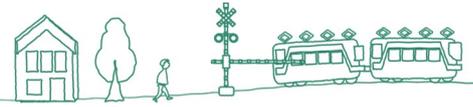
- ・母乳及び哺乳びんによる授乳に対応した、授乳のためのスペースを設けることが望ましい。
- ・授乳のためのスペースは区切られた空間とし、授乳のためのいすを設置することが望ましい。
- ・授乳のためのスペースには、おむつ替えのための台等を適切に設けることが望ましい。
- ・出入口は、ベビーカーの利用に配慮した幅と、戸の形式とすることが望ましい。
- ・出入口付近には授乳のためのスペースである旨を表示することが望ましい。

●整備の配慮

- ・母乳による授乳のためのスペースは、カーテンやついたて等により、プライバシーを確保することが必要である。
- ・授乳のためのいすは、授乳の体勢が安定するよう、ひし掛け、背もたれがついたものであることが望ましい。
- ・授乳のためのスペースには、荷物置き場や調乳のための給湯設備、哺乳びんの洗浄のための設備を設けることが望ましい。
- ・おむつ替えのための台や乳幼児用いす・乳幼児用ベッド等の配置は、ベビーカー等の通行を妨げないように配慮する。
- ・男性の哺乳びんによる授乳にも配慮し、内部の設備配置等の状況がわかるよう表示する必要がある。

図表 2-40 様々な機能をもつ授乳室の例

出典：赤ちゃん連れにやさしい空間づくりガイドブック（福島県保健所福祉児童家庭課）



(3) 道路情報施設・観光情報施設：24h 道路情報を把握できる休憩所（170 m²）

道路利用者のための 24 時間利用可能な休憩施設として、道路交通情報の発信などを行うスペースを設置します。

「東日本高速道路株式会社 休憩施設設計要領（H30 年 7 月）」より、休憩所の標準規模を参考に休憩施設の標準的な面積を 170 m²（40 席相当）とします。

なお、道路交通情報を示すモニター画面の設置を想定しており、入口と 24h トイレを結ぶ動線上にモニター設置を想定します。



図表 2-41 道路情報モニターの設置のイメージ（道の駅「猪苗代」）

図表 2-42 休憩施設の規模指標

駐車台数 (台)	席数	標準的な面積 (m ²)
300	80	250
250	60	210
200	60	210
150	40	170
100台以下	30	140

出典：「設計要領第六集 建築施設編（H30. 7） / 東日本高速道路株式会社」第 1 編 P26

(4) 飲食施設：多様なニーズに柔軟に対応できるレストランスペース（300 m²）

「東日本高速道路株式会社設計要領（H30 年 7 月）」より、駐車マス数（小型車 121 台・バス 3 台・大型車 25 台）からレストランの面積を算定します。

算定の結果、飲食スペースとしての必要面積は、食堂は 100 席程度分の 200 m²、厨房は 100 m²の計 300 m²を確保します。

図表 2-44 飲食施設（レストラン等）必要規模算定



図表 2-43 飲食施設の規模算定のフローチャート

出典：東日本高速道路株式会社設計要領 第六集（H30 年 7 月）

(5) テナントスペース：1店舗 20㎡×2店舗を想定（40㎡）

テナントの利用形態は、食堂機能をフードコートに依存することとし、テナント内は厨房機能を中心とすることとします。

フードコート方式のテナント面積は、周辺事例を参照し、1店舗 20㎡（厨房のみ）を想定します。また、テナント数については、2店舗を想定し、計 20㎡×2店舗＝40㎡を確保します。

図表 2-45 テナントの規模

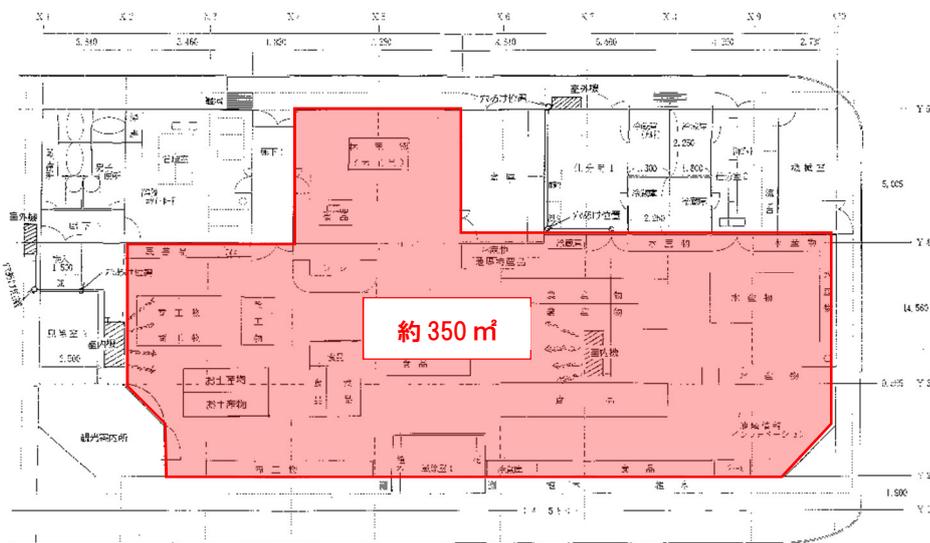
名称	所在地	開業年	延床面積 (㎡)	テナント面積 (㎡)	店舗数	一店舗あたり面積 (㎡)	備考
道の駅なないろ	北海道七飯町	H30.3	986	44.4	2.0	22.2	①23.69㎡+②20.68㎡(②は2つに分けて利用可能)
道の駅(仮称)上士幌	北海道上士幌市	H32.4(予定)	1,500	48.0	4.0	12.0	12㎡×4店舗
道の駅かくだ(仮称)	宮城県角田市	H31.3	1,166	60.0	3.0	20.0	20㎡×3店舗
道の駅笠間	茨城県笠間市	R3.秋(予定)	3,159	78.0	3.0	26.0	レストラン44.5㎡+フードコート26㎡×3店舗
平均						20.0	

(参考：各道の駅 出店者募集要項)

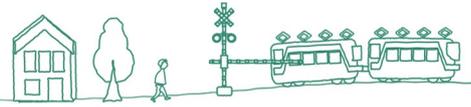
(6) 産地直売施設：道の駅「やまだ」の産直施設+αの規模を想定（450㎡）

既存の道の駅「やまだ」の産地直売施設の規模は約 350㎡あります。

道の駅「やまだ」に品卸をしている既存の事業者に加え、新規事業者の参入が予想されるため、新たな道の駅の産地直売施設の面積は、現状より 100㎡広い 450㎡を確保します。



図表 2-46 道の駅「やまだ」産地直売施設



(7) バックヤード：産地直売施設の4割程度を想定（180㎡）

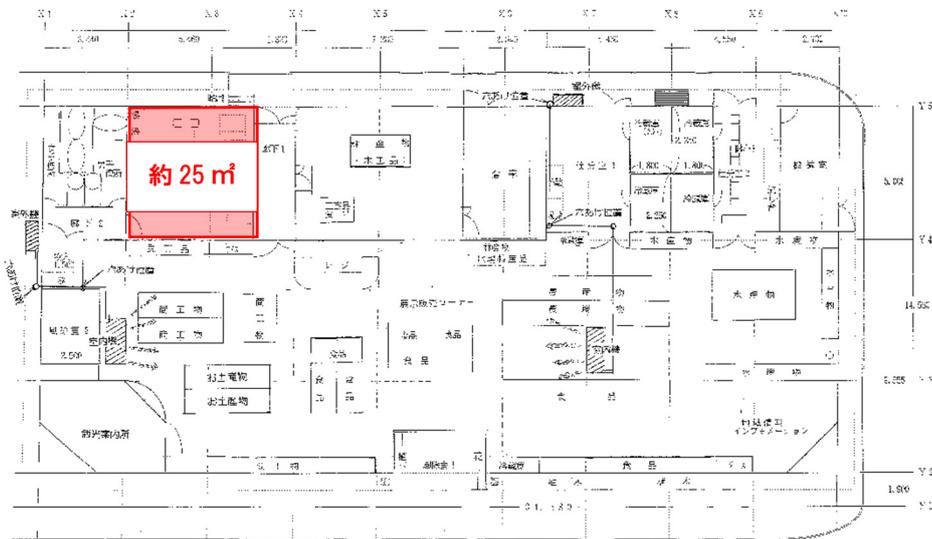
バックヤードの面積は、産地直売施設（450㎡）の4割程度の面積である180㎡を確保します。また、品卸や発送作業が容易に行えるよう、大型車の乗り入れが可能な間口を確保します。

(8) 加工施設（30㎡）

様々な食品加工を行う衛生管理された加工施設は、約30㎡と想定します。なお、今後、運営事業者と協議調整し、製造する品物の種類・方向性が見えてきた段階で再検討とします。

(9) 事務室：従業員3名を想定（30㎡）

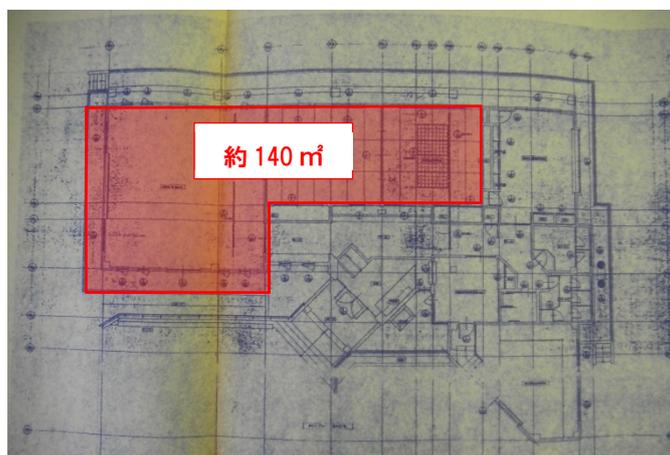
既存の道の駅「やまだ」の事務室の面積は、従業員用の座席3席に対して、約25㎡あります。新たな道の駅でも同様に、従業員3名が同時に事務室を利用できるよう、約30㎡を確保します。



図表 2-47 道の駅「やまだ」事務室

(10) 体験・集会施設：被災前の地区集会施設と同規模の面積を想定（140㎡）

「この土地ならでは」の、オリジナル体験が可能な機能に加え、地域の集まり等で利用可能な集会所機能を持った体験・集会施設の整備を行います。地区周辺で被災前に利用されていた集会所のホール及び和室と同規模の面積を確保します。また、ものづくりの体験教室や様々なイベントでの活用も想定します。



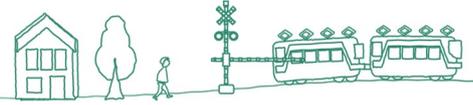
図表 2-48 被災前の地区集会施設 ホール及び和室

(11) 導入施設の規模算定まとめ：(1,610㎡)

(1) ～ (10) を踏まえ、導入施設の規模を以下のとおりとなります。

図表 2-49 施設フレーム案

機能		面積	備考1	備考2	
休憩機能	①24時間トイレ	250 ㎡	※別途計算式より、切り上げ	※①～② 計440㎡ ※一体型整備により道路管理者と協働整備を想定	
	子育て関連施設	20 ㎡	※想定、授乳室など		
	②道路情報施設・観光情報施設	170 ㎡	※東日本高速道路株式会社 休憩施設設計要領より		
地域振興施設	③飲食施設 (BBQ・下処理・フードコート)	食事面積	200 ㎡	※NEXCO基準より駐車台数から算定	※③～⑨ 計1170㎡
		厨房面積	100 ㎡	※食事面積の5割程度	
	④テナント施設	40 ㎡	※想定		
	⑤産直施設	450 ㎡	※道の駅「やまだ」を基に算定		
	⑥バックヤード	180 ㎡	※産直施設の4割程度		
	⑦食品加工施設	30 ㎡	※想定		
	⑧事務室	30 ㎡	※道の駅「やまだ」を基に算定		
	⑨体験施設・集会施設	140 ㎡	※被災前の地区集会施設と同規模		
	延床面積 計		1,610 ㎡		



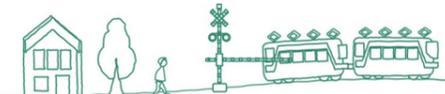
(1) 駐車場・外構施設の配置計画

[前提条件]

- 駐車台数は、小型車 104 台、大型車 28 台、身障者 3 台、婦人用 3 台、二輪車用 2 台、EV 車用 3 台の計 143 台とします。
- 建物の延床面積は、導入機能暫定結果を踏まえ 1,610 m²とします。平屋建てを基本とします。
- 敷地について、前山田病院跡地(約 1.0ha)内に必要な駐車台数分を収めることが困難であることから、敷地の拡大を想定した、約 1.4ha とします。必要な諸施設が納まるようレイアウトし、拡張範囲を決定します。なお、当計画地は土地区画整理事業用地内にあることから、区画道路の幅員変更といった改変は行わないこととします。
- メインとなる主動線は町道細浦・柳沢線からの出入りとします。
- 比較案の評価ポイントを以下のとおりとします。
 - ① 安全性 →大型車と小型車・歩行者の動線錯綜を可能な限り少なくする。
 - ② 利便性 →小型駐車場の端から施設メイン入口までのアプローチ延長を可能な限り短くする。
 - ③ 静音性 →住宅地内であるため、特に大型車駐車マスと周辺住居との距離関係を可能な限り長くする。
 - ④ 視認性 →ドライバーのアプローチを容易にする、分かりやすい駐車まスのレイアウトとする。
 - ⑤ 経済性 →建築面積を可能な限り大きくすることを目指す。

(2階を整備するとなると事業費は大幅増に繋がる)

以上の前提条件をもとに、施設計画の検討ポイントや施設配置のイメージを次頁に示します。



[施設の配置イメージ]

【事業区域】

- ・計画地は、現在施工中の区画整理事業区域内にあり、区画道路や敷地西側の用水路など施設構造物の改変は事業完了まで困難であることから、宅地内を対象に計画
- ・必要規模の駐車スペースや建物をレイアウトするにあたり、前山田病院跡地(約1.0ha)のみでは収まらないため、最低限の範囲で用地取得を行う計画を検討
- ・事業区域は約1.4ha(区画道路含む)とし、駐車スペース、建物、イベント広場、緑地等の整備を検討

【バックヤード】

- ・大型車が直接倉庫へ乗り入れることが可能な規模のバックヤードスペースを確保

【バス停】

- ・地域の方々のための公共交通ロータリーとしての活用と共に、観光客のためのシャトルバス発着点としての活用を想定

【建物】

- ・建築面積は約1,610㎡(平屋建てを想定)
- ・三陸道ランプやメイン出入口からの視認性を考慮し、赤線部分が建物の「顔(ファサード)」となることを想定

【外構・イベント広場】

- ・キッチンカーの出店や、イベント開催時に利用可能な広さを確保

【小型車・大型車駐車場】

- ・小型車と大型車の駐車スペースを分離することにより、駐車場内の安全性を確保
- ・敷地周辺に立地する住居への影響を考慮し、遮光性、遮音性の観点から植栽帯を設置
- ・区画道路東側の駐車スペースでは、将来的なEV車の需要増への対応も想定

【緑地・広場】

- ・観光客や地域の方々ที่憩えるポケットパークとしての利用を想定

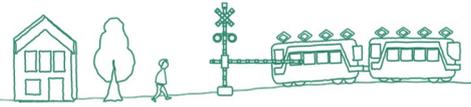
【メイン出入口へのアプローチ道路の拡張】

- ・敷地出入口の安全性や視認性を考慮し、道路拡幅や右折レーン設置などを将来的に検討



(注) 敷地範囲には一部私有地が含まれており、今後用地取得が必要となります。

図表 2-50 配置計画図



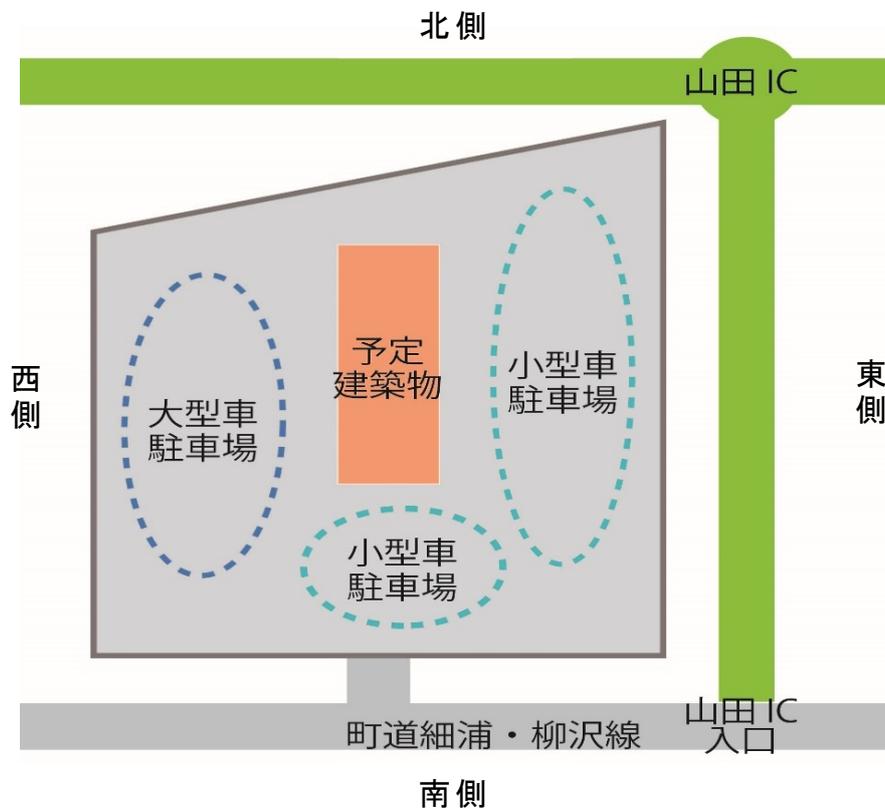
(2) 施設内レイアウトの考え方

<レイアウト全体について>

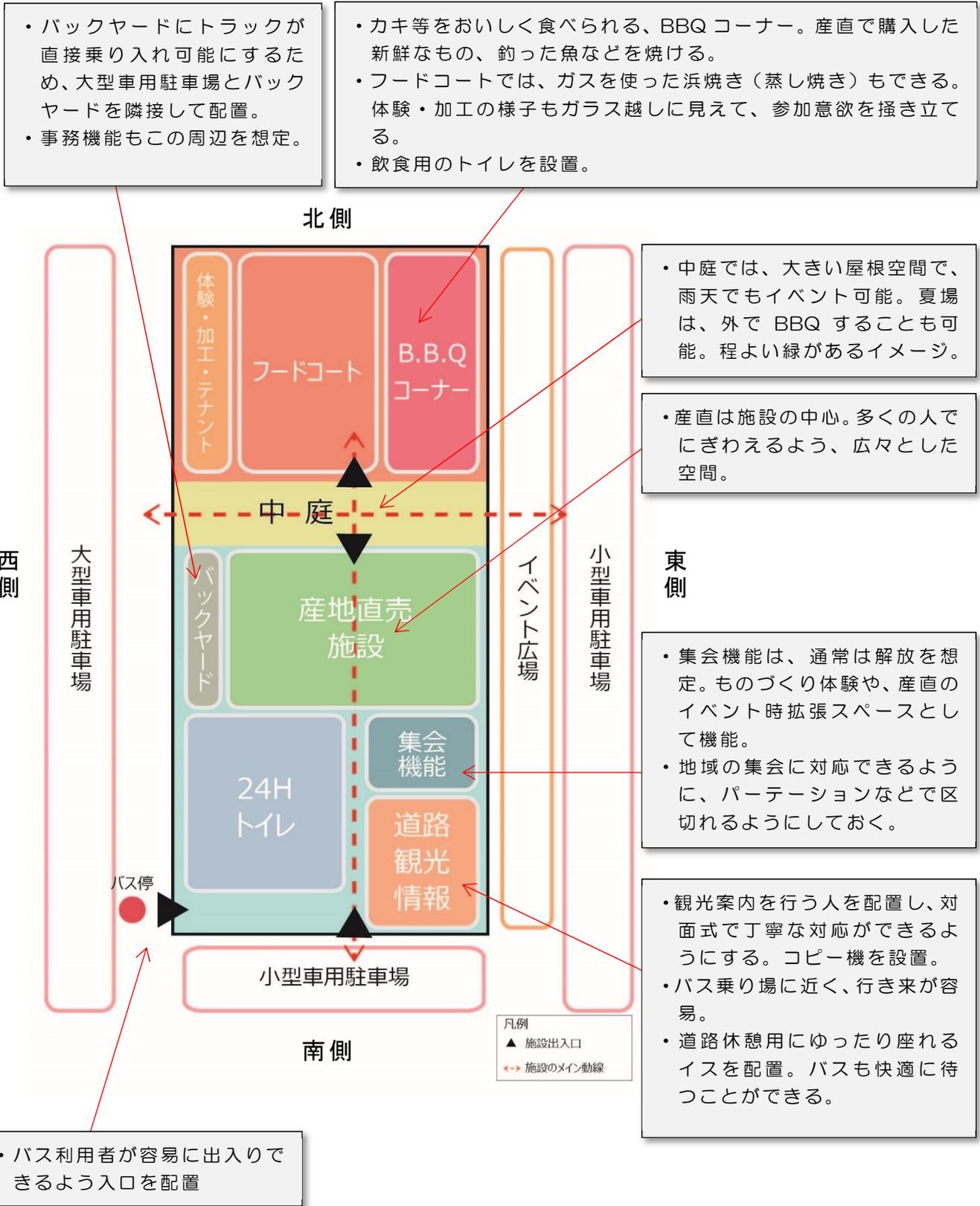
- 三陸道側から施設内の賑わいが見えるように、東側に BBQ コーナー、産直施設、道路観光情報施設を配置します。東面で日陰になりやすいことを逆手にとって、中の様子が見えるような大きい窓と、照明の配置などを検討します。
- 外構についても東側にイベント広場を設け、三陸道から賑わいを見渡せる配置とします。
- 施設のメイン出入口は、小型車駐車場からのお客さんを考慮すると東側が適していると思われるのですが、周辺の住宅への影響を考慮し、東西軸上に中庭を配置し、そこをメイン出入口とします。
- 中庭を介して、北側の飲食スペース、南側の産地直売スペースに、スムーズにアクセスできる配置とします。
- 南側は、24 時間開放することを考慮して、トイレ・道路情報施設を南側に寄せて、こちらにも出入口を設けます。動線上の縦軸を形成します。

<意匠デザインの留意点>

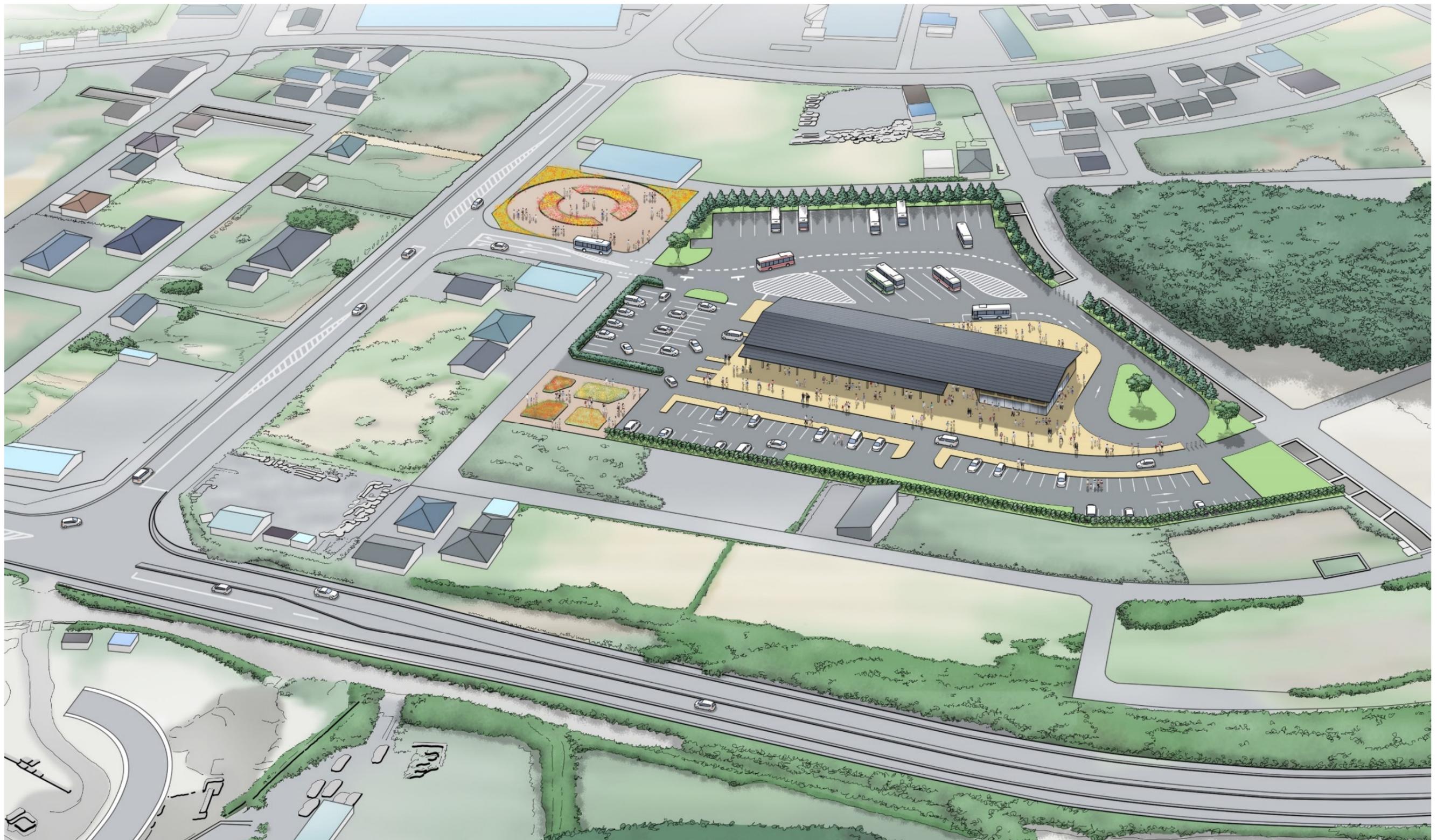
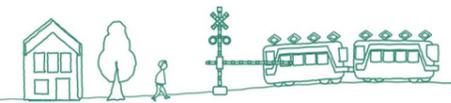
- 南側の駐車場メイン出入口からの見た目に対する印象に配慮した立体デザインとなるよう工夫を設けます。



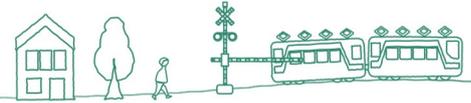
図表 2-51 敷地ゾーニング図



図表 2-52 施設内レイアウト・ゾーニング図



図表 2-53 道の駅 鳥瞰イメージパース



2-4 概算事業費の算出

新たな観光拠点として整備する道の駅の面積規模から概算事業費を算出しました。なお、本事業費は基本計画段階の概算費用であり、今後、設計を進める中で以下の金額は変動します。

■概算事業費

- ・ 概算工事費は類似事例の事業費より下表の想定工事単価を設定し算出。約 11.0 億円
- ・ 測量、外構設計、建築設計、工事監理費等の調査設計費は概算工事費の 1 割程度として算出。約 1.1 億円
※運営事業者の立ち上げに要する費用（専門の招聘など）等は含まず。
- ・ 合計：約 12.1 億円

図表 2-54 概算工事費の内訳

施設区分	構造・仕様	面積	想定工事単価	想定事業費
駐車場・外構施設	As、インターロッキング、緑地広場等	14,000 m ²	15,000 円/m ²	2.1 億円
建築施設	木造平屋建て	1,610 m ²	550,000 円/m ²	8.9 億円
合計				11.0 億円

※想定工事単価は、近隣市町村の事業費単価を参考に切り上げて設定

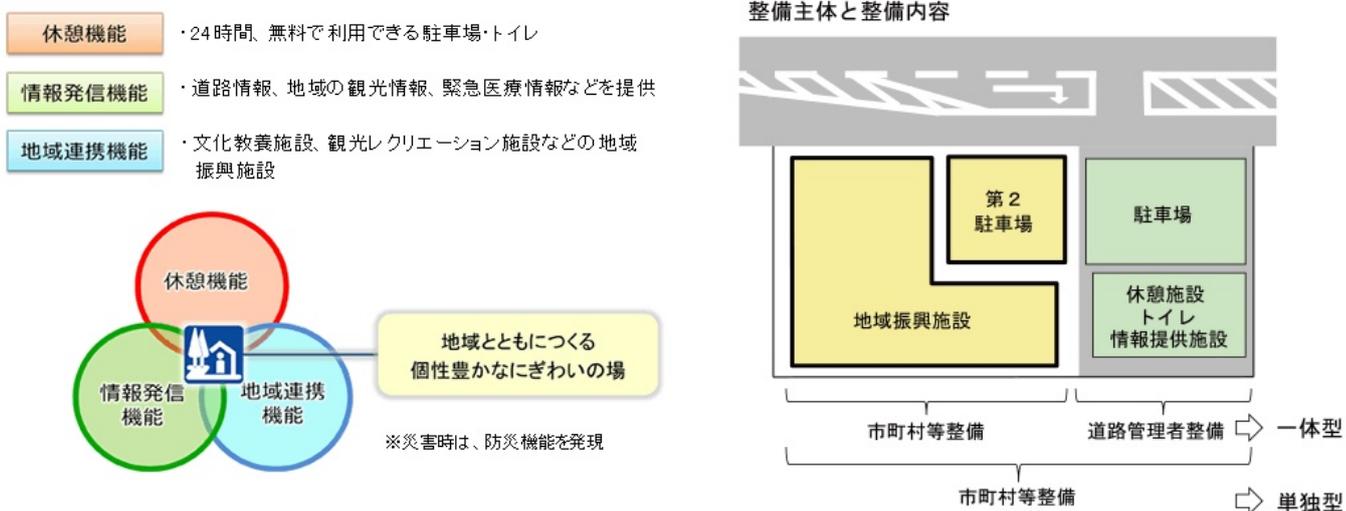
※土地取得費、什器備品等の購入費用は含んでいません

2-5 整備手法及び管理運営手法の検討

2-5-1 整備手法

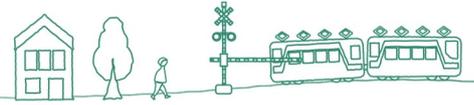
(1) 整備主体

道の駅の整備手法としては、道路管理者と自治体が協力して整備を行う「一体型整備」と、自治体が単独で整備を行う「単独型整備」があります。全道の駅のうち、約56%が「一体型整備」、約44%が「単独型」の道の駅となっており、現在の道の駅「やまだ」は「単独型」として建設されています。



図表 2-55 道の駅の概要

出典：国土交通省 HP



「一体型整備」のメリットは、道路管理者と協力して整備することによる自治体の費用負担軽減、広域的な道路情報の提供等があります。

新たな観光拠点は、道の駅としての整備を目指しますが、整備手法としては「一体型整備」を想定します。整備主体毎の役割分担は、次頁のとおりと想定され、今後協議をしながら設計・整備を進めていきます。

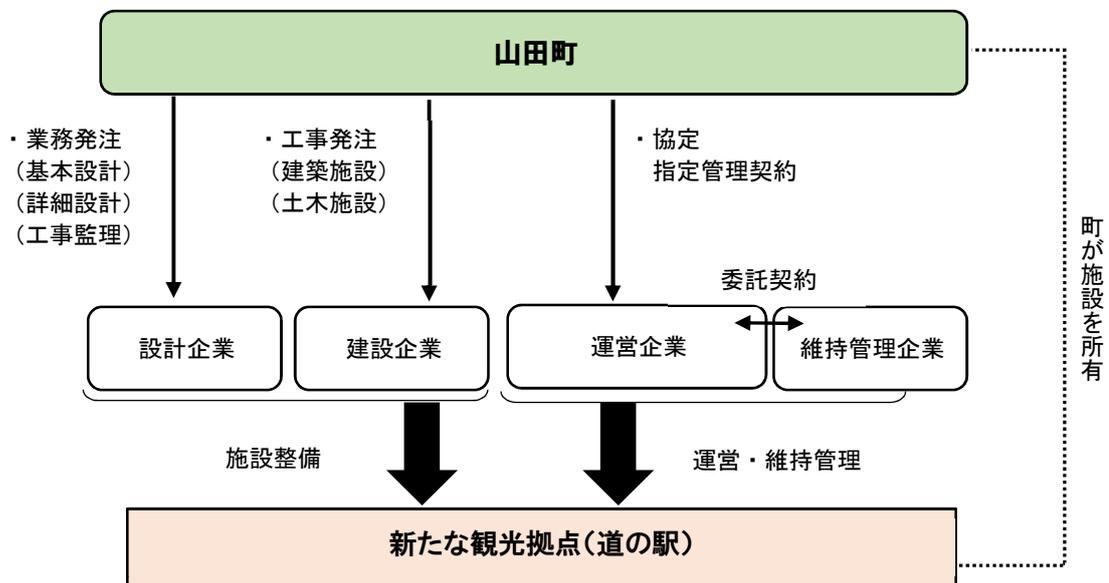
図表 2-56 導入機能別整備主体（一体型を想定した案）

機能		面積		想定される整備主体		
				山田町	道路管理者	
休憩機能	駐車場			○	○	
	①24時間トイレ	250	m ²	○	○	
	子育て関連施設	20	m ²			
	②道路情報施設・観光情報施設	170	m ²	○(観光情報)	○(道路情報)	
地域振興施設	③飲食施設 (BBQ・下処理・フードコート)	食事面積	200	m ²	○	
		厨房面積	100	m ²		
	④テナント施設	40	m ²	○		
	⑤産直施設	450	m ²	○		
	⑥バックヤード	180	m ²	○		
	⑦食品加工施設	30	m ²	○		
	⑧事務室	30	m ²	○		
	⑨体験施設・集会施設	140	m ²	○		
延床面積 計		1,610	m²			

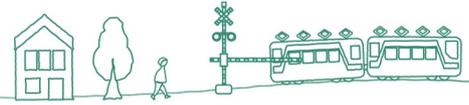
(2) 事業手法

事業手法については公設+包括運営委託方式（施設は町が建設・所有し、運営を民間に委託する手法であり、全国的に数多くの事例がある従来どおりの方法）を基本とします。

山田町から、設計企業へ設計業務発注、建設企業へ工事発注、運営企業へ指定管理委託をそれぞれ別個に、それぞれのタイミングで発注・対応します。そのため、設計→工事→運営委託の順番に検討が進むことが一般的ですが、課題として、運営者の意向が設計段階に反映され難いということがあげられます。そのため、魅力ある道の駅を形成するためには、施設設計段階から運営事業者の意見を反映させることが主要で、基本設計段階には指定管理候補者を擁立することを旨とする必要があります。



図表 2-57 事業スキームのイメージ（公設+包括運営委託方式）



図表 2-58 管理運営手法（事業手法）の比較

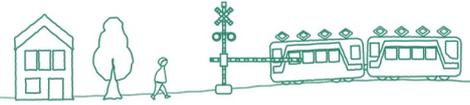
事業手法	概要	資金調達	設計建設	維持管理・運営
(1) 公設公営方式	<ul style="list-style-type: none"> 資金調達、設計・建設、維持管理・運営をすべて公共が行う。 三セクによる運営の場合は、この方式となる。 	公	公	公
(2) 公設+包括運営委託方式 (※従来方式)	<ul style="list-style-type: none"> 公共が設計・建設を行い、指定管理者制度により維持管理・運営を包括的に民間に委ねる。 現状、この方式が主流。比較的スムーズに運営者が決まれば最短で開業可能。 ただし、公共による設計が終わり、建設開始と並行して運営者が決まるため、運営者が使い難い、応用し難い施設構成となるという課題がある。 	公	公	民
(3) DBO方式 Design⇒Build⇒Operate	<ul style="list-style-type: none"> 公共が資金調達を行い、民間に設計・建設、維持管理・運営を一体的に委ねる。 近年散見される方式（※道の駅「京丹波味夢の郷」） PFI法に準じて運用されるケースが多い。 民間による設計であるため、事業計画に則った施設運用が可能。ただし、民間事業者参画の可能性を調査する必要があるため、(2)よりも開業までに時間を要する。 <p>※民間事業者コンソーシアムを立ち上げ、地元企業連合とすることも可能</p>	公	民	民
(4) PFI方式 Public Finance Initiative	<ul style="list-style-type: none"> 民間に全て（資金調達、設計、建設、維持管理・運営）を委ねる。 民間事業者が銀行から融資を受けて整備。公共が年割でサービスを購入する。そのため、最終的にイニシャル相当を公共が負担。 規模が大きく、複合的で、採算性が見込める事業であれば採用される方式。（※道の駅「つどいの郷むつざわ」など） 	民	民	民

(3) 活用が想定される補助メニュー（一部）

道の駅の整備に活用が可能と考えられる支援制度は以下のようなものがあります。今後、補助事業の要件等を確認し、適切な支援メニューの活用を検討していきます。

図表 2-59 補助メニュー（1/2）

省庁	支援制度の名称	概要	補助率
内閣府	地方創生推進交付金	地域経済の活性化という喫緊の課題に対応するため、地域の観光振興や住民所得の向上等の基盤となる先導的な施設整備等を支援するもの。	1/2
内閣府・厚生労働省	地域子育て支援拠点事業	児童福祉法に基づき、市町村が実施する「地域子育て支援拠点事業（乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業）」について、支援するもの。	10/10相当（上限あり）
総務省	地域経済循環創造事業交付金	産学官の連携により、地域の資源と資金を活用して、雇用吸収力の大きい地域密着型事業の立ち上げを支援するもの。	原則 1/2 上限原則 2,500万円
	公衆無線LAN環境整備支援事業	無線LANによる無線通信を利用することが困難な状態の解消を図るため、特定の施設において、無線通信用施設及び設備並びに当該無線通信用施設及び設備の開設に必要な伝送用専用線を整備する事業を支援するもの。	1/2
	過疎地域遊休施設再整備事業	過疎地域の廃校舎や使用されていない家屋等の遊休施設を有効活用し、地域振興や都市住民等との地域間交流を促進するため、生産工施設、資料展示施設、教育文化施設、地域芸能・文化体験施設等の整備に要する経費に対して補助を行うもの。	1/3
環境省	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（設備の高効率化改修支援事業）	CO2 排出削減に向けて、機器全体の更新が困難な事業者に対して、エネルギー効率改善に寄与する部品・部材の交換・追加による設備の効率改善を支援するもの。	1/2
	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業）	地域防災計画又は地方公共団体との協定により、災害時に避難施設等として位置づけられた公共施設又は民間施設に、平時の温室効果ガス排出抑制に加え、災害時にもエネルギー供給等の機能発揮が可能となり、災害時の事業継続性の向上に寄与する再生可能エネルギー設備等の導入を支援するもの。	1/2



図表 2-60 補助メニュー（2/2）

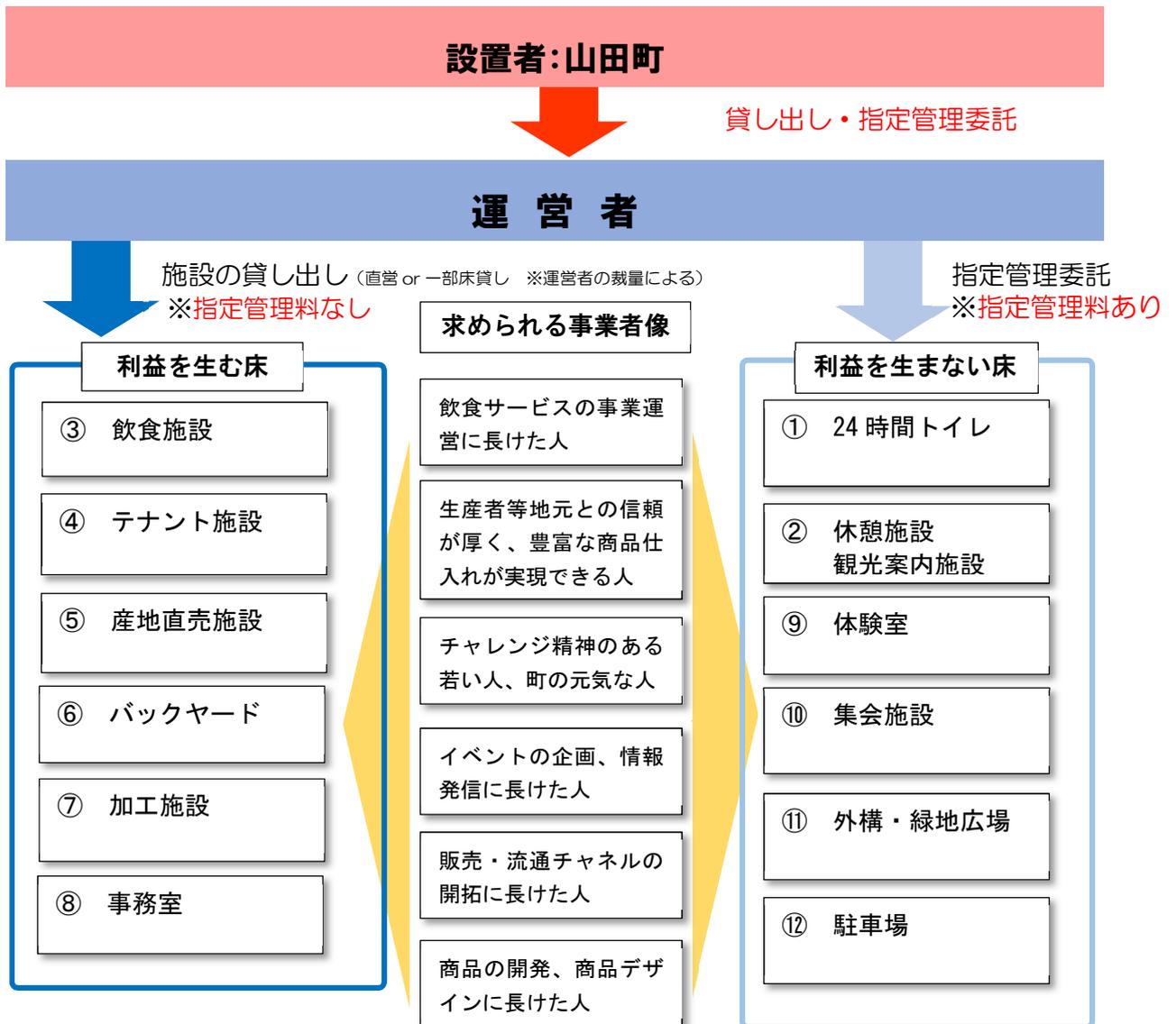
省庁	支援制度の名称	概要	補助率
農林水産省	農山漁村振興交付金 （農山漁村活性化整備対策）	地域の創意工夫による活動の計画づくりから農業者等を含む地域住民の就業の場の確保、農山漁村における所得の向上や雇用の増大に結び付ける取組までを総合的に支援するもの。	1/2
	食料産業・6次産業化交付金（加工・直売）	農山漁村の所得や雇用の増大を図るため、多様な事業者がネットワークを構築して取り組む加工・直売の取組み及び地域ぐるみの6次産業化の取組を支援するもの。	3/10 上限1億円
経済産業省	電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の充電インフラ整備事業費補助金	電気自動車及びプラグインハイブリッド自動車の普及に不可欠な充電インフラの整備を図るため、充電設備を設置する者に対して、充電設備費及び設置工事費の一部を補助もの。 道の駅は、国土交通省の道の駅に登録されているものを要件として、充電設備の機器購入費・工事費が支援の対象となる。	10/10
国土交通省	官民連携基盤整備推進調査費	官民が連携して策定する地域戦略に資する事業について、基盤整備の構想段階から事業実施段階への円滑かつ速やかな移行を支援するもの。	1/2
	社会資本整備総合交付金 （社会資本整備総合交付金事業）	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ることを目的とするもの。	概ね4割
	地域公共交通確保維持改善事業	生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段が提供され、また、バリアフリー化やより制約の少ないシステムの導入等移動に当たっての様々な障害の解消等がされるよう、地域公共交通の確保・維持・改善を支援することを目的とするもの。	1/2
観光庁	広域周遊観光促進のための観光地域支援事業	訪日外国人旅行者等の各地域への周遊を促進するため、DMO（※）が中心となって行う、地域の関係者が連携して観光客の来訪・滞在促進を図る取組を支援するもの。 ※ DMO(観光地域づくりの舵取り役): Destination Management/Marketing Organization	① 定額：上限2,000万円 ② 1/2
	訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（地方での消費拡大に向けたインバウンド対応支援事業）	訪日外国人旅行者の受入環境整備を行うための緊急対策を促進することを目的として、訪日外国人旅行者が利用しやすい観光地の公衆トイレ整備等に要する経費の一部を補助するもの。	1/3 ②のみ 1/2

2-5-2 管理運営手法の検討

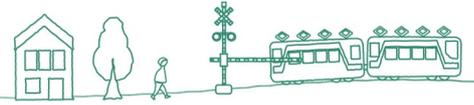
(1) 運営スキームのイメージ案

運営スキームのイメージを以下に整理します。設置者となる山田町は、運営者へ施設の貸し出し・指定管理を委託します。指定管理の対象となるのは、「利益を生む床」と「利益を生まない床」の2種類あり、「利益を生む床」については事業活動を行う場として施設の貸し出しを行います。施設管理料については、無償・もしくは経常利益からの一定料率徴収などを検討します。「利益を生まない床」については、公共性の高い機能として、施設の維持管理に要する費用の補填などを検討します。

また、それぞれの機能を上手に活用していくには、各機能の特質に合わせた人物を見つけ配置（適材適所）する発想が重要となります。



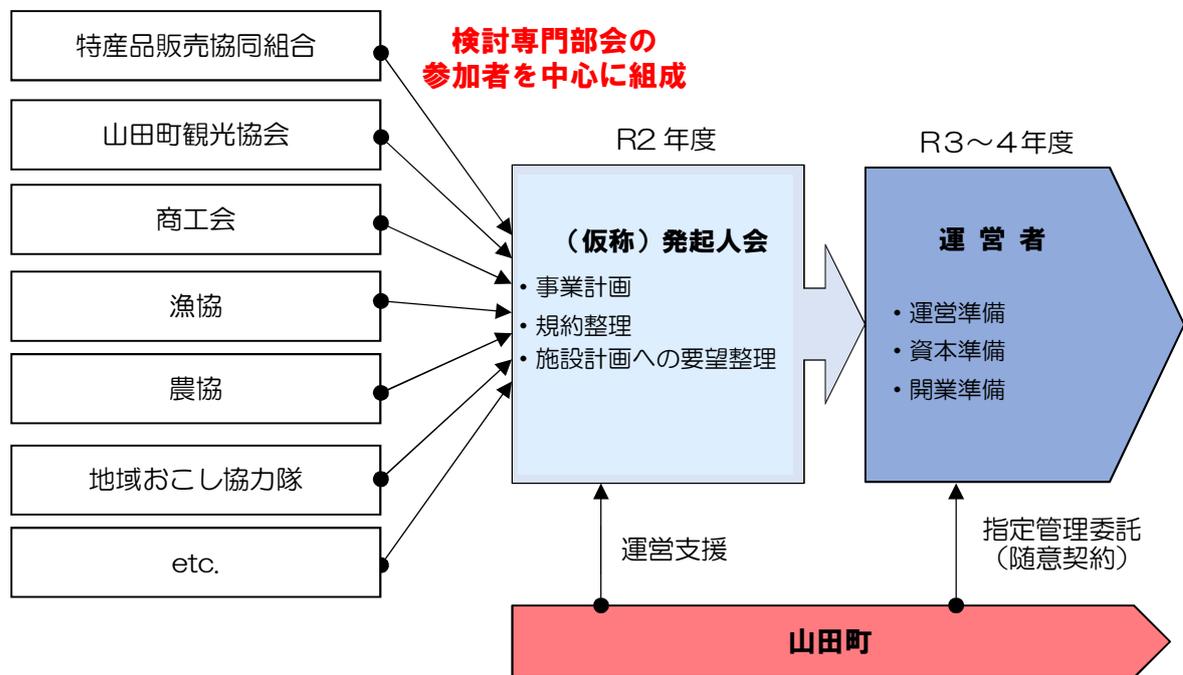
図表 2-61 運営スキームのイメージ



(2) 運営母体の立ち上げイメージ案

前述のとおり、将来的な使い勝手を良くするため施設の設計段階で運営事業者の目星を立てておくことと、各施設機能を最大限有効に活用するため、様々なタレント・人物の起用を柔軟に図ることが重要となります。

そのため、新たな観光拠点となる道の駅の運営を担うことを想定した組織として、(仮称)発起人会の立ち上げを目指します。当発起人会は、本基本計画検討のために検討専門部会に参加した町内の方々を中心に、町の中から有志を募ることが望ましいと考えます。町民を中心に組成することで、地域に根ざした道の駅の運営を図ります。



図表 2-62 運営組織母体の形成フローイメージ

山田町には、単独型の道の駅として1999年8月に登録（第15回）された道の駅「やまだ」があります。新たな観光拠点については、この道の駅「やまだ」の位置づけによって指定要件が変わる可能性があります。以下の2パターンに応じた指定要件の考え方を整理します。

① 現道の駅「やまだ」を道の駅として存続する場合

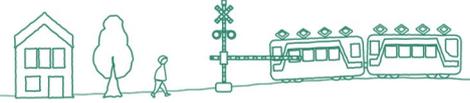
- ・新たな観光拠点を道の駅とする場合は、新規登録となります。
- ・新規登録の場合、道路休憩施設としての必要性（周辺に道路休憩施設が無く、交通事故発生を抑制するために休憩施設が必要であるなど）、防災拠点としての重要性、地域振興施設の必要性を考慮のうえ、道路管理者（三陸国道事務所）を通して東北地方整備局に新規道の駅設置を要望することになります。
- ・新しく道の駅を設置したことで、現道の駅の経営・運営にどのような影響を与えることになるのかといった検証が求められる可能性があり、この協議に想定外の時間を要することが懸念されます。特に、同じようなコンテンツが競争するような事態は避けられるべきです。

※ひとつの道の駅として2か所に分散することについては、本来の道の駅の意図（道路利用者のための休憩施設）を鑑みたときに、道路利用者の混乱を招く危険性が想定されるため、実現は難しいと考えられます。

② 現道の駅「山田」の場所変更とする場合

- ・新たな観光拠点を道の駅とする場合、リニューアルという扱いになり、新規登録は不要となります。そのため、整備事業に関する協議に要する時間は、新規登録する場合と比べて大幅な短縮が可能です。
- ・一方で、現道の駅は、船越地域の方々にとって重要な商業施設であるとともに、東日本大震災の津波被害を免れた、防災上安全性の高い場所に立地しています。このことを踏まえ、例えば、道の駅のサテライトスペースとして地域コミュニティ機能を重視した「まちの駅」「うみの駅」「地域拠点」としての再構築を併せて検討する必要があります。

⇒山田町では、上記それぞれのメリットや課題を踏まえ、整備方針について現道の駅運営事業者のご意向を踏まえながら、継続して検討をしていきます。

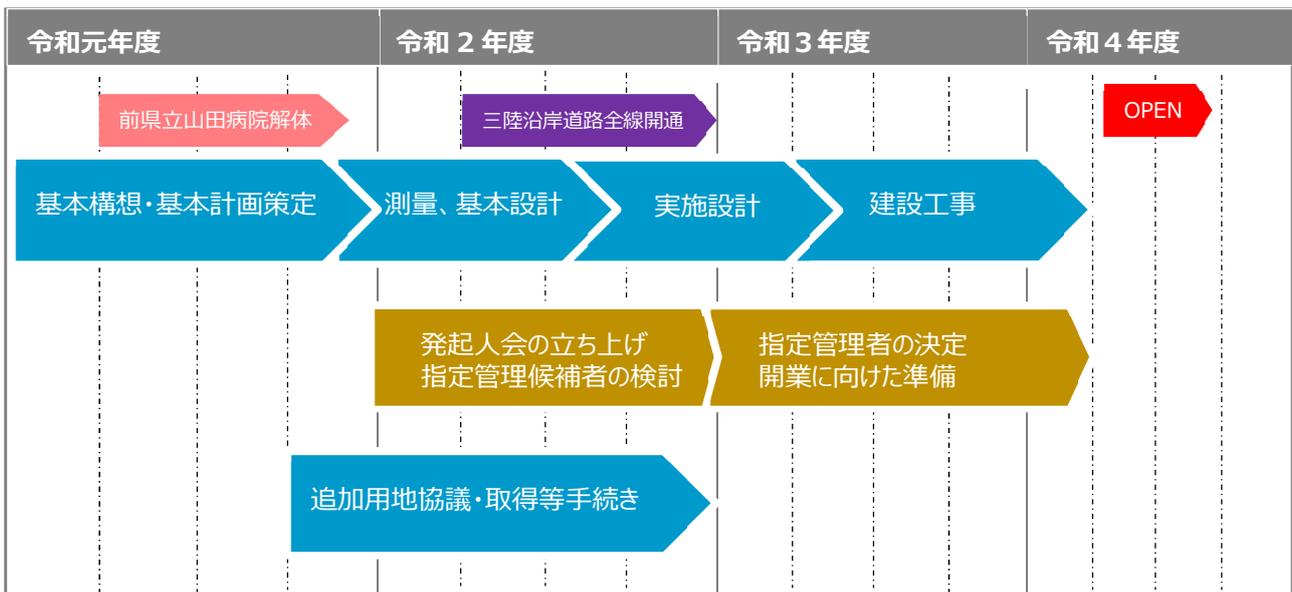


2-7 事業スケジュールと今後の課題検討

(1) 事業スケジュール

令和2年度に測量、基本設計を完了させ施設の根幹となる計画を策定します。この作業と並行して、新道の駅の運営者となるべき組織を結成するための発起人会を立ち上げ、検討を進めていきます。

令和3年度途中には、施設の実施設設計を終え建設工事に着手します。令和4年春頃には建設工事を完了し、夏頃のオープンを目指し進めていきます。



図表 2-63 概略事業スケジュール

(2) 今後の課題

今後、事業化に向けて、更に検討を深めるべき課題を以下に整理します。

① 発起人会への参加者の募集、立ち上げ等支援

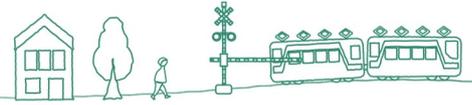
- ・基本計画として、専門部会での意見交換を踏まえながら新たな観光拠点（道の駅）のコンセプトや必要な機能などについて話し合ってきました。しかし、まだ運営事業者がいない、主体性が無い中で多様多様な意見を取り入れた計画となっています。そのため、次のステップとしては、実際運営に携わる組織の候補者となる組織を早期に立ち上げ、事業計画を構想することが重要となり、そのために部会委員を中心としたコミュニティの形成、視察旅行や研修の実施など、町民の積極的な関わりを継続して持つ必要があります。
- ・また、並行して、建物の基本設計が進むため、基本設計段階で施設に求める事項を設計に取り入れておくことが望ましいと考えられます。その理由は、実施（詳細）設計段階での方針転換は、後工程に非常に大きい影響を与える可能性があるためです。できたときに、使い勝手が悪い建物とならないように、適切なタイミングで設計サイドに意見と伝えることが重要となります。

② 運営母体の機能強化

- ・新しい観光拠点として整備する道の駅は、規模・機能は拡大し、来訪者の期待値も高いものとなります。特に来訪者については、昨今の道の駅ブームの拡大に伴い目が肥えており、また、WEBを通した口コミで様々な視点の評価がすぐに広がる傾向にあります。そのため、消費者側のニーズやトレンドを理解した運営が求められています。
- ・全国的に良い評価となっている道の駅への視察や、道の駅運営の立役者となっている有識者等へのヒアリング・意見交換を行うなど、運営母体の機能強化に向けた取組が必要となります。

③ 事業内容の強化・多角化

- ・健全な経営体制とするには、積極的な投資活動が必要となります。しかし、古い体質が残る多くの道の駅では、公設の薄利多売ビジネスから最低限の人員費を捻出することが精一杯で、広告宣伝活動や商品開発活動に資金を割けられていないという実態があります。これにより、売上高の低迷、従業員のモチベーション低下など、負のスパイラルに陥ってしまう傾向がみられます。
- ・そのため、比較的原価率も低く利用者の目的となりやすい飲食メニューを充実させることや、道の駅オリジナル商品の開発・販売など、多角化に乗り出していくことが重要となります。



④ ALL 山田町での取組及び町内全体へ誘導するための仕掛けづくり

- ・新たな観光拠点をきっかけに、町の中に人の流れが入り込んでくるように様々な仕掛けを ALL 山田町で考え、取り組み、実践していきます。その中心的役割を担う発起人会の立ち上げを支援していきます。

⑤ 廃校となる山田北小学校の利活用計画との連携

- ・北小学校や、防潮堤周辺の広場施設など、新たな観光拠点以外の拠点機能について方向性・計画をまとめ、R4年度に向けて整備していく必要があります。
- ・また、新たな観光拠点から近い山田湾海岸部に整備される防潮堤及び関連緑地など、新たな都市施設を観光資源として有効に活用できるよう、官民が連携して積極的に関わっていくことが求められます。

⑥ 船越地区の現道の駅施設の在り方に関する検討、合意の形成

- ・基本構想の整備方針において示したとおり、既存の道の駅「やまだ」、観光物産館「とっと」は機能移転・集約を目指し、現道の駅を前県立山田病院跡地に「移転リニューアル」する形で整備を進めます。
- ・一方で、現道の駅は、船越地域の方々にとって重要な商業施設であるとともに、東日本大震災で被害を受けず、防災上安全性の高い場所に立地しています。このことを踏まえ、例えば、「まちの駅」や「うみの駅」とするなど、地域の方々には商業施設や災害時の防災拠点として、来訪者にはトイレや休憩場所等を提供できる拠点として再構築を図るなど、移転後の在り方について引き続き関係機関と協議していきます。

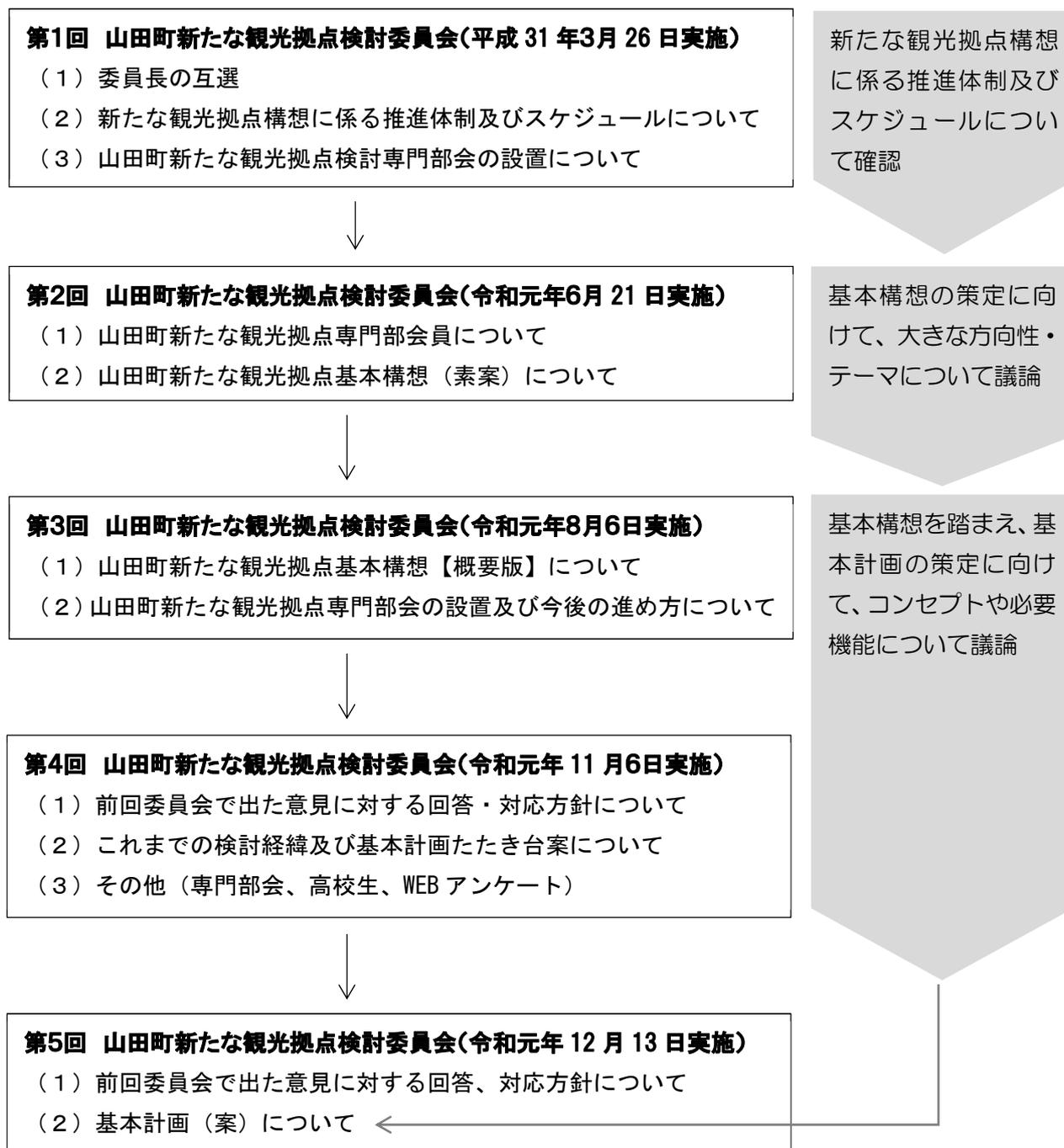
第3編

参考資料 (検討経緯)



3-1 検討委員会での調査検討経緯

基本構想・基本計画の策定にあたり、「山田町新たな観光拠点検討委員会」を組織し、下図のように全5回の検討委員会を開催しました。



図表 3-1 検討委員会の検討フロー図

(1) 第1回山田町新たな観光拠点検討委員会**■実施概要**

日付：平成31年3月26日（火） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：9名

■出席者

図表 3-2 第1回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭		○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄		○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		○
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 豊間根 章一		○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■議事概要**【議題】委員長の互選**

- ・本検討委員会は、委員長を三宅諭氏、副委員長を阿部幸栄氏とする。

【議題】新たな観光拠点構想に係る推進体制及びスケジュールについて

- ・本検討委員会で、「新たな観光拠点」の整備内容、整備スケジュールなどを議論する予定としている。
- ・前山田病院の解体は、平成31年7月に開始し、令和元年12月には更地になっている予定で計画している。

【議題】山田町新たな観光拠点検討専門部会の設置について

- ・専門部会の部会員選定にあたり、新たな観光拠点が「今」のためのものなのか、それとも「10年後」のためのものなのか考慮する必要がある。10年後を想定して計画するのであれば、学生を選定することも考えられる。



(2) 第2回山田町新たな観光拠点検討委員会

■実施概要

日付：令和元年6月21日（金） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：8名

■出席者

図表 3-3 第2回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		○
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 豊間根 章一		○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		×
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■議事概要

【議題】山田町新たな観光拠点専門部会員について

- ・部会員について、農協や漁協に所属する部会員については、「推薦者」や「代表者」という形で選出した方が良い。

【議題】山田町新たな観光拠点基本構想（素案）について

- ・通過されないように、特徴的な商品・サービスを提供し、ここが「目的地」となるような道の駅を目指すべきである。
- ・これからの世代として、地元高校生など若い人の意見も取り入れたい。
- ・山田町は夏が短いため、屋外で遊ぶことのできる期間が限定的である。屋外よりも屋内を充実させるべきである。
- ・道の駅整備の了解をスムーズに得るためにも、三陸国道事務所の方に委員会に同席してもらいたい。

(3) 第3回山田町新たな観光拠点検討委員会**■実施概要**

日付：令和元年8月6日（火） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：10名

■出席者

図表 3-4 第3回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		○
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 藤原 長一	8/6～	○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■オブザーバー

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	三陸国道事務所交通対策課	課長 沼田 龍治		○

■議事概要**【議題】山田町新たな観光拠点基本構想【概要版】について**

- ・人が立ち寄る為には綺麗なトイレを設置することが重要な要素となる。
- ・山田町単体で完結するのではなく、周辺市町村と連携するなど、山田町内外の周辺地域とのかかわりを重視すべきである。
- ・地元で普段、みんなが食べている日常の食事を、観光客に提供出来たら良い。
- ・観光情報はSNSの活用が一般的であるが、全ての情報をSNS上に出すのではなく、山田町のこの施設に来て初めてわかる情報を用意しておくことも有効である。
- ・前山田病院跡地のみならず焦点を絞るのではなく、廃校となる山田北小学校の跡地利用との連携についても考えていくべきである。



(4) 第4回山田町新たな観光拠点検討委員会

■実施概要

日付：令和元年11月6日（水） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：9名

■出席者

図表 3-5 第4回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		×
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 藤原 長一	8/6～	○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■オブザーバー

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	三陸国道事務所交通対策課	課長 沼田 龍治		○

■議事概要

【議題】 前回委員会で出た意見に対する回答・対応方針について

- ・第3回検討委員会において主な指摘事項として取り上げられた内容について、以下のような回答・対応方針を委員に提示し、了承を得た。

図表 3-6 第3回検討委員会での主な指摘事項に対する回答・対応方針（1/2）

	第3回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
1	・当検討委員会の位置付けはどのようになっているか。	→事務局より提示される構想・計画について地元目線の意見を頂く場として位置付けている。あくまで、決定するのは町議会となる。
2	・現在の道の駅「山田」を存続させつつ、新道の駅も整備して欲しい。ひとつの自治体に2つの道の駅を整備することは可能なのか。	三陸国道事務所 沼田課長回答 →道の駅の設置間隔としては、約10km以上離れていることが望ましいと言われている。 →ひとつの自治体に道の駅が2つあってはならないという決まりはない。ただし、同じ性格の道の駅を、近い距離の中で2つ維持しているという事例はない。2つ持つのであれば、お客さんの取り合いが起こらないように、性格の違うものとして、整備する方が好ましいのではないかと思う。
3	・周辺道の駅の駐車台数について、やまびこ館の駐車台数なども知りたい。	→基本計画資料内に反映。やまびこ館、久慈、高田松原を追加。
4	・新道の駅の中にATMを設置するなどのコンビニ機能を導入してみてもどうか。	→基本計画内で対応を記述。
5	・トイレの「綺麗さ」は道の駅利用において重要な要素となるため、トイレ整備に力を入れてどうか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
6	・新道の駅を整備するにあたり、近隣市町村との連携を図ることを検討してみてもどうか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
7	・牡蠣・ホタテ・ホヤなど山田町の特産品や、郷土料理を提供できる施設が欲しい。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
8	・新道の駅を整備するにあたり、「都会的な綺麗さ」より、山田町の「田舎っぽさ」を重視してみてもどうか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
9	・鮮魚をそのまま「素材」として売のではなく、捌いて販売するなど、消費者のニーズに合わせた販売方法を検討していく必要がある。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。



図表 3-7 第3回検討委員会での主な指摘事項に対する回答・対応方針（2/2）

	第3回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
10	・住民・国内観光客・外国人観光客といった幅広いターゲットに対し、それぞれが満足できるような施設の整備が必要ではないか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
11	新道の駅の整備を単独の事業として考えるのではなく、山田北小の廃校利用など、町内の他の施設との相互関係や、波及効果を考慮した整備が必要ではないか。	→その方向で検討を進める。基本計画としては、新たな観光拠点に的を絞り整理する。
12	新道の駅を、山田町のリアルタイムな情報を発信する場として整備してはどうか。	→SNS等を利用したリアルタイムの情報発信は重要な要素として認識している。運営者に求めていく事項として整理する。
13	施設から山田湾を眺めることが難しいならば、せめて情報発信に力を入れ、山田湾を一望できる場所の案内もあると良い。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
14	管理運営について、既存の組合が担うのか、あるいは新たな団体を立ち上げるのか検討する必要がある。	→今後の検討になる。基本計画としてまとめられた内容を踏まえて運営できる事業体の組成が望ましい。

【議題】 これまでの検討経緯及び基本計画たたき台案について

- ・食品加工の機能は廃校となる山田北小学校と分担することも考えられる。
- ・計画地から山田湾は望めないが、山田湾や地域の祭り等、町の魅力を発信する為の映像などの仕掛けが必要である。
- ・新たな観光拠点から町中に人が流れるような仕掛けが大事である。新たな観光拠点の整備は、新たなまちづくりをするという意味で取り組まなければいけない。
- ・新たな観光拠点の施設内にバス停の待合室も兼ねた空間を考えてほしい。

(5) 第5回山田町新たな観光拠点検討委員会**■実施概要**

日付：令和元年12月13日（金） 9:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：8名

■出席者

図表 3-8 第5回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		×
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 藤原 長一	8/6～	○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		×
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		×
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○
10	山田町観光協会	沼崎 真也	川石委員 代理	○

■オブザーバー

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	三陸国道事務所交通対策課	課長 沼田 龍治		○



■議事概要

【議題】 前回委員会で出た意見に対する回答・対応方針について

- ・第4回検討委員会において主な指摘事項として取り上げられた内容について、以下のような回答・対応方針を委員に提示し、了承を得た。

図表 3-9 第4回検討委員会での主な指摘事項に対する回答・対応方針（1/2）

	第4回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
1	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「やまだ」の従業員は11人程度だが、新施設ではより人員が必要となり、人員の確保が困難ではないか。 ・従業員数に関して、オープン当初は少人数とし、必要に応じて増員してはどうか。60人程度の団体客への対応はあまり考慮しなくても良いのではないか。 	<p>→傾向として、新道の駅のオープン時には相当の集客が見込まれ、その時点で多くの雇用を検討することが必要と考えられます。ご指摘の人員の確保は重要な課題事項として、今後、運営を担う事業者組成の中で検討をしていきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・食品加工の機能は、山田北小の廃校跡地に機能分化してはどうか。 	<p>→山田北小の廃校後の活用方策については現時点では明確なものはなく、本委員会でのアイデアも踏まえながら今後検討をしていく予定です。</p> <p>→将来的な北小との連携を見越し、道の駅としては、なるべく最小限の規模として機能設置を行います。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・展望台を作って、山田湾を眺められるカフェや食堂にしてはどうか。 ・関口川河口部の防潮堤緑地をビュースポットとして整備してはどうか。 	<p>→展望台の設置については、道の駅として整備する場合は相当の高さが必要であるため、今回の計画には盛り込みません。</p> <p>→ビュースポットを形成できるように防潮堤整備事業者である岩手県と協議を開始しています。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・山田湾の景観や、山田町で行われている祭りの様子などの映像を大きな画面に投影することによって、山田町の自然・文化を道の駅でも楽しめるようにしてはどうか。 	<p>→情報発信の手法のひとつとして、基本計画に盛り込みます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・鯨と海の科学館の機能を新道の駅に取り入れ、子どもが楽しめるようにしてはどうか。子どもがそのコンテンツを楽しんでいる間、親は自由に買い物を楽しめるのではないか。 	<p>→町内の機能分化の観点から、鯨と海の科学館で実施されているコンテンツとの差別化は必要であると考えます。一方、新道の駅において子どもが夢中になれるコンテンツの整備に関しては今後検討を進めていきます。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・松茸の競りは地元の人でもあまり観たことがなく、興味深い。 ・また、「松茸」は道の駅の運営（売り上げ）においても重要な要素である。 	<p>→松茸の競りに関しては、地元客・観光客の双方に興味を持ってもらえるコンテンツであることを認識したため、実現に向けて積極的に検討を進めていきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・想定している機能を全て包括できる建物を最初から整備するのではなく、ソフトの整備に合わせて建物も増築していく流れの方が良いのではないか。 	<p>→No 2の指摘・対応に関連</p>

図表 3-10 第4回検討委員会での主な指摘事項に対する回答・対応方針（2/2）

	第4回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
8	・いかに新道の駅から町中へと人の流れをつくるかについて、ソフト面での対応についてより検討したい。	→重要なテーマとして認識しています。観光情報出し方として今後検討を進めていきます。 No 4、5の指摘に関連
9	・自動車業界の動向次第ではあるが、EV車の専用駐車場をより多く整備した方がいいのではないか。	→今後運営者と協議していきます。 →駐車場内に冗長性を持たせた計画とします。
10	・バスの出入りが建物から視認できるような場所に、バス停を配置して欲しい。 ・寒い冬に屋外でバスを待たなくても良いように、待合室の機能が欲しい。	→バス乗り場の位置については、ご指摘の内容に合わせて修正します。関連して、施設内レイアウト計画でもバス利用者動線について考慮します。

【議題】基本計画（案）について

- ・「牡蠣、食うけえ、こ！」という山田町オリジナルのキャッチフレーズを、新たな道の駅の整備コンセプトに積極的に使ってほしい。
- ・山田町は現状、食材は豊富にあるものの、加工食品が弱い。安定した運営を行っていくにあたり、加工食品を充実させる必要がある。
- ・デジタルサイネージに関しては、ランニングコストや技術進歩の速さを見極めた上で、導入の検討を行った方が良い。
- ・トイレを目的とする利用者が産直施設等に立ち寄るような動線の計画が必要である。
- ・発起人会のような、運営について検討する組織を少しでも早く組織した方が良い。

基本構想・基本計画の策定にあたり、「山田町新たな観光拠点検討専門部会」の開催を全3回、また県立山田高校3年生を対象としたワークショップを1回開催しました。

第1回 山田町新たな観光拠点検討専門部会（令和元年8月21日実施）

- (1) ワークショップ形式の議論 60分
 ～山田町の強み、良いところ、どのような資源があるか～
 ～どのような機能が道の駅にあるとよいか～

資源の棚卸し、資源・魅力の再確認！

山田町新たな観光拠点 県立山田高校生ワークショップ(令和元年9月18日実施)

- (1) ワークショップ形式の議論
 ～新たな道の駅に必要な機能・コンテンツについて～
 ～新たな道の駅の商品アイデアについて～

第2回 山田町新たな観光拠点検討専門部会（令和元年9月18日実施）

- (1) 事例紹介の講演（仮題：全国の道の駅での取り組み事例紹介）
 ※『道の駅 旅案内 全国地図』編集長 守屋之克氏
 (2) ワークショップ形式の議論
 ～競争力のある魅力テーマの設定～
 ～新たな道の駅に必要な機能・コンテンツについて～

事例を学びながら、山田町の道の駅に必要なことを議論
 ターゲットを明確に！

第3回 山田町新たな観光拠点検討専門部会（令和元年12月6日実施）

- (1) ワークショップ形式の議論
 ～施設のコンテンツ・機能について～
 ～配置計画案について～
 ～施設の運営のあり方について～
 ※どのような運営が望ましいのかなど全体で意見交換

そのために必要な施設の機能について議論し、とりまとめ

図表 3-11 検討専門部会等の検討フロー図

(1) 第1回 山田町新たな観光拠点検討専門部会

■実施概要

日付：令和元年8月21日（水）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：13名

※参加者名簿は別紙



図表 3-12 第1回専門部会の様子

山田町で様々な観光業、農林漁業、サービス業に携わって頂いている方、総勢13名にお集まりいただき、第1回検討専門部会を開催しました。

山田町では、前山田病院跡地を「新たな観光拠点」として、「道の駅」として整備する基本的な構想について説明しました。当検討専門部会では、基本構想の内容をうけて、ワークショップ形式により、山田町の強み、良いところ、どのような資源があるのか、どのような機能が道の駅にあるとよいか、というテーマで約一時間の熱い議論を重ねました。

【観光施設検討専門部会】

- ・山田町の自慢として、カキ・ホタテの海産物やシイタケ等の特産品の他、ひゅうず・すつとぎ等の郷土菓子、朝ラー・朝イカ刺しのような独自の食習慣など、食に関するキーワードが多く出されました。また、町の祭りに命かける人、祭りに合わせて多くの人が帰って来ること、といった町の人の故郷への愛着が見出されました。
- ・新たな拠点には、周辺施設に無い大型観光バスツアー客を受け入れられる大きな食事所やRVパークの設置の他、大試食コーナー、購入した食材ですぐに網焼きができるスペース、漁師や農家が売場で食べ方を教える等、町の良い物を消費者に訴える仕組みが大事だという意見を得ました。
- ・さらに、山田北小学校のゲストハウスとしての利用など、周辺の施設や環境を活かしていくアイデアが出されました。

【物産施設検討専門部会】

- ・関口川河口部が「釣りスポット」であることに着目し、釣り具のレンタルや氷のサービスを行うことによって、新たな拠点を「釣りの拠点」にしてはどうか、といった意見がありました。
- ・「山田湾を望めるトイレの設置」など山田町独自の要素を取り込んだトイレの設置を望む声や、綺麗なトイレの整備を望む声など、トイレの整備に関する意見が多く出されました。

◆まとめ

- ・山田町の資源は何と言っても「海」であり、山田湾の美しい景観や、豊かな海産資源、そこから生まれる食文化であることを再認識しました。また、キーワードとして、「海に見えるトイレ」「朝のイカ刺しなど地元食材のレストラン」「コーヒー屋など地元テナント」「良い情報のぎゅっと詰め込み」「体験ができる」「釣り」「山田産のものしか置かない産直」などが出されました。
- ・また、前山田病院跡地以外に、「北小学校」のゲストハウス化や、「関口川河口」の釣り公園化など、周辺資源との連携方策についても議論されています。
- ・今後、こうしたキーワードをより具体的にイメージしながら、「基本計画」の検討を進めます。



図表 3-13 第1回検討専門部会 出席者一覧

【観光施設検討専門部会 部会員 6名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町観光協会	沼崎 真也	部会長	○
2	新生やまだ商店街協同組合	椎屋 百代		○
3	山田町商工会青年部	松本 龍太		○
4	R45design	佐藤 健		○
5	ジオトレイル	川村 将崇		○
6	山田町特産品販売協同組合	芳賀 隆		○

【物産施設検討専門部会 部会員 7名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町特産品販売協同組合	阿部 達也	副部会長	○
2	観光物産館とっと	佐藤 博子		○
3	山田町商工会女性部	佐々木 千鶴子		×
4	山田町商工会青年部	間瀬 慶蔵		○
5	三陸やまだ漁業協同組合	鈴木 雄寿		×
6	JA 新いわて宮古営農経済センター	武藤 勝久		○
7	大沢養殖組合	鈴木 正幸		○

【オブザーバー 2名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	やまだ復興応援隊	服部 真理		○
2	山田町地域おこし協力隊	中島 崇		○

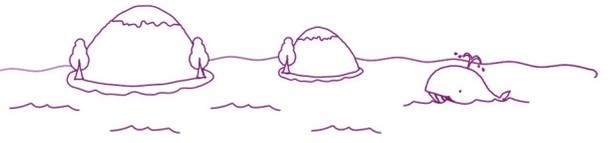
◆観光施設検討専門部会の記録

図表 3-14 第1回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録 (1/2)

山田町の「自慢」		道の駅やその周辺での活用の仕方
自然／環境	<ul style="list-style-type: none"> 山田湾 荒神様 夜は海が静か 夕風 	<ul style="list-style-type: none"> 展望台 冬のグランピング (冬にできる遊びが少ないので) 裏の山を使ったアクティビティ、山を登らせる、トレッキング等
食べもの	<ul style="list-style-type: none"> 椎茸、松茸 椎茸吹き込みご飯 水産加工品 養殖、海産物 瓶ウニ のしいか 山田せんべい 正月の雑煮 (くるみだれ) スナックが多い 	<ul style="list-style-type: none"> レベルの高い地元食材を出すレストラン 観光バスでの団体客が入れる食事処 (80人席程) こだわった美味しいコーヒー屋・洋食店 パックに入れて並べて並べるのではなく、魚は氷上にそのまま並べる 大試食コーナー (利き酒、利き塩辛) (儲かるか、よりもまず手に取ってもらう) 「山田産」しか置かない店 買ってすぐに網焼きができる、浜焼き・カキ小屋のようなサービスを提供する。海産物だけでなく松茸、するめ切り身も焼ける。 ホタテ山盛り丼のようなインパクトのある商品提供 (鶴亀屋食堂 (青森県) で提供している山盛りまぐろ丼のイメージ) 屋に地魚 (刺身) が食べられる食事処 (夜に提供する飲食店はあるが昼間は少ない)
遊び／イベント	<ul style="list-style-type: none"> シーカヤック マリネレジャー はしご酒 (春) (10年前から6回程開催している) 祭り (八幡大杉) 花火大会 パドルフェス 体験観光 ちやぶ台返し 	<ul style="list-style-type: none"> 生け簀の魚を釣れる (子供たちに体験してもらう) ここに来れば何かすぐ出来る体験コーナー (貝むきや貝殻アクセサリーづくり等) お客さんを町中に運ぶツアーの発券所 バスロータリー アスレチック、子供にやさしい木製遊具コーナー ドッグラン 「お金」になる情報の提供
産業／文化	<ul style="list-style-type: none"> オランダ船ブレスケンス号が1643年に入港した 鉱泉 (光山、嶋田) 六角堂 捕鯨の歴史 朝イカ刺し&大根おろしを食べる 盛岡と山田を結んだ山田線の歴史 天然の港 	<ul style="list-style-type: none"> 震災関連の展示、地震体験 (揺れが体験できる等) 津波の高さが分かる展示 (鯨と海の科学館にあるようなもの) 「海の町」を体験できるように船を置いておく (田老のように) 中途半端な展示はいいらない

図表 3-15 第1回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録 (2/2)

山田町の「自慢」		道の駅やその周辺での活用の仕方
町の人／子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> 町の半分の人には知り合いになれる ガイドできる漁師がいる まつりに命を懸ける人たちがいる 9月の祭りには皆、町に帰って来る 死んだ魚は食べられないという子供たち（常に新鮮なものを食べている） 	<ul style="list-style-type: none"> 常に目利きスタッフや漁師・農家（生産者）が売り場において選り方や食べ方、珍しい食材（マリンボウ等）の調理の仕方を教えてくれる。生産者も消費者と直接会話することで需要の把握や販路の拡大もできる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ICから近いまとまった場所 宮古の近く（カーフェリー寄港地） まちなかに近い 三鉄山田駅 	<ul style="list-style-type: none"> RVパーク（車中泊に対応、三陸道沿いにはない） 24hシャワー イベントスペースに屋台、キッチンカーを呼ぶ（駐車場の一面を使うのではなく専用スペースとして確保） 陸中山田駅から道の駅までの周遊、連携 山田北小のゲストハウス、臨時駐車場利用 アシスト付き自転車のレンタル



◆物産施設検討専門部会の記録

図表 3-16 第1回検討専門部会 物産施設検討専門部会の記録

山田町の「自慢」		道の駅やその周辺での活用の仕方
自然／環境	<ul style="list-style-type: none"> ・やませ ・雪が少ない ・オランダ島、小島 ・山田湾 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山田湾を望めるトイレの設置」など、山田町独自の自然・環境を活かした、ここしかない特徴的なトイレ ・山田北小の廃校利用との連携を図る。 ・山田湾、関口川河口部は釣りの穴場。釣り客を呼ぶ。「釣りの拠点」。 ・海の幸など魅力は強いが生産者の高齢化が課題となっている。そのため、漁師の方が、漁協を通して、通さなくても個人で商品を卸せるなど、仕入れの仕組みの構築。収入の増加につなげて欲しい。 ・生け簀の設置により、海産物の直売機能や、新鮮な魚介類を飲食できる機能を充実させる。(例：どんぶりに乗せるネタを自由に選べる海鮮丼など) ・製米機の設置 ・お客さんが自分で釣った地魚を、自分で魚の下処理や加工ができるスペースを用意し、そのまま BBQ で焼くことができる設備 ・上記設備は、商品製造だけでなく、魚介類の捌き方や調理法を教える「体験」スペースとしても活用する。 ・浜焼きやバーベキュースペースは、団体客でも対応できる規模で整備する。また、ペット同伴でも楽しめるよう、新道の駅の外構にそのような空間を整備する。 ・「とっとと燻」など、オリジナル商品を開発できる加工室を整備する。
食べもの	<ul style="list-style-type: none"> ・山田の醤油 ・鹿、熊、イルカ ・山菜 ・塩うに ・塩辛 ・磯ラーメン ・キリキリせんべい ・松茸、椎茸 ・牡蠣、ホタテ、しゅうり貝 ・定置網で捕れた地魚 ・山田生せんべい ・すつとぎ、ひゅうず ・生うに ・あわび ・朝イカ刺し ・新巻鮭 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理（小豆ばつとうなど）、カキフライ定食、ワカメソフトなど、山田産の素材を活かした商品を中心に販売する。 ・朝イカ刺しなど、地元の人と同様の朝食メニューを提供する。 ・地元の既存店舗をテナントとして誘致。うどん、唐揚げなどを販売するファーストフード店や、パン屋などが出店しやすいよう、新道の駅内にテナントブースを用意する。
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・河口部での魚釣り ・オランダ島・小島でのシーカヤック ・すごく綺麗なのは小島、子どもは泳いで行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「釣り」の拠点として、釣りのレンタルや氷のサービスを行う。 ・新道の駅周辺でカヤック体験が行えるよう、新道の駅でもカヤックの貸し出しサービスを行う。また、カヤックをしている光景を新道の駅周辺で見られるよう工夫する。
産業／文化	<ul style="list-style-type: none"> ・現道の駅も賑わいの拠点、現運営者の立場としては、道の駅として残して欲しい。 ・捕鯨の基地 ・イルカ漁、突きん棒 	
子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に総理大臣を輩出したパラリンピックの選手 	



(2) 山田町新たな観光拠点 県立山田高校生ワークショップ

■実施概要

日付：令和元年9月18日（水）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：24名



図表 3-17 県立山田高校生ワークショップの様子

県立山田高校3年生、計24名にお集まりいただき、新道の駅に欲しい機能、コンテンツや、新道の駅で販売したい商品のアイデアについて、ワークショップ形式で議論・発表を行いました。

当日は、まず「道の駅やまだ」の見学を行い、その後町役場に移動し、4グループに分かれてワークショップを行いました。高校生が新・道の駅への提案として事前に考えていたことに、「道の駅やまだ」の見学を通して感じたこと、考えたことを踏まえた発表がされました。

発表では、高校生ならではの柔軟な発想から出されるアイデアや、将来利用する可能性のある様々な人の視点に寄り添ったアイデアが出されるなど、新道の駅整備にとって有意義な提案が多く出されました。

■新道の駅の機能・コンテンツについて

- ・巨大な観光マップの設置や、壁、天井を利用して巨大な山田町の地図をつくるなど、「普通」を超えた施設にしたいという意見が出されました。
- ・ホタテ釣りで獲ったものや、産直コーナーで買ったものなど、その場で入手した食材をその場ですぐに食べることのできる空間／サービスを提供してはどうか、という意見が複数出されました。
- ・ドライバー、乳幼児・高齢者、ペット同伴の観光客など、あらゆる立場のニーズに合わせたリラックスマルームを設置することが提案されました。足を伸ばしてくつろげることや、一つ一つのスペースに簡単な仕切りを設けること、ペット同伴の空間は他の空間とは少し話して設置することなど、利用する側の立場になって考えられた具体的な提案がされました。
- ・新道の駅から、オランダ島や「鯨と海の科学館」に観光客を運べるシャトルバスを運行するなど、新道の駅を山田町全体に人を広げる拠点とすることが提案されました。

■新道の駅の商品アイデアについて

- ・山田町の特産品である「山田生せんべい」を生地として利用した、山田生せんべいクレープが提案されるなど、すでに現在山田町にある特産品を利用して新たなスイーツを開発する提案がされました。
- ・また、オランダ島や小島が浮かんでいる山田湾の風景を表現したカレーが提案されるなど、山田町を想起させる風景や形状を模した新商品を開発することも提案されました。
- ・そして、山田町が誇る「海の幸」と「山の幸」を堪能できる商品も多く提案されました。「海の幸」と「山の幸」どちらかに特化した商品が提案されると同時に、「シイタケと鮭のホイール焼き」のように、「海の幸」と「山の幸」の両方に恵まれた山田町ならではの商品も提案されました。

図表 3-18 県立山田高校生ワークショップでの提案内容

高校生の提案	
内装／外装	<ul style="list-style-type: none"> 窓や床に絵を描く。 窓を山田の名産物（魚、貝）の形にする。 床に山田の砂と貝殻を敷き詰めて、その上に透明なガラスを敷く。 オランダ島をオマージュした外観
	<ul style="list-style-type: none"> 二階建て、テラス付き（海が見えるように） 通路を広くし、ベビーカーや車いすを通りやすくするなど、バリアフリーを意識する。 内装のほぼ全面を使って山田町の大きな地図をつくる。
機能・コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> うどんやハンバーガーの自動販売機 フードコート（カフェ、海鮮井などを提供する食堂） 市場のように獲れたての海産物の販売 お弁当の販売
	<ul style="list-style-type: none"> 音声付きの案内板 海の見えるリラクスクスルーム（足を伸ばせる、飲食物を持ち込まない、ペット同伴のスペースを別で用意） シャワー室、入浴施設 トイレのふたをホタテの貝殻の形にする トイレを広くきれいにする。
休憩／情報施設	<ul style="list-style-type: none"> 山田町のグッズなどを販売するお土産コーナー 直接海の生き物と触れ合えるコーナー（子どもが楽しめる機能） 道の駅発のツアーを行うため、シャトルバス乗り場の設置（道の駅⇄オランダ島、鯨と海の科学館など） ペットの遊べるスペース（長旅で疲れたペットの休憩）
	<ul style="list-style-type: none"> 山田町のグッズなどを販売するお土産コーナー 直接海の生き物と触れ合えるコーナー（子どもが楽しめる機能） 道の駅発のツアーを行うため、シャトルバス乗り場の設置（道の駅⇄オランダ島、鯨と海の科学館など） ペットの遊べるスペース（長旅で疲れたペットの休憩）
その他	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場／給油施設 キッズスペース（子ども連れの人が気軽に利用しやすくするため） 体験コーナー（貝を用いたアクセサリー作りなど） 望遠鏡の設置（海を見渡すため） 観光客も地元の人も参加できるイベント（季節ごと、数日に1度）
	<ul style="list-style-type: none"> 牡蠣チャウダー オランダ島ケーキ、ドーナッツ（ずんだクリーム、スポンジ、貝殻チョコ） 山田クッキー（お神輿やオランダ島、ヤマダちゃんのイラストをプリント） 山田せんべいソフト 山田生せんべいクレープ ワカメバウムクッキー（小分けにして販売） クジゼリー（クジラの形のゼリー） 貝殻の形のマドレーヌ 山田湾を模したカレー（オランダ島と小島のようなご飯の盛り付けをし、海の部分をカレーにする。ご飯にわかめを混ぜて、島の木をイメージしたご飯にする。） 山田パエリア イカ墨パスタ
商品	<ul style="list-style-type: none"> シイタケと鮭のホイール焼き 山田ラーメン～海味～（塩ベース、ホタテ・カキ・ワカメ・メカブ・シユウリなど山田で獲れる海産物） 山田ラーメン～山味～（しょうゆベース、シイタケ・タラの芽・ワラビ・ウルイなど山田で獲れる山の幸） シイタケのだし茶漬け 海茶漬け（アサリや昆布の出汁） シイタケご飯 山田町の食材を使った海鮮丼 缶バッチ、キーホルダー、ぬいぐるみ、筆記用具（山田の祭り関係） お祭りカレンダー
アイデア	<ul style="list-style-type: none"> シイタケと鮭のホイール焼き 山田ラーメン～海味～（塩ベース、ホタテ・カキ・ワカメ・メカブ・シユウリなど山田で獲れる海産物） 山田ラーメン～山味～（しょうゆベース、シイタケ・タラの芽・ワラビ・ウルイなど山田で獲れる山の幸） シイタケのだし茶漬け 海茶漬け（アサリや昆布の出汁） シイタケご飯 山田町の食材を使った海鮮丼 缶バッチ、キーホルダー、ぬいぐるみ、筆記用具（山田の祭り関係） お祭りカレンダー



(3) 株式会社ゼンリン守屋之克氏 講演

■「道の駅」における利用の傾向と魅力とは…

- ・ 道の駅の利用目的は、「休憩」「特産品購入」「道路・観光情報収集」が上位
- ・ 東北は全国平均に比べ「道の駅めぐり」を目的とする利用者が多い傾向
- ・ 道の駅の評価ポイントは、「特産品」「食事・味覚」「店舗・施設の充実度」が上位
- ・ 東北の道の駅における人気上位は以下の通り。それぞれ何らかの特徴がある。

⇒特色をどのように打ち出すかが重要

図表 3-19 東北管内における道の駅 上位5位

	名称	人気の主な理由
1位	あ・ら・伊達な道の駅	品揃え
2位	道の駅象潟「ねむの丘」	景色の良さ、温泉
3位	道の駅米沢	食事・味覚
4位	道の駅「上品の郷」	-
5位	道の駅 雫石あねっこ	-

- ・ 人を惹きつけるポイントは、「気軽さ」「その土地らしさ」「非日常感（観光客）」
- ⇒訪問価値をどう高めるか。わざわざそこに行く理由をつくるのが大切

■「道の駅」好事例紹介

○ 道の駅 日立おさかなセンター（@茨城県日立市）

- ・ 海鮮丼の具材を自由に選ぶことのできる「身勝手丼」が人気。
- ・ 主な商圈は水戸首都圏。
- ・ 月末にイベントを開催しており、利用者向けの「競り」などが楽しめる。

○ 道の駅 もてぎ（@栃木県茂木町）

- ・ 中学校の廃校跡地に加工場を設置。柚子を買い取り、加工場を利用して6次産業化
- ・ 米粉バームクーヘンの工房を構えた。
- ・ メインにはなりにくい食品の利用。

○ 道の駅 氷見（@富山県氷見市）

- ・ 1999年登録、2012年移転により、機能に移すと同時に、温泉施設や足湯を新たに整備
- ・ 施設内は漁師の番屋をイメージし、テナントが分かれている。個人商店で買い物しているような印象。
- ・ 湾越しの景観が特徴。
- ・ 寒ブリシーズンに限らず、「食+温泉+景観」でリピーターを獲得している。

○ 道の駅 のと千里浜（@石川県羽咋市）

- ・ JAと市が後押しする「自然栽培」農法で作った「羽咋米」をブランド化。
- ・ 加工品の数が圧倒的に多い。催事にも対応している。
- ・ 外部へのPRも積極的に実施。
- ・ 獣害対策で仕留めたイノシシ肉を使い、猪肉のカレーパン、猪肉を使用したカレーのレト

ルトパックなどのメニュー開発を行っている。

- ・ヒットの要因として、デザインに力を入れていることが挙げられる。ブランディング力。こうしたことが次の購入意欲に繋がっている。

○ 道の駅 笠岡ベイファーム (@岡山県笠岡市)

- ・鮮魚コーナーで毎日「魚の詰め放題」を実施しており、オープン以来の人気イベント。ビニール袋に一斉に入れていき、全身が袋に入りきっていても可。10分程で魚が無くなる。
- ・地元より、近隣の市町村からの来客がメイン。干拓地を使った四季の花を見るついでに立ち寄る方も多い。
- ・何らかの売りをつくるべく、採算度外視で集客に繋げている。

○ 道の駅 たけはら (@広島県竹原市)

- ・周囲にフレンチが味わえるレストランが無かったため、フレンチシェフを呼び、「本格フレンチが味わえる道の駅」としてオープン
- ・海、山療法の地元食材を使ったメニューが特徴的。
- ・重伝建の起点に位置していることから、観光案内を行うと共に、地元ユーザーにも食材の新たな食べ方の提案・発信を行っている。

○ 道の駅 北浦街道 豊北 (@山口県下関市)

- ・景勝地「角島大橋」が近く、景観＋食事によるインスタ映えが人気
- ・「おまかせ海鮮丼」が人気
- ・仲買資格を持ったスタッフが地元漁港で買い付けを行い、レストランや店売している。
- ・地元にスーパーがないため、日用品の販売を行うコンビニ機能を併設している。そのため、観光客だけでなく、地元客からも人気。

○ 道の駅 よしうみいきいき館 (@愛媛県今治市)

- ・魚介類を使った海鮮七輪 BBQ が人気
- ・しまなみ海道が自転車の聖地となっていること、またレンタサイクルを行っていることから、海外、特にアジア系のサイクリストの観光客も多い。中国語などアジア圏の言語に対応できるスタッフを準備。英語圏のインバウンド客に関しては、英会話のできるスタッフが対応。
- ・渦潮を見ることのできる観潮船が道の駅から出航しており、観光の拠点になるなど、目的地化している。

○ 道の駅 むなかた (@福岡県宗像市)

- ・トップクラスの売り上げを誇る道の駅。
- ・売り場の半分で鮮魚を販売。鮮魚に関しては、近隣4か所の漁港から漁師が直接持ち込み販売している。午前中には売り切れてしまうため、漁師も時間をずらしてくる。
- ・野菜、果物に関しても買われており、相当な品揃えを誇っている。
- ・「福岡-北九州」間に立地しているため、ドライブがてら立ち寄る客も多い。
- ・魚文化継承のため、魚の捌き方体験(子ども向け)を定期的に行っており、人気がある。



○ 道の駅 いとまん (@沖縄県糸満市)

- ・ 2019年の「トリップアドバイザー」道の駅ランキング1位
- ・ JA、漁協、物産センターがそれぞれ別棟で建ち、組合組織で道の駅を運営
- ・ 食材目当ての地元客だけでなく観光客も楽しめるよう、一口サイズで販売しており、気軽に海の幸を味わえることから観光客（外国人も多い）に人気

-
- ・ トイレ、手洗い場、ロケーションも含めて、売りとなっている。
- ⇒トイレがセールスポイント化している。ロゴの工夫や、オリジナリティの創出など、うまく利用することが大切。
- ・ 子育て支援施設を併設し、地元向けにも道の駅を核として人を集める工夫をする自治体が増えてきている。おむつの販売や、液体ミルクの販売を行っている事例もある。
-

■ 「道の駅」のあるべき姿とは…

- ・ 誰のための「道の駅」であるべきか。
⇒観光客 or 地元客に特化した道の駅の方が人気。ターゲットがぼやけないように注意が必要。全員を対象とするとぼやける可能性が高く、深い印象が残らないリスクも高い。
- ・ 何を伝えたいのか。
⇒明確に見えないとダメ。どう伝えるかも重要。
- ・ 町全体が「道の駅」のビジョンを共有できるか。
⇒行政の協力が必要不可欠。整備した後は運営者に全てを委ねるとして、運営が苦しくなっている例がある。行政が、町全体の問題として、どう後押しするか。運営者任せにしないことが重要。6次化や、販路の確保など、町の後押しをすることが重要。住んでいる人がどう関わっていくか。

図表 3-20 株式会社ゼンリン守屋之克氏 講演 質疑・応答

①	質問内容	回答
①	新たな道の駅が高速道路のすぐ側にできるが、SAやPA的な使われ方が良いか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三沿道を通ると三滝堂からさんりくまでトイレがないため、そこで広域連携を図りたいという話を聞いた。新たな道の駅も三沿道に近いことから、トイレ利用がメインになることが予想される。 ・ トイレ休憩を目的にしてくる人は、ほとんど町には下りない。トイレ休憩後すぐに移動してしまう点では、PAに近い。 ・ 町中に人を流すためにも、通過されずに滞留させる仕組みづくりが大切
②	道の駅に関して、「商圈」という発想はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ないと云えない。川場田園プラザ（@群馬県）は、7割の客が首都圏から来ている。どう価値を見出すのが大切。山田町の新たな道の駅に関しても、価値の見出し方次第で盛岡や仙台から集客することもできると思われる。 ・ ただ、地元客中心の道の駅も多い。
③	山田町の新たな道の駅と似た立地の事例はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな道の駅が隣接する三沿道が「無料」であることに着目すると、山陰道沿線が似た立地になるかと思う。山陰道沿線の鳥取-島根の事例は参考になるかもしれない。 ・ 山陰道の事例に関連する話では、新しく山陰道が整備されたことによって、下道沿いにあった元々の道の駅が苦戦するようになった。
④	指定管理者の成功例は、どんな人が集まっているか。道の駅「のと千里浜」に関しては、デザインに特化した人が集まっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅「のと千里浜」の事例では、第3セクターを立ち上げ、事前の準備を行った。その際に、(株)四万十ドラマの立ち上げ集団のアドバイスを受けた。 ・ 「どうやって知ってもらうか。」ということに関して、市町村全体で盛り上げていくことが大切 ・ 出荷する側が距離を置いて、出し控えや、様子見をする場合もあるため、どれだけ住民を巻き込めるかが重要。
⑤	今回提示していただいた事例の規模感と、収益、集客力のバランスを知りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱は大きく、成功により事業規模を拡大した事例がある。 ・ 山田町の新たな道の駅も、スタートはコンセプトをつくり、徐々に事業を拡大していく方が良いと思う。
⑥	温泉はあった方が良いか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人気は高い。車中泊の人が利用することもあるが、人気の一番の理由は、温泉が「非日常感」を演出することだと思う。 ・ ただ、温泉が100%必要かという点、そうでもないと思う。
⑦	東北道の駅の人気トップ5は、売り上げ、収益に関してもトップクラスか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売り上げや収益に関して公表している道の駅は少なく、5つすべてに関しては分からないが、あ・ら・伊達道の駅に関しては、売り上げや収益に関してもトップクラス



(4) 第2回 山田町新たな観光拠点検討専門部会

■実施概要

日付：令和元年9月18日（水）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：15名

※参加者名簿は別紙



図表 3-21 第2回検討専門部会の様子

山田町で様々な観光業、農林漁業、サービス業に携わって頂いている方、総勢15名にお集まりいただき、第2回検討専門部会を開催しました。

今回の検討専門部会は2部構成で実施し、前半は(株)ゼンリンの守屋之克氏に『道の駅』好事例紹介』と題した講演を頂きました。

「気軽さ」「その土地らしさ」「非日常感（観光客）」が利用客を引き付ける大きなポイントであり、また独自の特色を打ち出すことが重要であるとのことでした。

今後、検討を進めていく上では、「道の駅」のあるべき姿として「誰の為の『道の駅』であるべきか」、「『道の駅』を通して何を伝えたいのか」「町全体が『道の駅』のビジョンを共有できるか」という視点が大切であるとお話いただきました。

後半は守屋氏の講演を踏まえ、前回の議論に引き続き、新たな道の駅に必要な機能・コンテンツと、コンセプト「(仮) 美しい山田湾から得られる豊富な海産物・地魚」に関する議論を行いました。予定時間いっぱいまで意見が出るなど、前回にも増して白熱した議論が行われました。

【観光施設検討専門部会】

- ・コンセプトに関しては、1月下旬から春先まで定置網がシーズンオフになることや、春や秋は山菜、シイタケ等の山の恵みが豊富であることから、山田湾を象徴とした海だけでなく山も含めて「山田町」であり、海と山が繋がっているストーリーを伝え、三陸、陸中の中での山田町の特徴をイメージするような言葉で認知度を高めることが必要というお話がありました。
- ・機能・コンテンツは前回出された案に対して、山田町の地域資源を活かした「観光客向け」の「食べもの」「遊び/イベント」に分類されたものが多くありました。
- ・町の「文化」を伝える内装デザインとしては「番屋」をイメージし、建物は木材を使用し、施設内は小さな店舗が並んでいて、漁具を置き、浜っぼさを演出するとの提案がありました。

【物産施設検討専門部会】

- ・美味しいカフェや、おしゃれな商品、また野菜詰め放題や、魚の掴み取りなど、地元客・観光客双方の女性が「トキメク」コンテンツを新たな道の駅に導入することが提案されました。
- ・また男性が「トキメク」機能として、関口川など周辺の釣りスポットを活かすべく、手ぶらで来た人間が釣りを楽しめるよう、氷のサービスや釣り具のレンタルをすることが提案されました。
- ・そして新たな道の駅では、山田町の特産品を活かした「ホタテ釣り」など、その場ですぐに体験できるコーナーを設けることが提案され、議論の結果、複数の案が出されました。

図表 3-22 第2回検討専門部会 出席者一覧

【講演者 1名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	株式会社ゼンリン	守屋 之克		○

【観光施設検討専門部会 部会員 6名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町観光協会	沼崎 真也	部会長	○
2	新生やまだ商店街協同組合	椎屋 百代		○
3	山田町商工会青年部	松本 龍太		○
4	R45design	佐藤 健		○
5	ジオトレイル	川村 将崇		○
6	山田町特産品販売協同組合	芳賀 隆		○

【物産施設検討専門部会 部会員 7名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町特産品販売協同組合	阿部 達也	副部会長	○
2	観光物産館とっと	佐藤 博子		○
3	山田町商工会女性部	佐々木 千鶴子		○
4	山田町商工会青年部	間瀬 慶蔵		○
5	三陸やまだ漁業協同組合	鈴木 雄寿		○
6	JA 新いわて宮古営農経済センター	武藤 勝久		○
7	大沢養殖組合	鈴木 正幸		○

【オブザーバー 2名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	やまだ復興応援隊	服部 真理		○
2	山田町地域おこし協力隊	中島 崇		○

◆観光施設検討専門部会の記録

図表 3-23 第2回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録

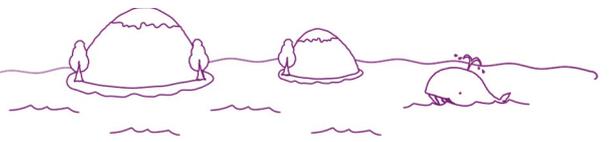
必要な機能・コンテンツ		観光客向け	
	地元客向け	地元客・観光客どちらも	
自然環境	—	—	—
食べもの	<ul style="list-style-type: none"> 下処理が可能なスペース (観光客は店の人に処理を頼む) 	<ul style="list-style-type: none"> おいしいコーヒー屋、洋食店 (まずは地元を受け入れられることが大事) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆せっかくなら旅先で地のもの食べたい <ul style="list-style-type: none"> 買ったものをその場で網焼き インパクトのある商品 (ホタテ山盛り丼等) 地元食材を出すレストラン、地元と同様の朝食提供、昼に地魚食べられる食事処 目利きスタッフ、漁師、農家が売り場に立つ 大試食コーナー 魚を氷上にそのまま載せる (美味しそうに見える、においもわかる) 「山田産」しか置かない (全国の「山田」産の商品でも良い)
遊び／イベント	<ul style="list-style-type: none"> 屋台・キッチンカー呼べるイベントスペース (地元の人を呼ぶ為のイベント、観光客はたまたま立ち寄る) 	<ul style="list-style-type: none"> ドッグラン、アスレチック遊具 カヤックの貸し出し (地元向け、初心者には難しいので観光客はツアーに呼び込む) 釣り船に乗れる情報 	<ul style="list-style-type: none"> ☆宿泊客向けのサービス <ul style="list-style-type: none"> RVパーク 冬のグランピング、小学校でキャンプ (受付は道の駅) ☆釣り客向けのサービス <ul style="list-style-type: none"> 釣り具レンタル、氷のサービス (昼の釣り客向け、たまたま立ち寄ってあれば利用する) 自転車レンタル 海を体感できる <ul style="list-style-type: none"> 生簀を設置、魚を釣れる、魚に触れる 「海の町」を体験できるコンテンツ その場ですぐに体験できるコーナー
産業／文化	—	<ul style="list-style-type: none"> 震災関連の展示 陸中山田駅から道の駅までの周遊・連携 	<ul style="list-style-type: none"> ☆内装について <ul style="list-style-type: none"> ⇒浜っばい番屋風の味のある空間 (演出した汚さ) 小さい店が並んでいる 漁具を並べる カキ殻等を装飾に使う 木材 (古材でアンティークっぽくても良い)
その他	—	<ul style="list-style-type: none"> 24h トイレ (地元の釣りする人も夜に使う、コンビニでも買わずにトイレ利用しづらい) ペット同伴できる BBQ スペース 地元の既存店舗をテナントとして誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ☆団体客 (80人程度) が入れる食事処 ☆オリジナル商品開発の加工室



◆物産施設検討専門部会の記録

図表 3-24 第2回検討専門部会 物産施設検討専門部会の記録

		必要な機能・コンテンツ	
		地元客・観光客どちらも	観光客向け
環境 自然	地元客向け		<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンによる映像などを使いながら、山田湾の風景を楽しめるトイレの設置 ・「海のまち」を体験できるコンテンツ
食べもの	<ul style="list-style-type: none"> ・地元客が仕事終わりに立ち寄れるように営業時間を延長 ・屋に地魚(刺身)が食べられる食事処 ・地元客の既存店舗をテナントとして誘致 <p>※地元商店と競合しないよう注意!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性向け「トキメク」コンテンツ(おしやれ、品揃えの豊富さ) <ul style="list-style-type: none"> ・美味しいカフェ、洋食店 ・おしやれな商品(タピオカ、オランダの食べ物など) ・野菜の詰め放題 ・魚のつかみ取り(生鮭、小魚など) ・大試食コーナー ・オリジナル商品の開発が可能な加工室 ・地元食材を出すレストラン(夜まで営業することにより、車中泊客への配慮も) 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を氷の上に乗せて販売(コストや、魚介類の鮮度の観点から生簀より有効!) ・生簀による貝類や魚介類の販売や、釣り体験(水温の調整が重要!) ・買ったものをその場で焼ける網焼きスペース(ペット同伴でも楽しめるよう屋外が理想) ・山田産の素材を活かした商品 ・地元の人と同様の朝食メニューの提供(塩ういおにぎり、イカ刺など)
遊び/イベント		<ul style="list-style-type: none"> ・男性向け「トキメク」コンテンツ(釣り) <ul style="list-style-type: none"> ・氷のサーブ、釣り具のレンタル ・魚の下処理や、捌くことが可能なスペース ・「山田産」しか置かない店 ・ドッグラン ・子ども遊び場、アスレチック 	<ul style="list-style-type: none"> ・その場ですぐに行ける体験コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・ひょうすず作り体験 ・すつとぎジェラート ・すつとぎ焼き ・ホタテ釣り ・目利きスタッフや漁師・農家などの生産者が売り場に立ち、捌き方などを教える ・カヤックの貸し出し窓口 ・松茸小屋(時々、競りに参加できる)
産業/文化			
人/その他			<ul style="list-style-type: none"> ・深呼吸が出来るような綺麗なトイレ ・牡蠣の貝をモチーフにしたデザイントイレ ・24Hトイレ ・EV車の充電用プラグ ・アシスト付き自転車レンタルによる町全体の周遊性アップ ・RVパーク ・「冷凍庫部屋」(ドライバークの眠気覚まし) ・屋台、キッチンカーを呼べるようなイベントスペース



(5) 第3回 山田町新たな観光拠点検討専門部会

■実施概要

日付：令和元年12月6日（金）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：12名

※参加者名簿は別紙



図表 3-25 第3回検討専門部会の様子

山田町で様々な観光業、農林漁業、サービス業に携わって頂いている方、総勢12名にお集まりいただき、第3回検討専門部会を開催しました。

今回の検討専門部会では、ワークショップ形式での議論に入る前に、基本計画（案）に対する意見交換が行われました。部会員からは新道の駅の整備コンセプトに対する意見が多く挙げられ、「海の幸」、特に「牡蠣」を前面に押し出した道の駅整備・PRを行うべきであるとの意見が出されました。

その後のワークショップ形式の議論は、新道の駅の「運営」を主なテーマに行われました。部会員の多くが普段から運営に携わっているため、運営者の立場から新道の駅の計画について多くの意見を頂きました。また部会員の方々からは、道の駅の好事例について学ぶ機会を求める声や、新道の駅の運営を自分事として捉える声が聴かれ、これまでも増して積極的な議論が行われました。

最後に事務局から、検討専門部会は今回で閉会となるが、来年度新たに発起人会を発足し、そこで改めて協力を仰ぐ可能性がある旨の告知がされました。

【観光施設検討専門部会】

- ・新道の駅が「観光の窓口」となることも重要であるが、道の駅自体が儲かる仕組みを作ることも重要であり、その扇動となれる人物（ex. 中澤さかな氏）が不可欠であるとの意見が出されました。
- ・また各々のコーナーを運営できる専門家が必要であり、その一例として、部会のメンバーがそれぞれの知識を活かして新たな組織をつくることが提案されました。
- ・情報発信コーナーについては、ツーリズムの情報発信だけでなく、その場で受付も行えるよう、運営者の事務所を併設することが提案されました。
- ・テナント施設については、現状町に空き店舗が無く、新たに出店する意欲のある人の受け皿がないことから、週替わり、月替わりで様々な店舗に入ってもらうことが提案されました。

【物産施設検討専門部会】

- ・トイレにおいて映像を流す等、トイレ利用者に対して町の情報を発信する仕掛けが必要であるとの意見が出されました。
- ・情報発信コーナーについては、デジタルサイネージの導入により常に新しい情報を提供することや、常に案内対応できる人を配置しておくことが提案されました。
- ・また情報発信については、観光情報やツーリズムに関するだけでなく、「釣り」の情報（イベント、釣り場、レンタル等）を多く提供することが提案されました。
- ・飲食コーナーでは、釣った魚や購入した魚介類を、店側が有料で処理、調理する仕組みが提案されました。

図表 3-26 第3回検討専門部会 出席者一覧

【観光施設検討専門部会 部会員 6名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町観光協会	沼崎 真也	部会長	○
2	新生やまだ商店街協同組合	椎屋 百代		○
3	山田町商工会青年部	松本 龍太		○
4	R45design	佐藤 健		○
5	ジオトレイル	川村 将崇		○
6	山田町特産品販売協同組合	芳賀 隆		○

【物産施設検討専門部会 部会員 7名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町特産品販売協同組合	阿部 達也	副部会長	○
2	観光物産館とっと	佐藤 博子		○
3	山田町商工会女性部	佐々木 千鶴子		○
4	山田町商工会青年部	間瀬 慶蔵		○
5	三陸やまだ漁業協同組合	鈴木 雄寿		○
6	JA 新いわて宮古営農経済センター	武藤 勝久		×
7	大沢養殖組合	鈴木 正幸		×

【オブザーバー 2名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	やまだ復興応援隊	服部 真理		○
2	山田町地域おこし協力隊	中島 崇		×

◆観光施設検討専門部会の記録

図表 3-27 第3回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録

導入機能 (規模想定)	運営者に求める事業者像	その他意見等
全体	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅で儲かる仕組みをつくれる人 (例：中澤さかな氏) 新しい風を吹き込む人 各々のコーナーへの専門家の配置 部会メンバーでの組織形成 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅「コンキリエ」の事例見学 運営者が決まらない段階では、パークションの利用により空間をフレキシブルに活用できるように工夫
① 24時間トイレ (230㎡)		<ul style="list-style-type: none"> コインシャワールの設置
② 道路情報施設 観光情報施設 (170㎡)	<ul style="list-style-type: none"> ツーリズムの受付まで行える人物・団体 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信コーナーに運営者の事務所を併設することにより、事務所のカウンターからすぐに案内対応が可能な仕組み 宮古を利用するフェリー客、トラックドライバーの立ち寄りへの対応の充実 (24時間利用可能な休憩スペース等)
③ 飲食施設 (300㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 牡蠣小屋として営業 	<ul style="list-style-type: none"> 朝限定メニューの提供 (イカ刺し、朝ラーメンなど) 浜焼きは炭火で対応
④ テナント施設 (60㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 「④テナント施設」と「③飲食施設」は一体の空間として整備し、その一角をチャレンジャーとしてテナント誘致 花巻市東和町で行われている「ワンデイシェフ」のように、日替わり、週替わりで店舗を入れ替える仕組み
⑤ 産地直売施設 (400㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 接客レベルの高い人物・団体 	
⑥ バックヤード (160㎡)		<ul style="list-style-type: none"> トラック2台が直接乗り入れ可能な大きさの間口を確保 牡蠣の運搬をするのであれば、フォークリフトも入る大きさが必要
⑦ 食品加工施設 (30㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 食品加工スペースの拡大
⑧ 事務室 (50㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営スタッフ以外に、ツーリズムのスタッフが常駐し、すぐ現場に行ける体制 	<ul style="list-style-type: none"> 「②道路・観光情報施設」と一体の空間として整備
⑨ 体験施設 集会施設 (140㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 「③飲食施設」と一体の空間として整備を行い、パークション等でイベント時に空間を仕切れる仕組み 外国人観光客の体験需要が増えているため、山田せんべい焼き体験等、火を使用できる空間の整備



◆物産施設検討専門部会の記録

図表 3-28 第3回検討専門部会 物産施設検討専門部会の記録

導入機能 (規模想定)		運営者に求める事業者像	その他意見等
全体			
①	24時間トイレ (230㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 映像を流す等、町の情報を発信する仕掛けの整備 男性用トイレの増加 SA基準の清潔感
②	道路情報施設 観光情報施設 (170㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 常に案内対応を行える人物(2名程度)の配置 魚の下処理を行える人物・団体 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルサイネージの導入により、常に新しい情報の提供 釣り情報の充実(イベント、釣り場、レンタル等) コピー機の設定 浜焼きは管理面から、炭火でなくガスで対応 朝、昼中心の営業 釣った魚や購入した魚を店側が有料で処理・調理するサービス 生食の牡蠣を提供 フレキシブルな座席配置 気軽に立ち寄って食べられる仕組み、品揃えの充実 6人掛け×6テーブル、4人掛け×6テーブルの規模感 レストランは個室にせず、オープンな内装 フードコートは立ち食いそば等のイメージ
③	飲食施設 (300㎡)		
④	テナント施設 (60㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 「③飲食施設」のフードコートと一体の空間として整備 20㎡×2店舗程度の広さで十分 営業時間を柔軟に変えられるような仕組み 組合員限定の特典(家賃の10~15%でテナント貸し出し等)
⑤	産地直売施設 (400㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 広告、PR技術に長けた人物・団体 	<ul style="list-style-type: none"> 500㎡の大きさを確保 9時-18時で営業 法人、個人を含めた協同組合の組織(100人規模) 買いたくなるような広告、PR 可能な限り「山田町産」のものを提供 「野菜/魚」や「冷蔵/冷凍」はスペースを分離
⑥	バックヤード (160㎡)		
⑦	食品加工施設 (30㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 弁当の販売(レストラン等との連携)
⑧	事務室(50㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 15㎡程度で十分
⑨	体験施設 集会施設 (140㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 松茸だけでなく、海産物の競りも時間限定で開催 誰でも参加可能 朝釣った魚を観光客に向け販売

3 -3 WEB アンケート調査



(1) 調査目的

■ 山田町の観光資源に関する現状認識を整理したい。

- ①山田町の認知度を回答者居住地別に整理する。
⇒認知度を高めるべき層はどのような人か把握。今後の KPI 管理指標にもなる。
- ②山田町の観光資源の認知度を、資源別に整理する。
⇒こういった分野が人気なのか（記憶に残っているのか）把握。強みの理解となる。

■ 今後、ターゲットとなる道の駅利用者像を設定するための基礎資料を得たい。そのために、利用者が道の駅に求めていることの一般解を得たい。

- ①利用頻度別に回答者属性（年齢、世帯構成）を整理する。
⇒「道の駅」の利用頻度が高いひとはどのような人か把握。
- ②三陸沿岸地域における「道の駅」利用者の傾向を把握する。
⇒三陸沿岸の「道の駅」を利用しているひとはどのような人か把握。
- ③利用頻度ごとに道の駅に求めている用事を特定する。
特に、利用頻度が比較的高い人の傾向を把握する。
⇒「道の駅」の利用頻度が高いひとはどのような人か把握。
- ④消費金額ごとに道の駅に求めている用事を特定する。
特に、消費金額が高い人の傾向を把握する。
⇒「道の駅」でお金を多く使ってくれるひとはどのような人か把握。

(2) 調査方法

1) 調査実施期間

Web アンケートにより、調査を実施した。

期間：令和元年 8 月 12 日～22 日

2) 調査実施期間

山田町を訪れる上での意思決定者となりうる、仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏、三陸沿岸道路沿線市町村在住で、15 歳以上の居住者を対象とした。サンプル数は 1500 票に設定した。

(3) 調査結果

調査結果は次頁以降に記載します。

山田町「新たな観光拠点」整備 に関するWebアンケート調査結果

令和元年8月
山田町

アンケート実施概要

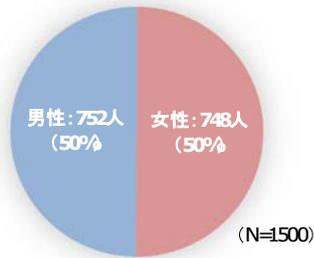
- 実施方法 : Webアンケートによるサンプル収集
- サンプル数 : 1,500票
- 配布対象 : 仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏
三陸沿岸道路沿線市町村の居住者(15歳以上)
- 実施期間 : 令和元年 8/12～8/22

Q1.回答者属性

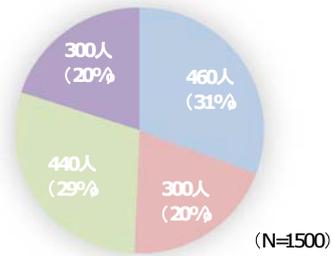
✓ 性別・居住地の偏りはなく、「40代・50代」と「2人世帯」の回答者が多い。

- ・回答者の男女比はおおよそ半々であり、居住地に関しては仙台都市圏、盛岡都市圏がやや多い。
- ・40代・50代の回答者がそれぞれ全体の約1/4を占め、世帯構成は2人世帯が全体の約3割で最も多い。

■回答者の性別

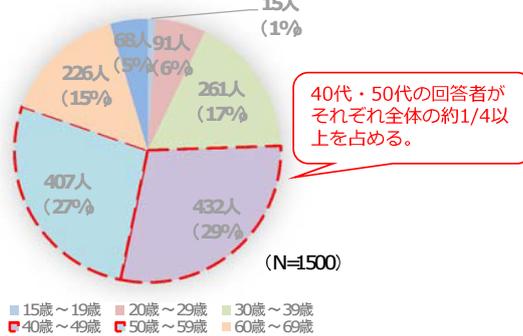


■回答者の居住地(都市圏)



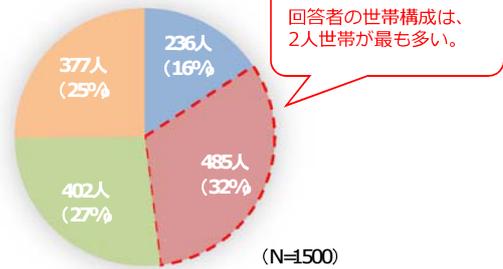
■ 仙台都市圏 ■ 八戸都市圏 ■ 盛岡都市圏 ■ 三陸沿岸

■回答者の年齢



■ 15歳～19歳 ■ 20歳～29歳 ■ 30歳～39歳
■ 40歳～49歳 ■ 50歳～59歳 ■ 60歳～69歳

■回答者の世帯人数



■ 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上

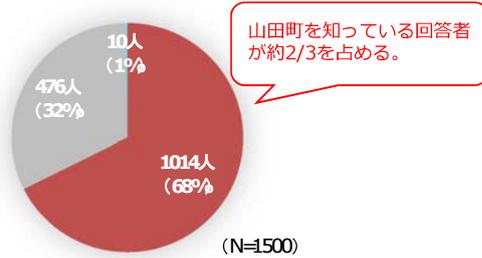
3

Q2.山田町の認知度

✓ 山田町を知っている回答者は約7割、そのうち立ち寄ったことのある回答者は約5割である。

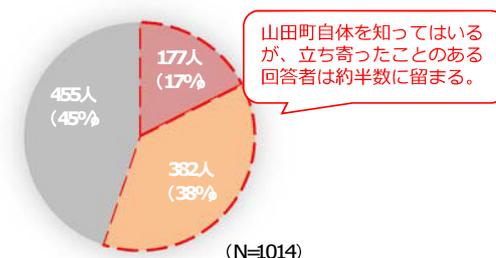
✓ 回答者の中でも特に、盛岡都市圏の回答者が最も多く山田町を訪れている。

■山田町の認知度



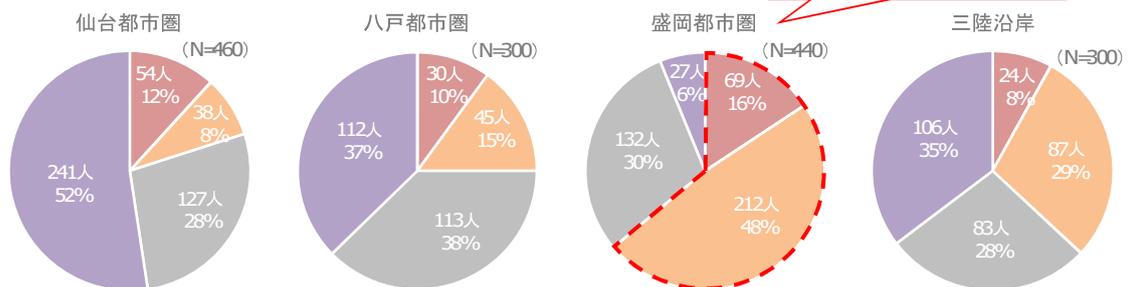
■ 知っている ■ 知らない ■ 住んでいるまたは住んでいた

■山田町の立ち寄り回数(全体)



■ 1度だけある ■ 何度かある ■ ない

■山田町の立ち寄り回数(地域別)

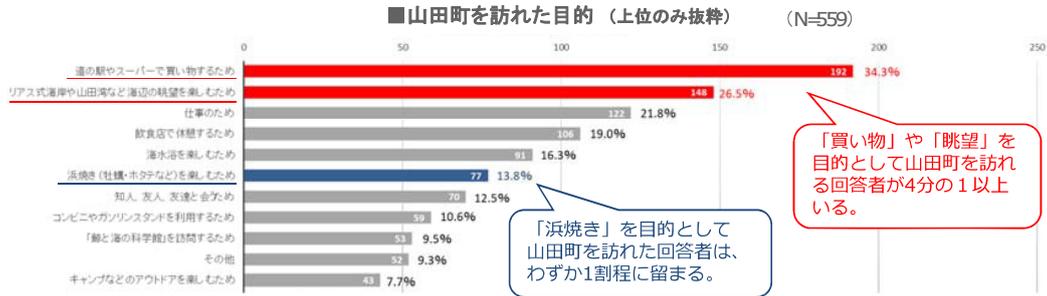


■ 1度だけある ■ 何度かある ■ ない ■ 山田町を知らない/住んでいる・住んでいた

4

Q2.山田町の認知度

- ✓ 「買い物」や「眺望」が山田町を訪れる目的の上位に来ている一方、「浜焼き」は目的としての認識が現状あまり高くない。
- ✓ どの地域の回答者も、「休憩」を目的として山田町を立ち寄ることがまあまあ多い。



仙台都市圏（N=92）	
1 仕事のため	31
2 リアス式海岸や山田湾など海辺の眺望を楽しむため	19
3 道の駅やスーパーで買い物するため	16
4 飲食店で休憩するため	12
5 浜焼き（牡蠣・ホタテなど）を楽しむため	8

八戸都市圏（N=75）	
1 道の駅やスーパーで買い物するため	28
2 リアス式海岸や山田湾など海辺の眺望を楽しむため	26
3 浜焼き（牡蠣・ホタテなど）を楽しむため	16
4 飲食店で休憩するため	13
5 仕事のため	10

盛岡都市圏（N=281）	
1 道の駅やスーパーで買い物するため	95
2 リアス式海岸や山田湾など海辺の眺望を楽しむため	83
3 海水浴を楽しむため	66
4 飲食店で休憩するため	59
5 仕事のため	57

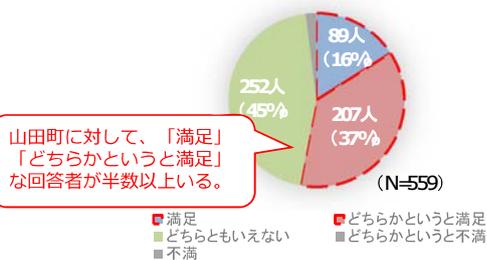
三陸沿岸（N=111）	
1 道の駅やスーパーで買い物するため	53
2 仕事のため	24
2 知人、友人、友達と会うため	24
4 飲食店で休憩するため	22
5 コンビニやガソリンスタンドを利用するため	21

5

Q2.山田町の認知度

- ✓ 山田町の「景観」、「食べもの」、「体験・イベント」に対する満足度は概ね高く、特に「食べもの」に関しては、潜在的な観光資源としても挙げられる。

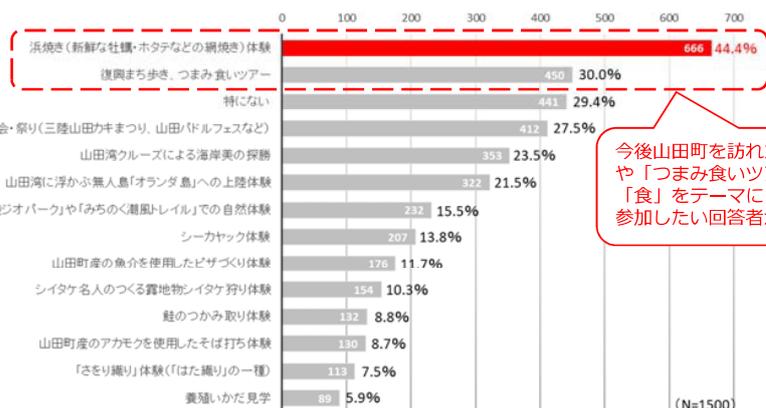
■山田町を訪れた際の満足度



■「満足」「どちらかというと満足」と回答した理由

- 山田湾をはじめとする「景観」
 - ・綺麗な海と景色を楽しむことができました。
 - ・養殖棚がたくさん浮かんでいる光景が牡観
 - 山田町の「食べもの」
 - ・浜焼きがこれまでに食べた魚介系の料理の中で一番おいしいと思ったからです。
 - ・新鮮な海の幸を堪能することが出来ました。／・海鮮ものが安くて豊富
 - 山田町での「体験・イベント」
 - ・海水浴とキャンプをする環境が充実していた。
 - ・小島で海水浴とバーベキューを体験したが、海が綺麗で温かく非常に楽しかった。
 - ・山田湾での海釣り／地理的には不便だが、それ以上の価値がある体験ができた。
- .etc

■山田町を訪れた際に参加したいコンテンツ

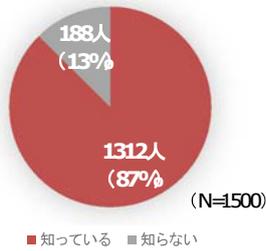


6

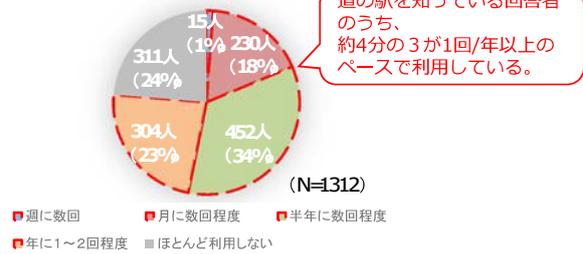
Q3.「道の駅」について

- ✓ 道の駅を知っている回答者のうち、1回/年以上のペースで利用している回答者は75%程いる。
- ✓ 道の駅を利用するにあたり、主にカップル・夫婦で利用する方が約3割、家族で利用する方が4割以上いるが、道の駅での購買行動の意思決定は女性が行っている場合が多い。

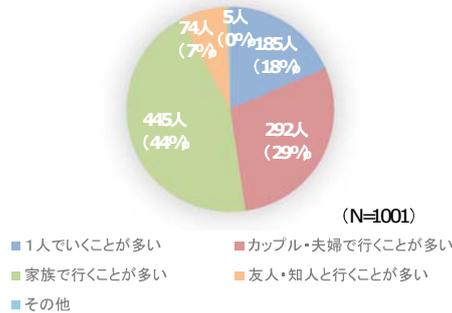
■道の駅の認知度



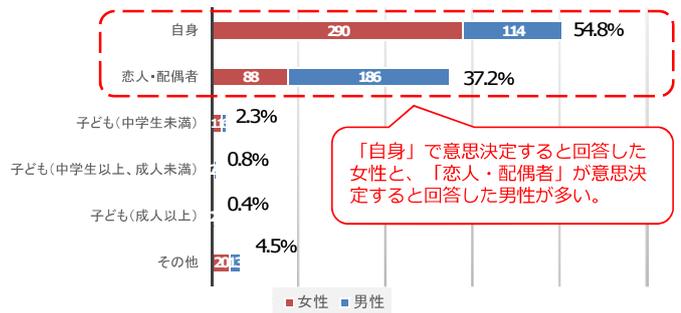
■道の駅の利用頻度



■道の駅を利用する際の同伴者



■道の駅における購買行動の意思決定者 (N=737)

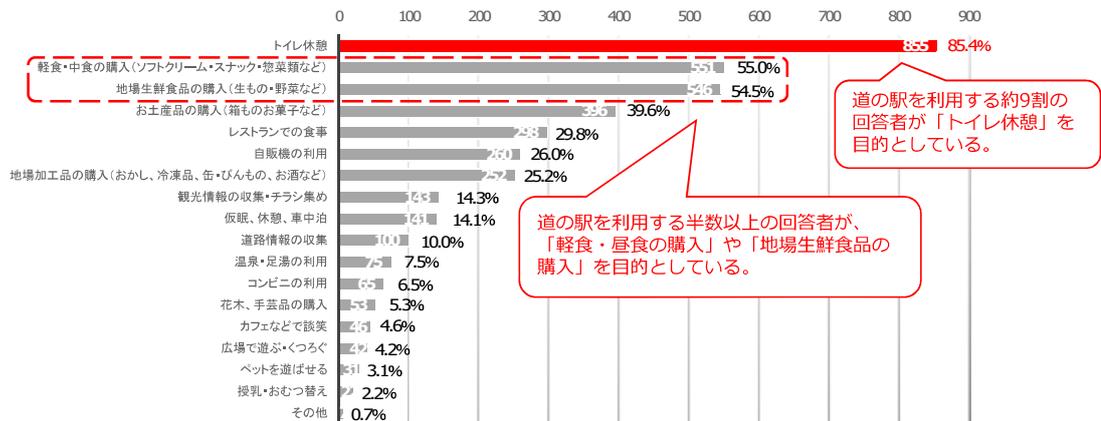


7

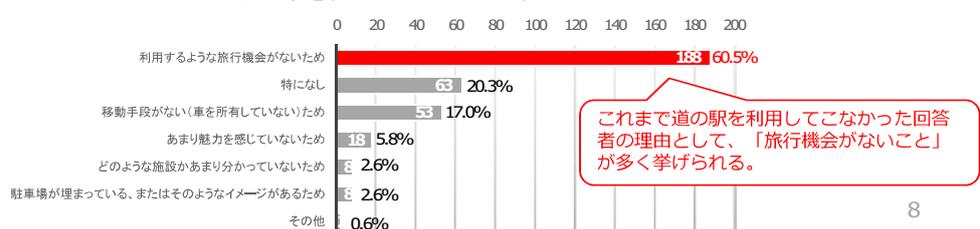
Q3.「道の駅」について

- ✓ 「トイレ休憩」を目的として道の駅を利用する回答者が圧倒的に多いと同時に、軽食・中食や地場生鮮食品の購入を目的とする利用者も多い。
- ✓ 道の駅を利用していない回答者は主に、「旅行機会がない」ことを要因としている。

■道の駅を利用する目的 (N=1001)



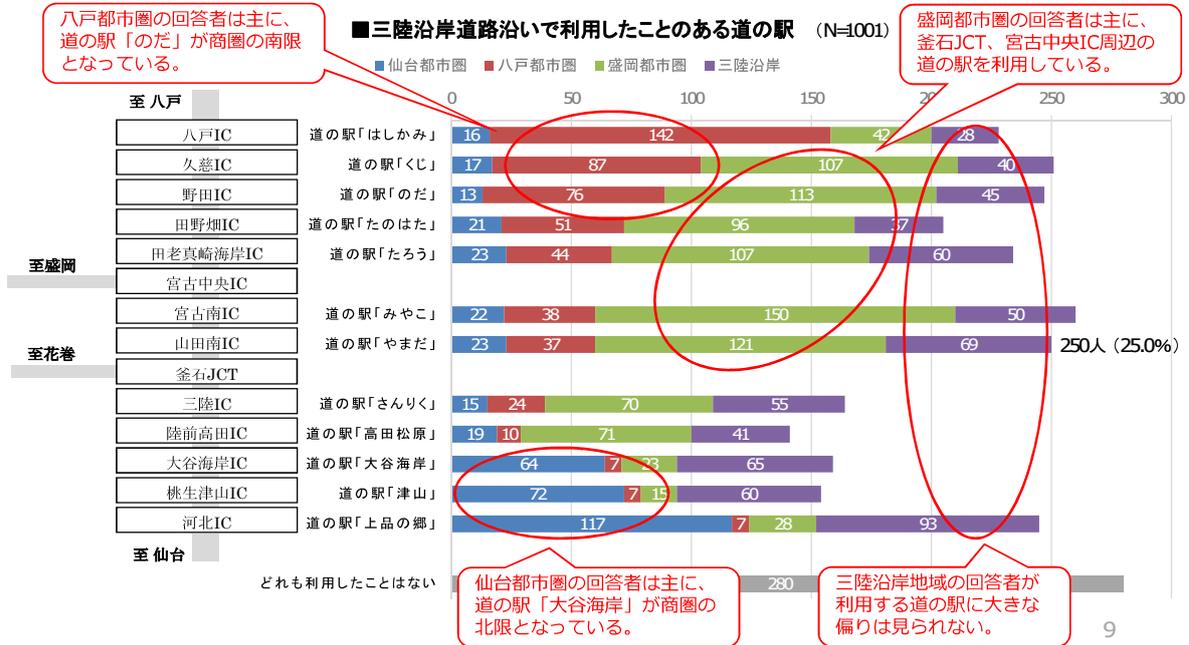
■道の駅を利用してこなかった理由 (N=311)



8

Q3.「道の駅」について

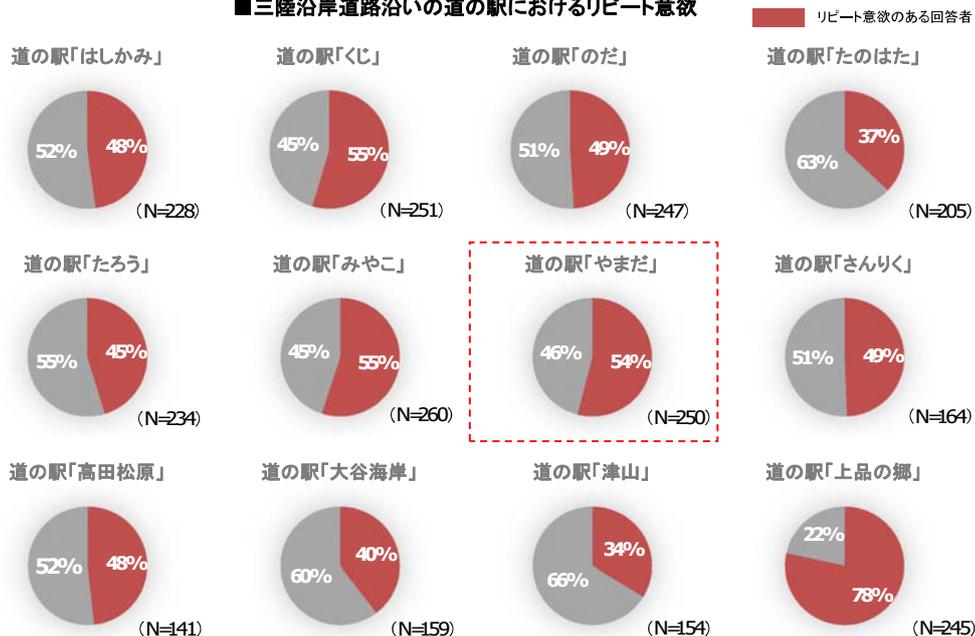
- ✓ 回答者の約4分の1が道の駅「やまだ」を利用したことがある。
- ✓ 仙台都市圏の回答者は道の駅「上品の郷」、八戸都市圏の回答者は道の駅「はしかみ」、盛岡都市圏の回答者は道の駅「みやこ」や道の駅「やまだ」を中心に利用しており、距離が遠くなるに従い利用者が減少している。
- ✓ 三陸沿岸地域の回答者が利用する道の駅に関しては、大きな偏りは見られない。



Q3.「道の駅」について

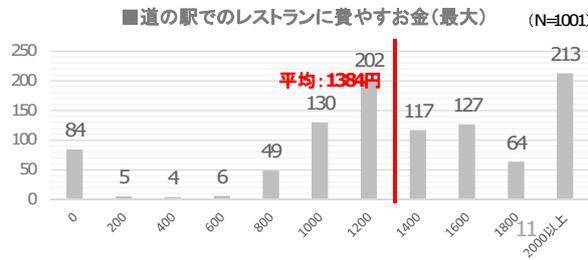
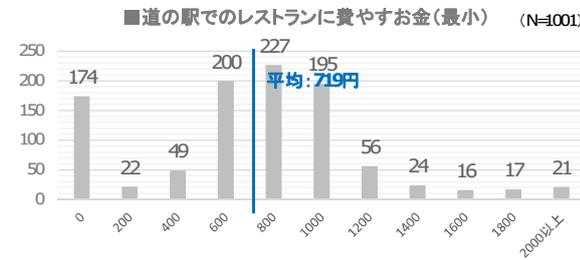
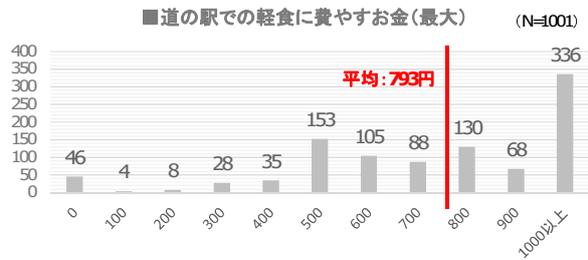
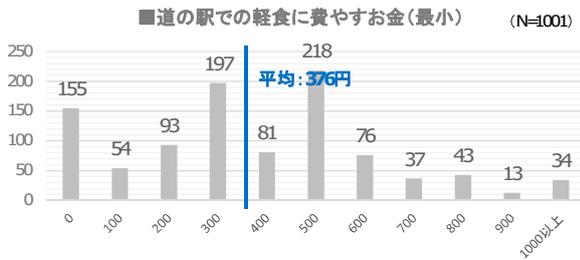
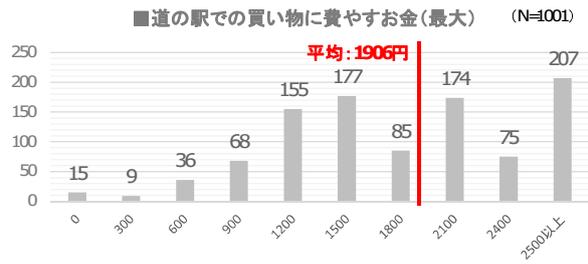
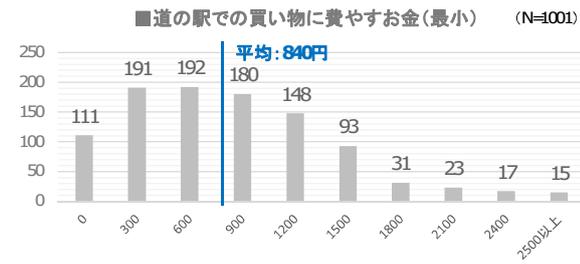
- ✓ 道の駅「やまだ」を利用したことがある回答者の半数以上が、再度訪れたいと回答している。
- ✓ 三陸沿岸道路沿いの道の駅の中では、道の駅「上品の郷」に対するリピート意欲が突出して高い一方、他の道の駅に対してのリピート意欲は、概ね似たような結果となっている。

■三陸沿岸道路沿いの道の駅におけるリピート意欲



Q3.「道の駅」について

- ✓ 道の駅での消費金額の平均は、「【買い物】 min : 840円、max : 1906円」「【軽食】 min : 376円、max : 793円」「【レストラン】 min : 719円、max : 1384円」となっている。



Q3.「道の駅」について

- ✓ 「ここならではの」特徴や、休憩施設としての機能の強化を求める声が多く見られる。

■今後の「道の駅」整備に向けた意見・要望

➤ 地場産品と、それらを利用した飲食スペースの充実

- ・ 地場産を使った料理などを提供するスペースなどがあると嬉しい。
- ・ 道の駅で売っている物を使った料理の作り方を教えてもらえる
- ・ 地場産品など、ここでしか購入できないものの拡充を望みます。
- ・ オススメの物などが大きく取り上げられてると分かりやすく良いと思う。
- ・ 特産品、ここでしかない商品(特産品、食品)
- ・ 地元の特産品を使って調理した屋台のような出店がいくつか連なれば、レストランよりも気軽に買って飲食できるし、お祭りのように楽しい雰囲気になるので週末だけでもあればいいなと思います。 .etc

➤ レストラン／中食・軽食の充実

- ・ ご当地ソフトクリーム(月替わり)
- ・ その土地ならではのオシャレなカフェがいいな
- ・ 地元の食事どころとの連携
- ・ 焼き立てパン
- ・ そこに行かなければ無いような美味しい手作りスイーツ、料理、手作りジュース、カフェのような健康を考えたバランスの良いランチメニューなど .etc

➤ アウトドア、B.B.Qなどを楽しめる屋外空間の設置

- ・ 海鮮焼き
- ・ 必ず犬が一緒なので屋根付きの屋外で食事が出来るスペース
- ・ オートキャンプ場の整備
- ・ テントを張れるスペースや簡単な放牧場
- ・ キャンプが出来る公園 .etc

➤ 子どもが楽しめる空間の整備

- ・ 子どもたちが遊べるアスレチック
- ・ 子供が遊べる広場や公園や芝生
- ・ 車移動で疲れている小さい子が遊べる場所があるとありがたい!
- ・ 子供がのびのび遊べる施設。中なら道具が充実していて外なら水遊びができるなど。
- ・ 子供が楽しめる感じになればいいと思う。道の駅は年配利用が多いイメージだから。 .etc

➤ ペットと楽しめる空間の整備

- ・ ペットの休憩が出来るスペース
- ・ ドッグラン
- ・ ペットと一緒に入れるレストラン .etc

➤ 駐車場機能の充実

- ・ 駐車場をもっと広くしてほしいです。
- ・ 屋根付きの駐車場
- ・ ハイブリッド車対応の電気スタンドとガソリンスタンドがあると嬉しい。
- ・ 洗車スペース
- ・ どこが空いているかわかる表示板が入り口付近にあるとありがたい。 .etc

➤ トイレ機能の充実

- ・ トイレをきれいに保ってほしい
- ・ ペピールームの充実。
- ・ ウォッシュレットがあるといい
- ・ 車いすなので、バリアフリーでトイレも専用があると嬉しい。
- ・ トイレが綺麗 男子トイレにもおむつ台を設置してほしい
- ・ トイレ内の照明をもっと明るくしてほしい .etc

➤ 休憩・宿泊設備の充実／情報提供設備の充実

- ・ 足湯
- ・ 周辺地域の観光地を視覚的に紹介する設備。
- ・ 販売している全アイテムをスマホで確認出来る
- ・ 深夜も休憩できる空間
- ・ 足を伸ばして休憩できるところ／お昼寝の部屋
- ・ たた座って休めるコーナーを増やしてほしい
- ・ 店舗を利用しなくても仮眠できるようにしてほしい
- ・ 映像での町紹介
- ・ レアな観光情報 .etc

➤ その他

- ・ どの道の駅でも共通のポイントカードを導入
- ・ 車を所有していなくても利用出来る様な移動手段／駅とのシャトルバス
- ・ イベントスペース／楽しいイベント
- ・ Wi-Fi設備／携帯の充電設備
- ・ 銀行ATM／コンビニの併設／薬局の併設
- ・ キャッシュレス化
- ・ 地元の特産品に縛られない自由な出店 屋台村のようなもの
- ・ ドライブスルー出来る店
- ・ 営業時間の延長
- ・ 完全禁煙にしてほしい。分煙にするなら煙の漏れない喫煙室を設置してほしい。
- ・ 写真撮れるところ .etc



岩手県下閉伊郡
山田町

山田町「新たな観光拠点」
基本構想・基本計画
発行年月：令和2年3月
発行者：山田町